

日常生活と保健福祉に関するアンケート調査
結果報告書

平成26年3月

神石高原町

目 次

1	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の対象	1
(3)	調査の内容	1
(4)	調査の方法	2
(5)	調査の期間	2
(6)	調査票の回収状況	2
2	調査結果の概要	3
(1)	調査票の記入者	3
(2)	家族や生活状況について	3
(3)	運動・とじこもりについて	14
(4)	転倒等について	24
(5)	口腔・栄養について	26
(6)	物忘れについて	40
(7)	日常生活について	47
(8)	社会参加について	54
(9)	健康について	61
(10)	在宅サービスについて	74
(11)	今後の暮らし方について	80
(12)	自由意見	89
3	調査結果から見た留意事項	90

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、神石高原町第6期高齢者プラン策定の参考とするために、高齢者の日常生活の状況、介護保険及び保健福祉サービスの利用状況やニーズ等を把握しました。

(2) 調査の対象

調査の対象は、要支援1～要介護3までの方694人、要支援・要介護認定認定を受けていない方1,084人の合計1,778人です。

(3) 調査の内容

調査の内容は、国の示した調査項目に町独自の調査項目を加えています。

大区分	小区分
(1) 記入者	・調査票の記入者
(2) 家族や生活状況について	・住まい先、介護度、性別、年齢、家族構成、家族の人数 ・日中一人になること、介護・介助の状況・必要性、介護・介助が必要になった原因、主な介護・介助者の状況 ・年金の種類、現在の暮らしの状況 ・住宅の種類、住宅の所有状況、主に生活している部屋の階数、主に生活している部屋が2階以上の人のエレベーターの有無
(3) 運動・閉じこもりについて	・日常の歩行や外出等の状況（階段の昇降、椅子からの立ち上がり、歩行時間、歩行距離、外出回数）、外出を控えている理由 ・買い物の頻度、散歩の頻度、外出する際の移動手段 ・1日の歩行時間、行っているスポーツ・運動の内容 ・いきいき体操の視聴状況、いきいき体操の放送時刻に対する希望
(4) 転倒等について	・転んだこと、転倒の不安、背中丸み、歩く速度の変化、杖の使用
(5) 口腔・栄養について	・BMI（身長と体重） ・体重の変化、固いものの咀嚼、口の渇き、歯磨き、定期的な歯科検診、入れ歯の使用 ・1日の食事の回数、自分の食生活の評価、食事を抜くこと、誰かと食事をともにする機会、食事をともにする人 ・配食サービスの利用の有無、配食サービスに対する満足度、配食サービスへの改善要望 ・自分の食生活をよりよくするために大切なこと ・言葉の認知度・実践状況
(6) 物忘れについて	・物忘れの状況、活動（食事、着替え等）の判断、自分の考えの伝達、認知症への不安、認知症になった場合に暮らしたい場所 ・認知症サポーター制度の認知状況、 ・認知症を予防するために気をつけていること ・通帳や金銭管理が難しくなった時に管理してくれる人の有無
(7) 日常生活について	・一人で外出すること ・日用品や食料品の買い物を自分ですること、日用品や食料品の買い物を自分でしない人の日用品や食料品の買い物を主にしてくれる人 ・自分で食事の用意をすること、自分で食事の用意をしない人の食事の用意を主にしてくれる人 ・日常生活の状況（請求書の支払い、預貯金の出し入れ、食事、寝床、座っていること、洗顔、トイレ、入浴、歩行、階段の昇降、着替え、大便の失敗、尿失禁、家事全般）

大区分	小区分
(8) 社会参加について	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加の状況（書類記入，読書，友人等の訪問，相談への対応，見舞い，若い人との会話，趣味・生きがい） ・町内会・自治会等の会・グループ活動への参加状況 ・社会参加活動への参加状況や仕事について ・心配事や愚痴を聞いてくれる人，聞いてあげる人，寝込んだ時に看病してくれる人，看病してあげる人 ・家族や友人・知人以外の相談相手の有無，相談する人 ・友人・知人と会う回数，1か月以内に会った友人・知人の人数，よく会う知人・友人の関係
(9) 健康について	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態，現在治療中，または後遺症のある病気 ・服薬している薬の種類，市販の薬の使用の有無 ・通院の有無，通院の回数，通院への介助の必要，通院先 ・町外の病院・診療所に通院している理由 ・病気や体調不良の時に困ること ・飲酒，喫煙の状況 ・最近2週間の生活の状況
(10) 在宅サービスについて	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスの利用状況，利用している介護サービス，介護サービスを利用していない理由 ・福祉サービスの利用状況 ・自宅で暮らし続けるために利用したいサービス ・災害時の避難支援を受けることについて ・住んでいる住宅への不満の有無，住んでいる住宅の不満な点 ・今後の住まい方についての意向，便利な場所に移り住む場合の住宅のタイプについて，自宅に住み続けたい理由 ・施設や公営住宅に入所・入居が必要になった場合の身元保証人の有無 ・介護が必要になった時に希望する暮らし方

(4) 調査の方法

調査票の配布回収は，郵送で行いました。

(5) 調査の期間

調査の期間は，平成26(2014)年1月14日～1月31日までの間としましたが，できるだけ多くの住民の意見を参考にするため，2月28日までに回収した調査票を有効としました。

(6) 調査票の回収状況

アンケート調査票の配布数1,778件，回収数は1,259件になっています。
回収率は70.8%で，高齢者の介護及び保健福祉サービスに対する関心の高さを物語っています。
前回アンケート調査の回収率は65.4%で，今回アンケート調査ではさらに回収率が高くなっています。

本文の記載について

- 本文中及び各表中の比率は，原則として小数点以下第2位を四捨五入しました。したがって，合計と内訳の計が一致しない場合があります。
- アンケート調査において複数回答の項目は，回答の%の合計が100%を超えています。

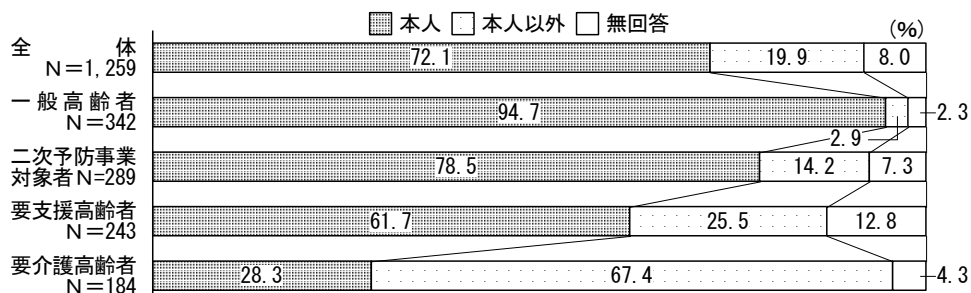
2 調査結果の概要

(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「本人」72.1%、「本人以外」19.9%で「本人」が大部分を占めています。

介護度別にアンケート記入者が「本人」の割合みると、一般高齢者は94.7%で最も割合が高く、次いで二次予防事業対象者78.5%、要支援高齢者61.7%、要介護高齢者28.3%の順で、要介護高齢者については非常に低い割合になっています。

図 調査票の記入者

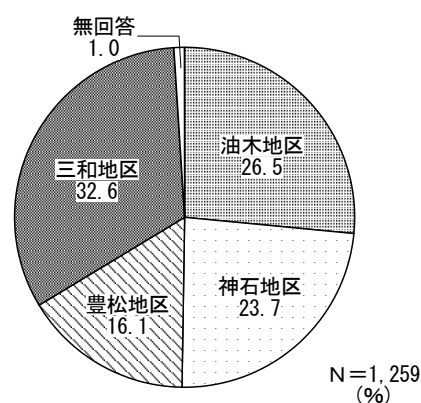


(2) 家族や生活状況について

ア 住まい先

回答者の住まい先は、「三和地区」が32.6%で最も割合が高く、次いで「油木地区」26.5%、「神石地区」23.7%、「豊松地区」16.1%の順です。

図 住まい先

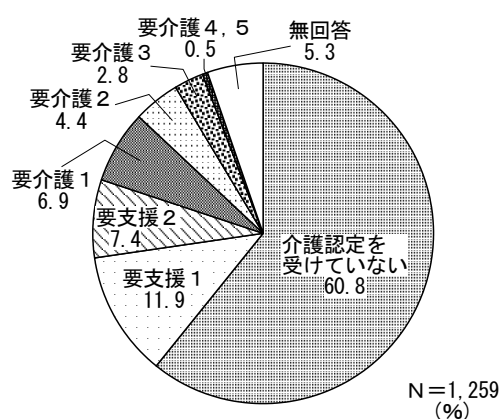


イ 介護度

介護度は、「介護認定を受けていない」と答えた人が60.8%で最も割合が高くなっています。

また、要支援1～2が19.3%、要介護1～3が14.1%、要介護4、5が0.5%です。

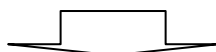
図 介護度



二次予防事業対象者は、アンケート調査結果を踏まえて、国の示している次の基準で抽出しました。

表 二次予防事業対象者チェックリスト

区分	番号	質問項目	回答		
① 10項目以上	日常生活	1	バスや電車で1人で外出していますか	0. はい	1. いいえ
		2	日用品の買い物をしていますか	0. はい	1. いいえ
		3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ
		4	友達の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ
		5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ
	②運動器の機能向上 (3項目以上)	6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ
		7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ
		8	15分くらい続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ
		9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ
	③栄養改善 (2項目)	10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ
		11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ
	④口腔機能の向上 (2項目以上)	12	身長 cm 体重 kg (BMI =) BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)が18.5未満の場合に該当とする。	1. はい	0. いいえ
		13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ
		14	お茶や汁物でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ
	閉じこもり	15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ
		16	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ
	認知度	17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ
		18	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると言われますか	1. はい	0. いいえ
		19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ
		20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ



次のいずれかに該当する者を二次予防事業対象者の候補者として選定

(回答が1の項目数をカウント)

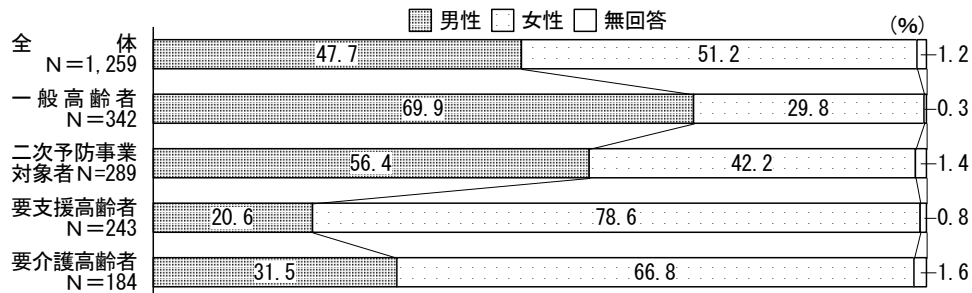
- ① 1から20までの項目のうち10項目以上該当
- ② 運動器の機能向上5項目のうち3項目以上に該当
- ③ 栄養改善2項目すべて該当
- ④ 口腔機能の向上3項目のうち2項目以上に該当

ウ 性別

回答者の性別は、「男性」47.7%、「女性」51.2%でほぼ半々です。

介護度別にみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者で「男性」の割合が高くなっています。

図 性別

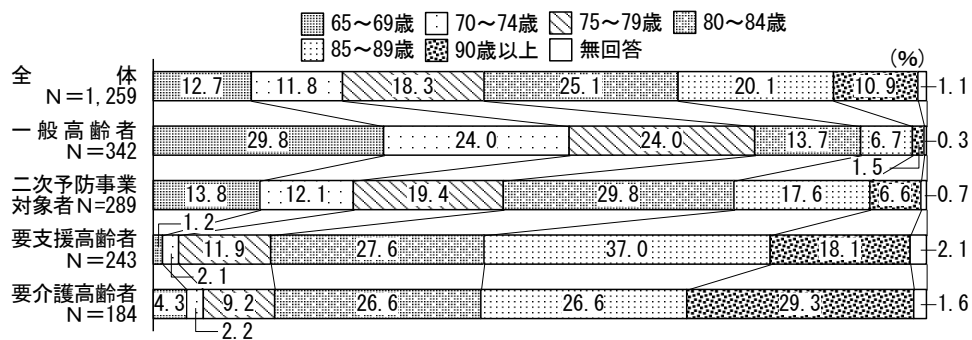


エ 年齢

回答者の年齢は、「80～84歳」が25.1%で最も割合が高く、次いで「85～89歳」20.1%、「75～79歳」18.3%、「65～69歳」12.7%、「70～74歳」11.8%、「90歳以上」10.9%の順で、前期高齢者約1/4、後期高齢者約3/4になっています。

介護度別に後期高齢者の割合をみると、要支援高齢者が94.6%で最も割合が高く、次いで要介護高齢者91.7%、二次予防事業対象者73.4%、一般高齢者45.9%の順で、要支援高齢者及び要介護高齢者は9割以上とほとんどを占めています。

図 年齢



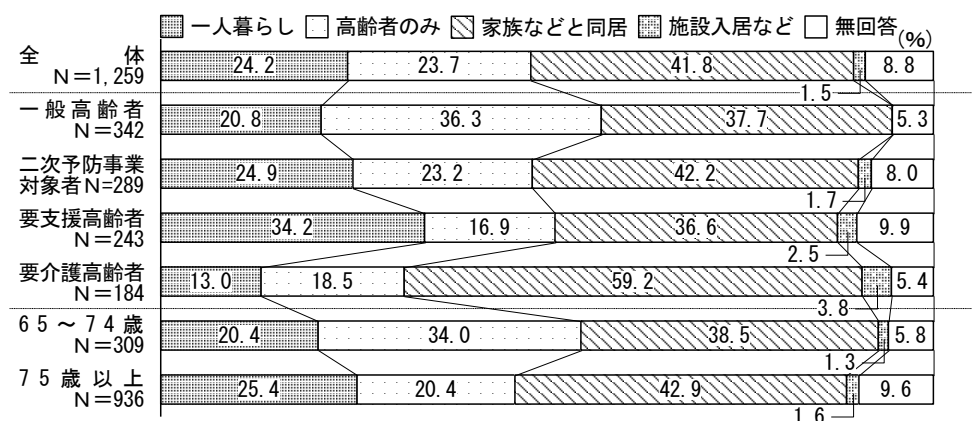
オ 家族構成

回答者の家族構成は、「家族など同居（二世帯住宅を含む）」が41.8%で最も割合が高く、次いで「一人暮らし」24.2%、「高齢者のみ」23.7%等の順で、「一人暮らし」世帯が約1/4を占めています。

介護度別に「一人暮らし」世帯の割合をみると、要支援高齢者で36.2%と最も割合が高く、次いで二次予防事業対象者24.9%、一般高齢者20.8%、要介護高齢者13.0%の順になっており、要介護高齢者の1割以上が「一人暮らし」世帯になっています。

年齢別に「一人暮らし」世帯をみると、65～74歳20.4%、75歳以上25.4%です。

図 家族構成

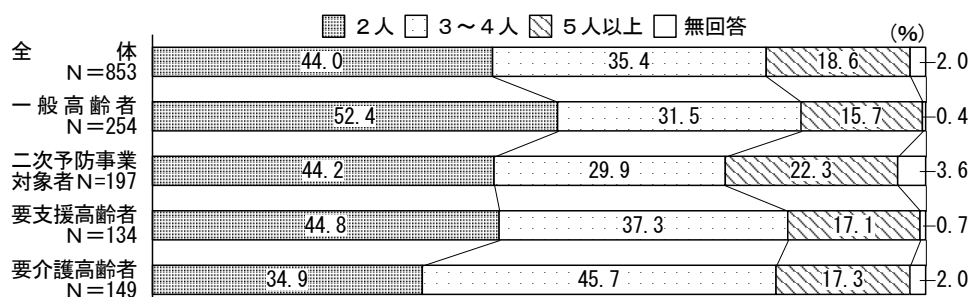


カ 家族の人数

「一人暮らし」と答えた人以外の家族の人数は、「2人」と答えた人が44.0%で最も割合が高く、次いで「3～4人」35.4%、「5人以上」18.6%の順です。

介護度別に同居家族の人数をみると、「2人」と答えた人は一般高齢者で51.4%ですが、介護度が重くなるにつれて減少し、要介護高齢者で34.9%になっています。一方、「3～4人」の人は一般高齢者で31.5%ですが、介護度が重くなるにつれて増加し、要支援高齢者及び要介護高齢で4割前後になっています。

図 家族の人数



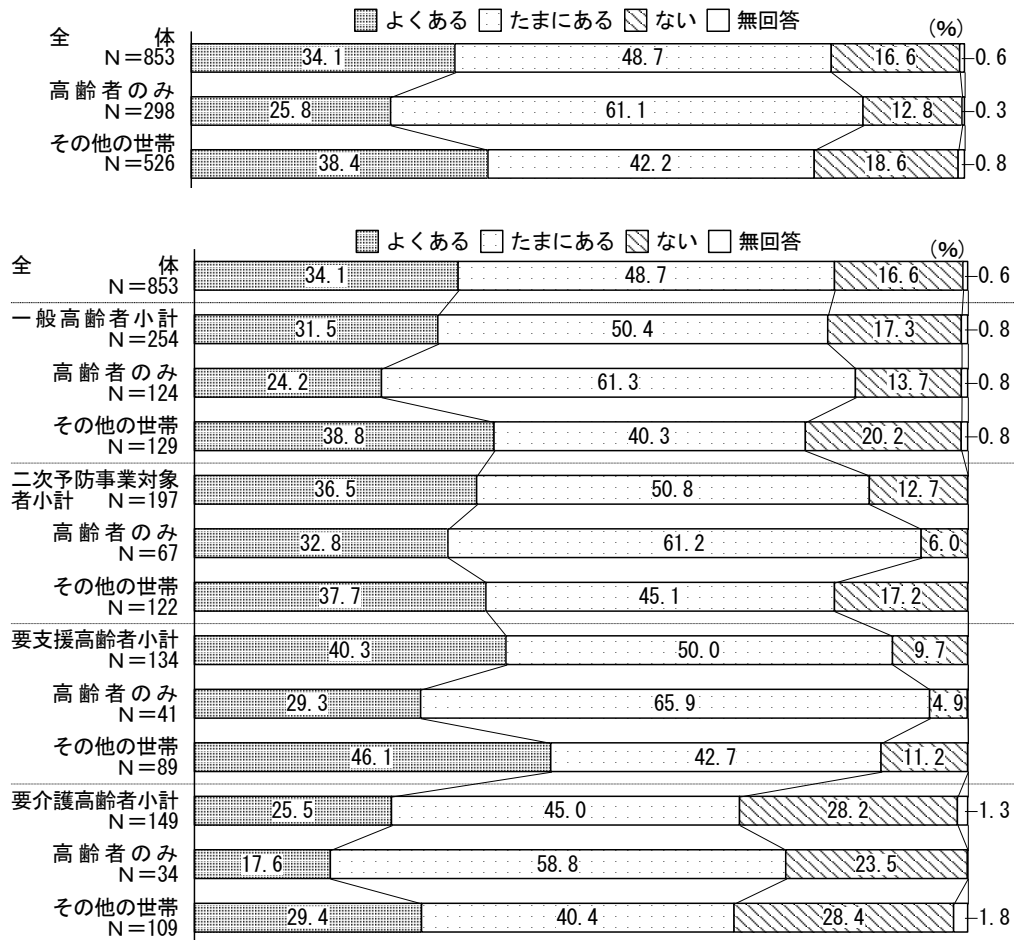
キ 日中一人になること

同居家族がいる人で日中1人になることは、「たまにある」と答えた人が48.7%で最も割合が高く、次いで「よくある」34.1%、「ない」16.6%の順で、日中1人によくなる人が約1/3を占めています。

家族構成別に「よくある」と答えた人の割合をみると、高齢者のみ25.8%、その他の世帯38.4%で、その他の世帯での割合が高くなっています。

介護度別家族構成別に「よくある」と答えた人の割合をみると、各介護度ともにその他の世帯の割合が高くなっています。

図 日中一人になること



ク 介護・介助の状況について

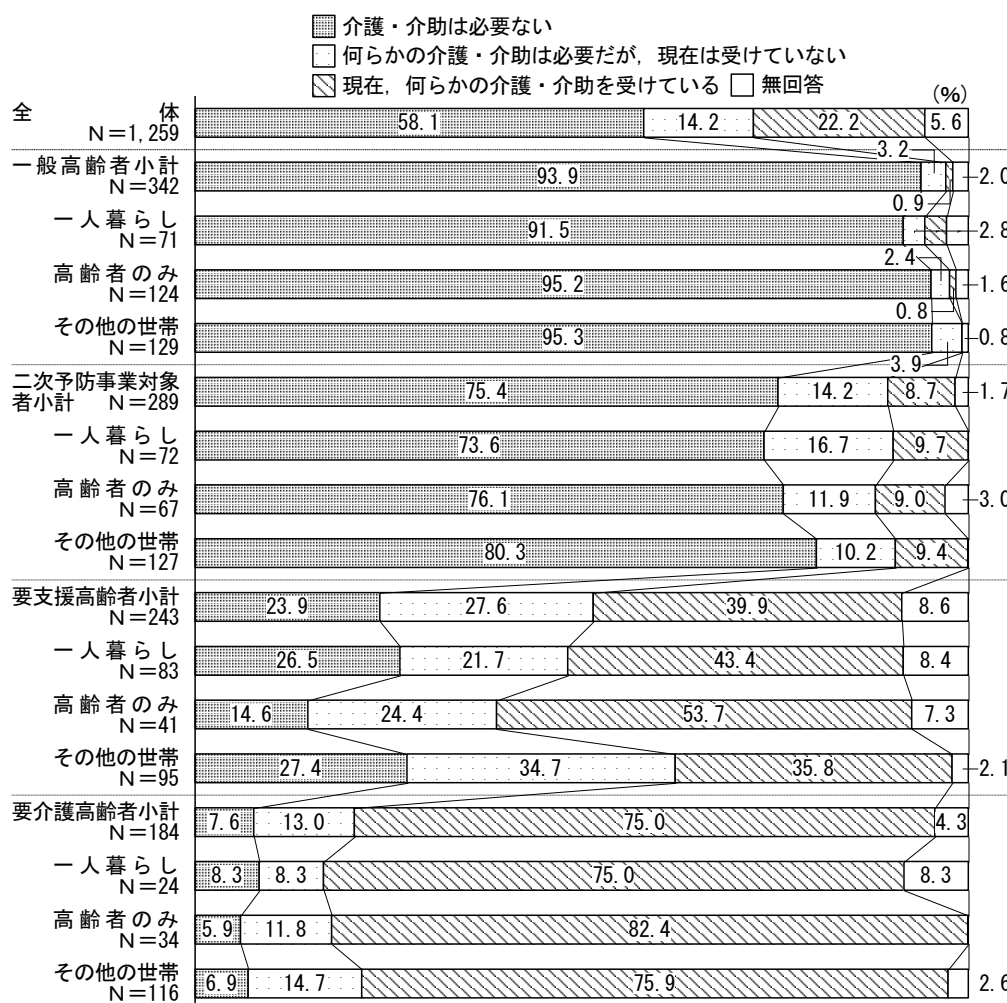
(7) 介護・介助の状況・必要性

普段の生活での介護・介助の状況・必要性は、「介護・介助は必要ない」が58.1%で最も割合が高く、次いで「現在、何らかの介護・介助を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」22.2%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」14.2%の順で、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と答えた人が1割以上になっています。

介護度別に「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と答えた人をみると、要支援高齢者が27.6%で最も割合が高く、次いで二次予防事業対象者14.2%、要介護高齢者13.0%、一般高齢者3.2%の順で、要支援高齢者において割合が高くなっています。

また、一人暮らしの人について介護度別に「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と答えた人の割合をみると、要支援高齢者で21.7%と最も割合が高く、次いで二次予防事業対象者16.7%、要介護高齢者8.3%、一般高齢者2.8%になっており、二次予防事業対象者、要支援高齢者及び要介護高齢者で一定割合を占めています。

図 介護・介助の状況・必要性

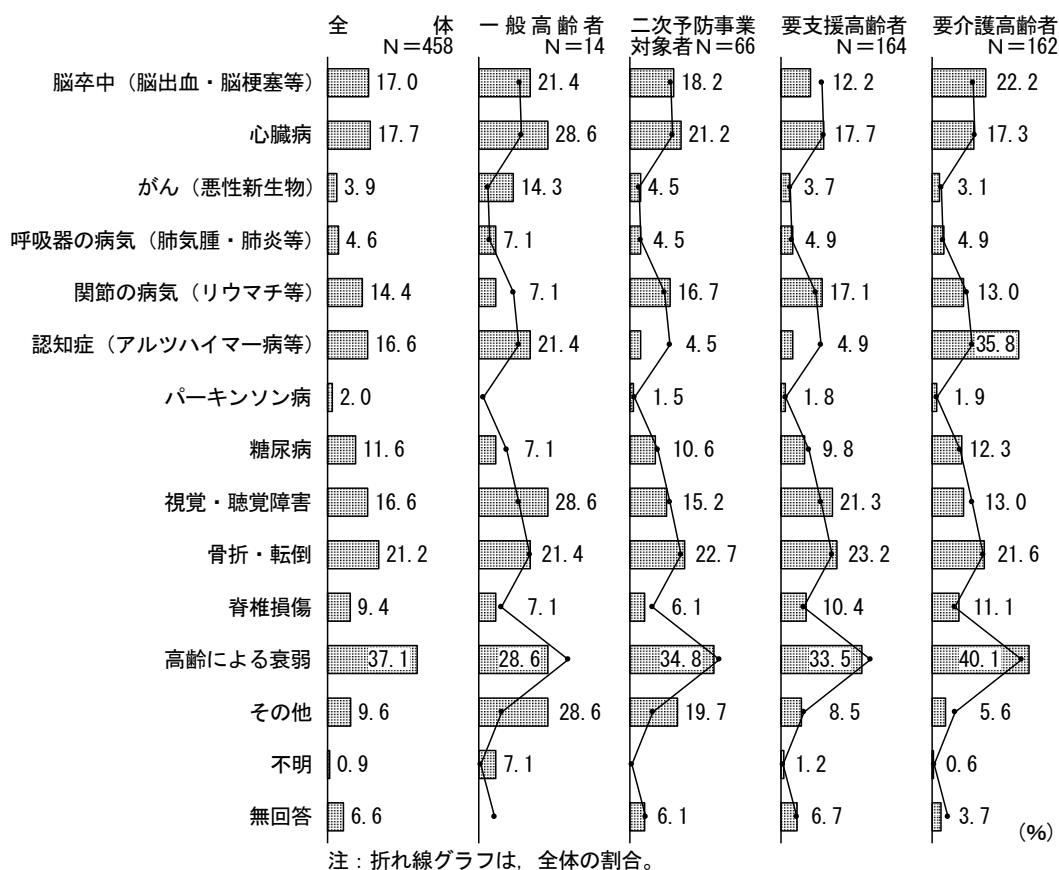


(イ) 介護・介助が必要になった原因

介護・介助が必要と答えた人の介護・介助が必要になった原因をみると、「高齢による衰弱」を挙げた人が37.1%で最も割合が高く、次いで「骨折・転倒」21.2%、「心臓病」17.7%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」17.0%、「認知症（アルツハイマー病等）」及び「視覚・聴覚障害」16.6%、「関節の病気（リウマチ等）」14.4%、「糖尿病」11.6%等の順で、多岐にわたっています。

介護度別にみると、一般高齢者では「心臓病」、「視覚・聴覚障害」及び「高齢による衰弱」が28.6%で最も割合が高くなっています。その他の介護度では、各介護度ともに「高齢による衰弱」と答えた人の割合が30~40%台で最も割合が高くなっています。その他の項目をみると、二次予防事業対象者では「骨折・転倒」及び「心臓病」、要支援高齢者では「骨折・転倒」及び「視覚・聴覚障害」が20%台になっています。要介護高齢者では「認知症（アルツハイマー病等）」が35.8%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」及び「骨折・転倒」が20%台になっており、「骨折・転倒」の割合は各介護度で上位を占めています、そのほかの疾病は介護度によって異なっています。

図 介護・介助が必要になった原因（複数回答：いくつでも）



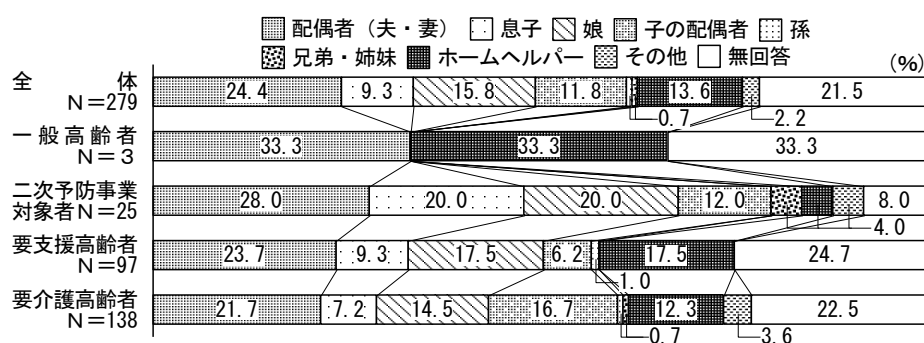
(ウ) 主な介護・介助者の状況

① 主な介護・介助者

主な介護・介助者は、「配偶者（夫・妻）」と答えた人が24.4%で最も割合が高く、次いで「娘」15.8%、「ホームヘルパー」13.6%、「子の配偶者」11.8%、「息子」9.3%等の順です。

介護度別に主な介護・介助者をみると、各介護度ともに「配偶者（夫・妻）」の割合が最も高くなっています。その他の項目をみると、二次予防事業対象者では「息子」及び「娘」が20%台、要支援高齢者では「娘」及び「ホームヘルパー」が17.5%になっています。また、要介護高齢者では「娘」、「子の配偶者」及び「ホームヘルパー」が10%台になっています。

図 主な介護・介助者

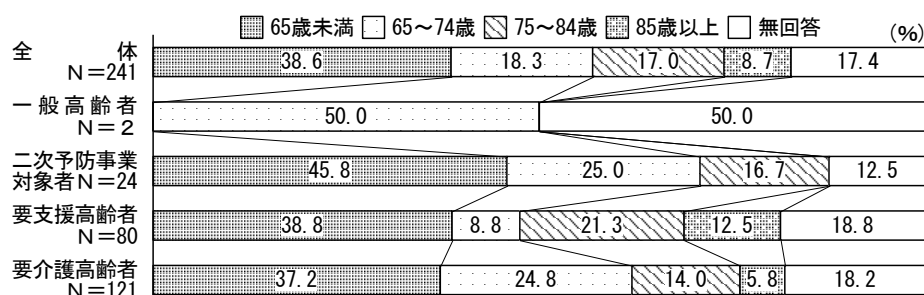


② 主な介護・介助者（ホームヘルパーを除く）の年齢

主な介護・介助者（ホームヘルパーを除く）の年齢は、「65歳未満」が35.6%で最も割合が高く、次いで「65～74歳」18.3%、「75～84歳」17.0%、「85歳以上」8.7%等の順で、75歳以上の高齢者が約1/4を占めています。

介護度別に主な介護・介助者（ホームヘルパーを除く）の年齢をみると、要支援高齢者では75歳以上の高齢者の割合が33.8%と割合が高くなっています。

図 主な介護・介助者（ホームヘルパーを除く）の年齢

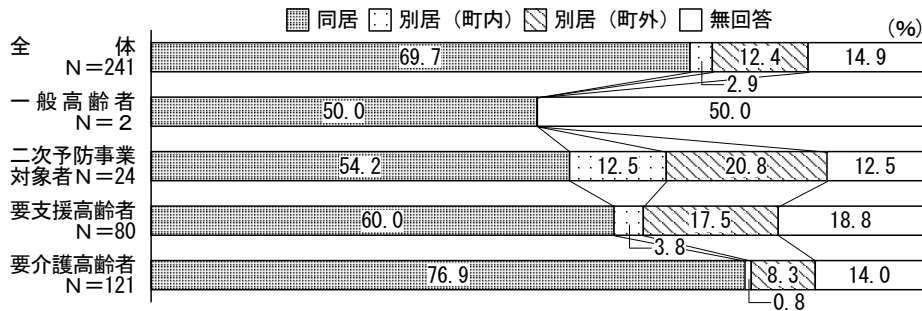


③ 主な介護・介助者との同居の有無

主な介護・介助者（ホームヘルパーを除く）との同居の有無については、「同居」が69.7%で約7割を占めており、次いで「別居（町外）」12.4%、「別居（町内）」2.9%の順です。

介護度別に主な介護・介助者（ホームヘルパーを除く）との同居の有無をみると、要介護高齢者では「同居」が76.9%で大部分を占めています。

図 主な介護・介助者との同居の有無



④ 主な介護・介助者と別居していると答えた人の介護・介助者の訪問回数

主な介護・介助者と別居していると答えた人の介護・介助者の来訪回数（ホームヘルパーを除く）は、「週1回程度」が34.3%で最も割合が高く、次いで「週2回以上」及び「月1回程度」20.0%、「月2～3回程度」14.3%等の順です。

図 主な介護・介助者と別居していると答えた人の介護・介助者の訪問回数

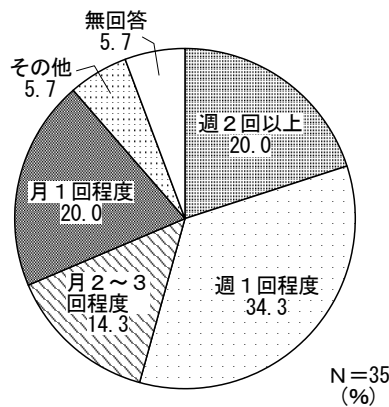


表 主な介護・介助者と別居していると答えた人の介護・介助者の訪問回数（単位：件，%）

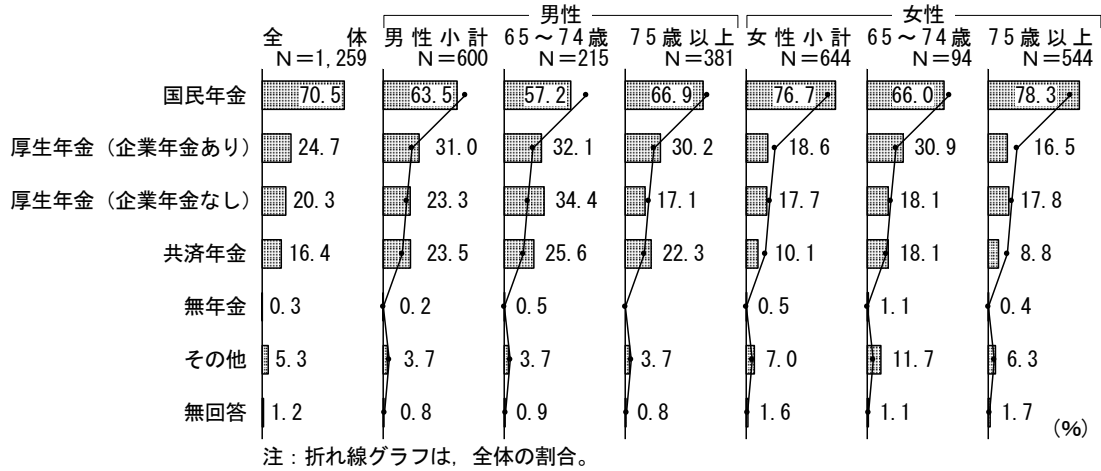
区分	全体	週2回以上	週1回程度	月2～3回程度	月1回程度	その他	無回答
全体	35	7	12	5	7	2	2
	100.0	20.0	34.3	14.3	20.0	5.7	5.7
一人暮らし	26	3	10	5	5	1	2
	100.0	11.5	38.5	19.2	19.2	3.8	7.7
高齢者のみ	1	-	1	-	-	-	-
	100.0	-	100.0	-	-	-	-
その他の世帯	7	3	1	-	2	1	-
	100.0	42.9	14.3	-	28.6	14.3	-

ケ 年金の種類

回答者の年金の種類は、「国民年金」が70.5%で最も割合が高く、次いで「厚生年金（企業年金あり）」24.7%、「厚生年金（企業年金なし）」20.3%、「共済年金」16.4%等の順です。

男女別にみると、「国民年金」が男性で63.5%、女性で76.7%になっており、男女ともに割合が高くなっています。また、男女ともに年齢が高くなるにつれて「国民年金」の割合が高くなっています。

図 年金の種類（複数回答：いくつでも）

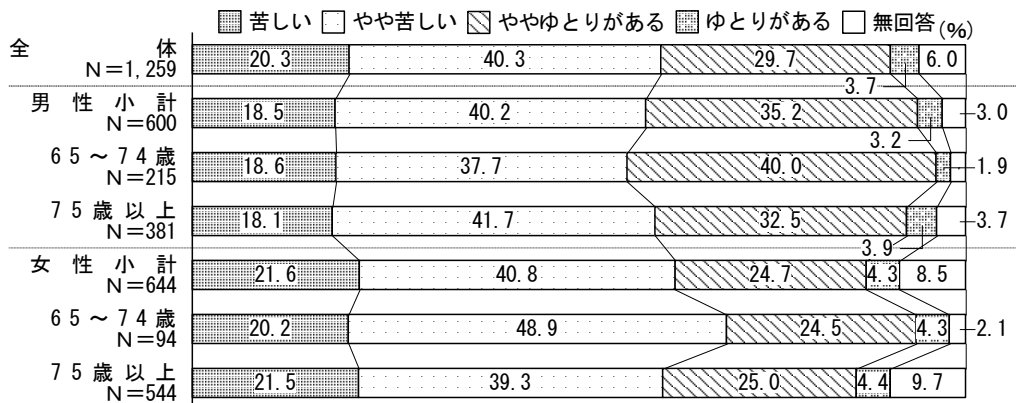


コ 現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況は、「苦しい」20.3%、「やや苦しい」40.3%で、これらを合わせた暮らしが苦しいと答えた人の割合が6割以上になっています。

男女別年齢別に苦しいと答えた人をみると、全体とほぼ同様の割合になっています。

図 現在の暮らしの状況

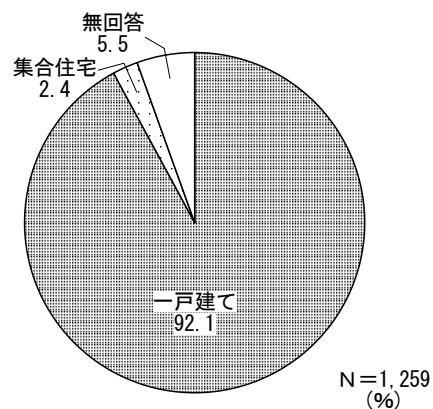


サ 住宅の状況

(ア) 住宅の種類

現在住んでいる住宅の種類は、「持ち家」が92.1%でほとんどを占めています。

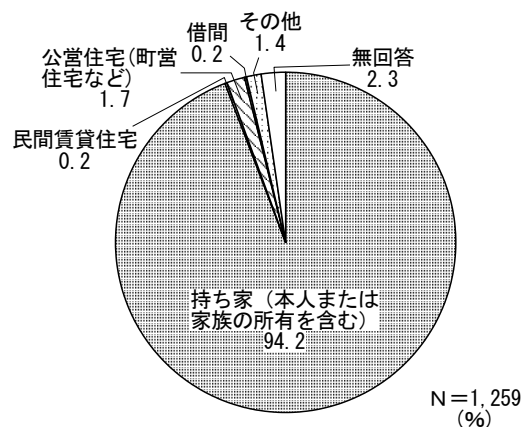
図 住宅の種類



(イ) 住宅の所有状況

現在住んでいる住宅の所有状況は、「持ち家（本人または家族の所有を含む）」が94.2%でほとんどを占めています。

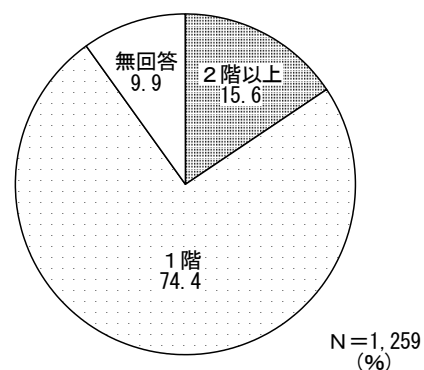
図 住宅の所有状況



(ウ) 主に生活している部屋の階数

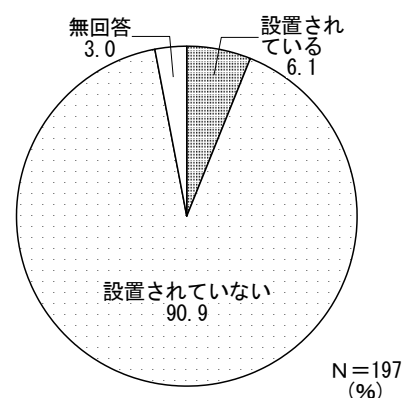
主に生活している部屋の階数は、「1階」が74.4%で大部分を占めています。

図 主に生活している部屋の階数



(I) 主に生活している部屋が2階以上の人のエレベーターの有無
 主に生活している部屋が2階以上の人のエレベーターの有無は、「設置されていない」と答えた人が90.9%でほとんどを占めています。

図 エレベーターの有無



(3) 運動・とじこもりについて

ア 日常の歩行や外出等の状況

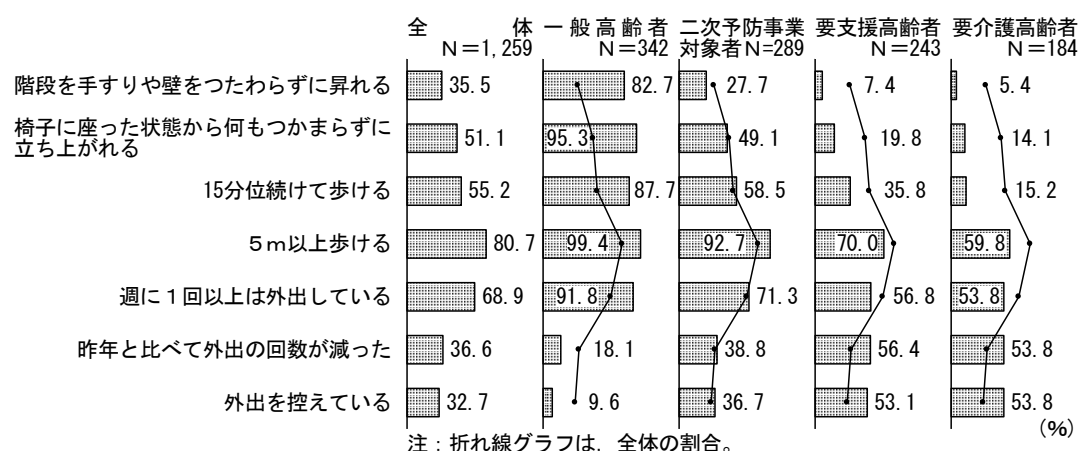
(7) 項目別の日常の歩行や外出等の状況

日常の歩行や外出等の状況を見ると、「5m以上歩ける」及び「週に1回以上外出している」と答えた人は一般高齢者では90%以上ですが、介護度が重くなるにつれて割合が低くなり、要介護高齢者では50%台になっています。

また、「階段を手すりや壁をつたわずに昇れる」、「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がる」、「15分位続けて歩ける」の3項目は、介護度が重くなるにつれてできる人の割合が低くなり、要介護高齢者においては10%前後になっています。

また、「昨年と比べて外出の回数が減った」、「外出を控えている」の2項目については、介護度が重くなるにつれて割合が高くなり、要支援高齢者及び要介護高齢者において50%台になっています。

図 日常の歩行や外出等の状況



(イ) 運動器の機能が低下している人

次の5つの質問項目において灰色の回答に3項目以上該当する人を運動器の機能が低下している人としてみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者全体で31.4%が該当しています。また、70歳以上では男性より女性の割合が高くなっているほか、年齢が増すにつれて割合が高くなっています。

介護度別に運動器の機能が低下している人の割合をみると、際だった特徴はありません。

表 評価指標と評価基準（5項目中、灰色の回答に3項目以上該当する人）

6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ
8	15分くらい続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ
9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ

図 性別年齢階級別該当者割合（一般高齢者及び二次予防事業対象者）

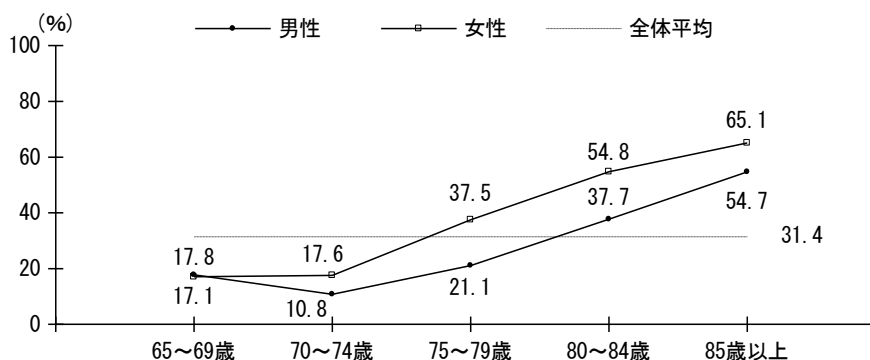


図 介護度別年齢階級別該当者割合

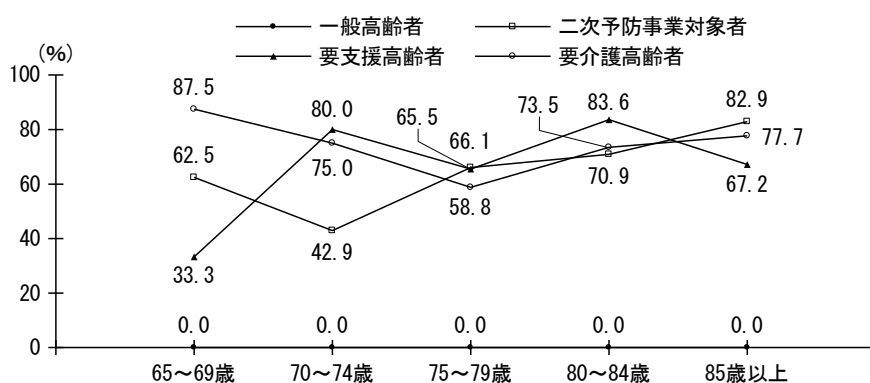
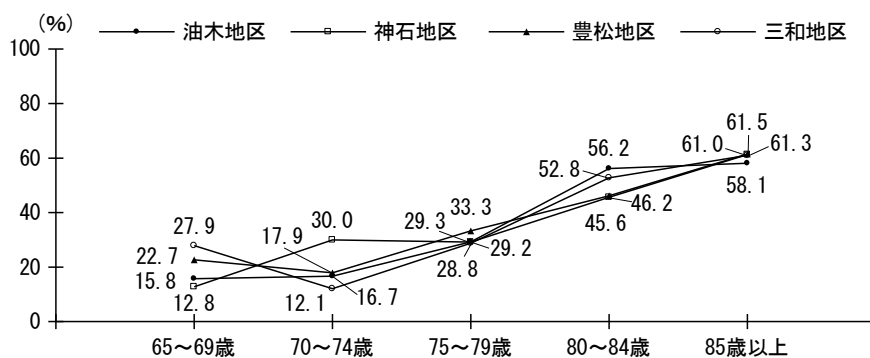


図 地区別年齢階級別該当者割合



(ウ) 閉じこもり予防が必要な人

週1回以上外出していないと回答した人を閉じこもり予防が必要な人としてみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者全体で14.7%が該当しています。また、70歳以上では男性より女性の割合が高くなっているほか、女性においては年齢が増すにつれて割合が高くなっています。介護度別に閉じこもり予防が必要な人の割合をみると、際だった特徴はありません。

表 評価指標と評価基準（「1. いいえ」と答えた人）

16	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ
----	-----------------	-------	--------

図 性別年齢階級別該当者割合（一般高齢者及び二次予防事業対象者）

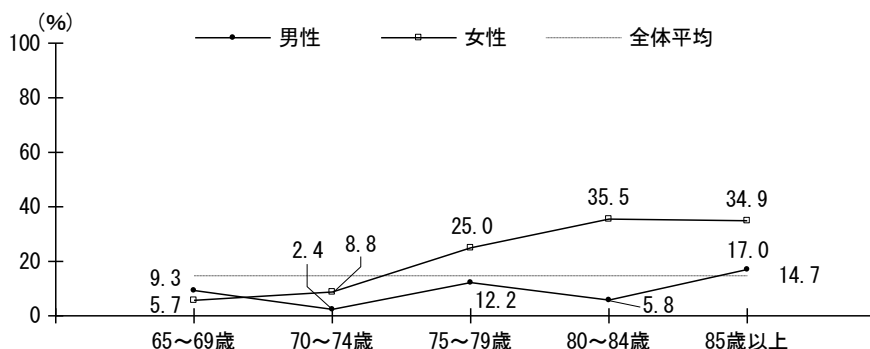


図 介護度別年齢階級別該当者割合

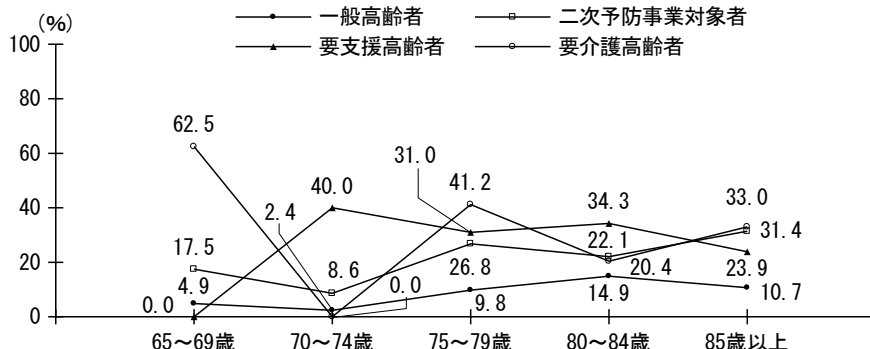
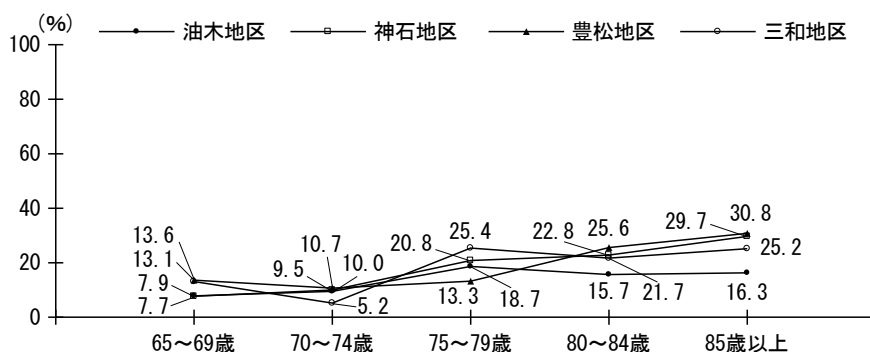


図 地区別年齢階級別該当者割合

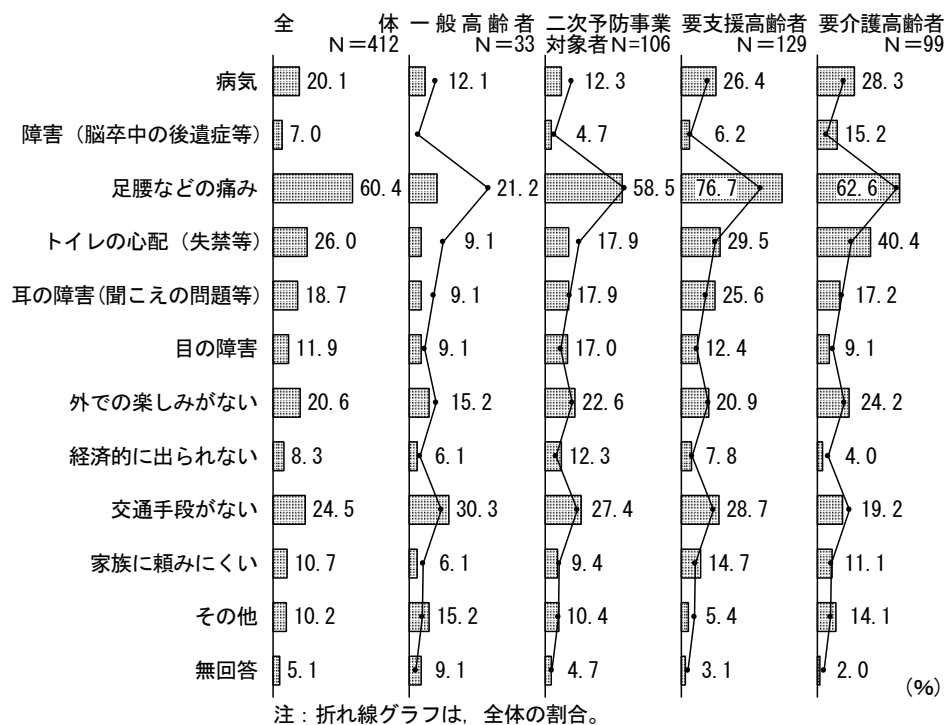


イ 外出を控えている理由

外出を控えていると答えた人の外出を控えている理由は、一般高齢者では「交通手段がない」と答えた人が30.3%で最も割合が高く、次いで「足腰などの痛み」21.2%、「外での楽しみがない」15.2%、「病気」12.1%等の順になっています。

二次予防事業対象者、要支援高齢者、要介護高齢者では「足腰などの痛み」が50～70%台で高い割合を占めています。その他の項目をみると、二次予防事業対象者で「交通手段がない」、「外での楽しみがない」、要支援高齢者で「トイレの心配（失禁等）」、「交通手段がない」、「病気」、「耳の障害（聞こえの問題等）」、「外での楽しみがない」、要介護高齢者では「トイレの心配（失禁等）」、「病気」、「外での楽しみがない」の各項目が20%以上の割合になっており、一般高齢者と二次予防事業対象者では交通手段及び外出動機がないこと、要支援高齢者及び要介護高齢者では健康状態が主な要因になって外出が控えられています。

図 外出を控えている理由（複数回答：いくつでも）

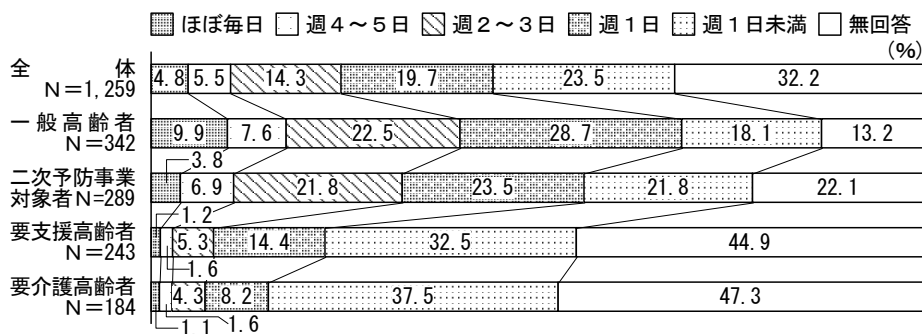


ウ 外出の状況

(7) 買い物の頻度

買い物での外出の頻度は、「週1日未満」を挙げた人が23.5%で最も割合が高く、次いで「週1日」19.7%、「週2～3日」14.3%、「週4～5日」5.5%、「ほぼ毎日」4.8%の順です。介護度別に買い物での外出の頻度をみると、介護度が重くなるにつれて買い物での外出の頻度が低くなっています。

図 買い物の頻度

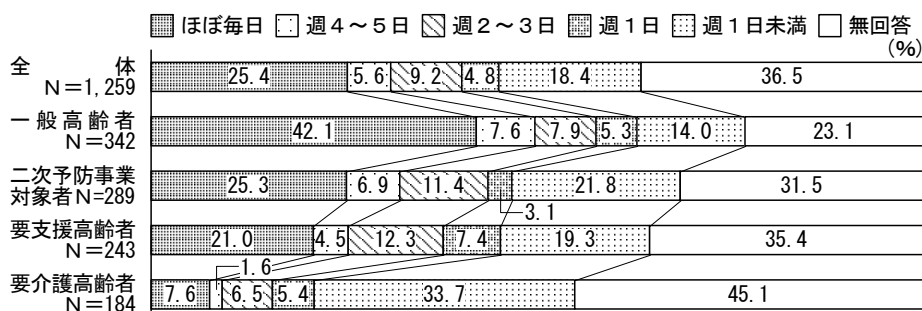


(4) 散歩の頻度

散歩での外出の頻度は、「ほぼ毎日」が25.4%で最も割合が高く、次いで「週1日未満」18.4%、「週2～3日」9.2%、「週4～5日」5.6%、「週1日」4.8%の順になっています。

介護度別に散歩での外出の頻度をみると、介護度が重くなるにつれて散歩での外出の頻度が低くなっています。

図 散歩の頻度



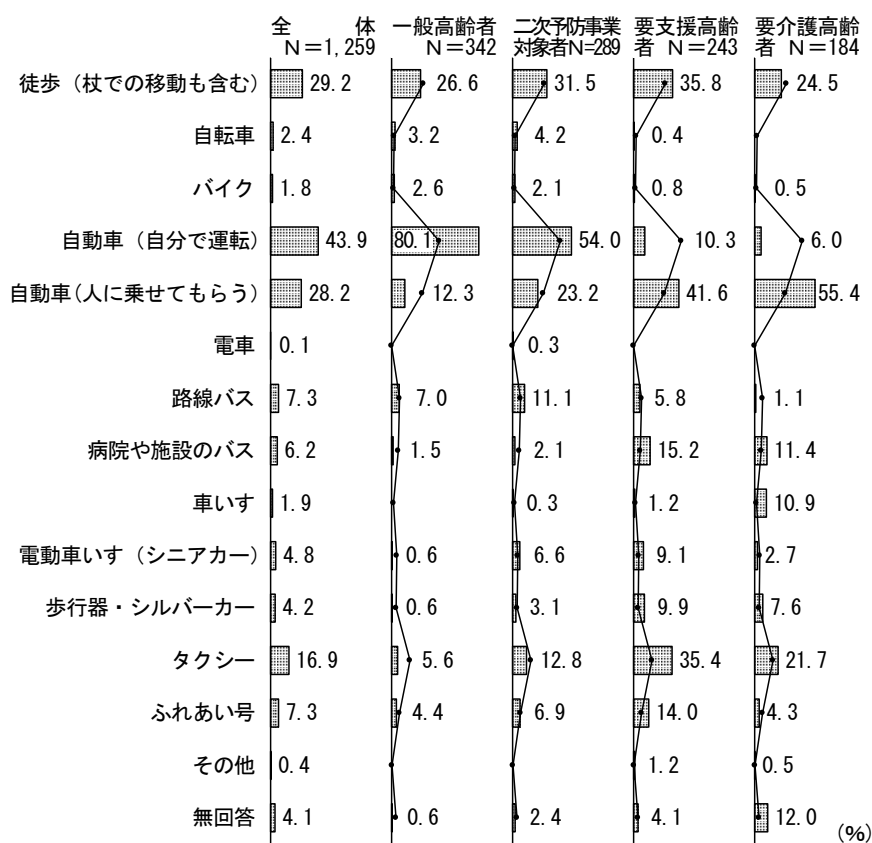
(ウ) 外出する際の移動手段

介護度別に外出する際の移動手段をみると、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」を挙げた人が80.1%で最も割合が高く、次いで「徒歩（杖での移動も含む）」26.6%の順です。二次予防事業対象者は「自動車（自分で運転）」が54.0%で最も割合が高く、次いで「徒歩（杖での移動も含む）」31.5%、「自動車（人に乗せてもらう）」23.2%の順です。要支援高齢者は「自動車（人に乗せてもらう）」が41.6%で最も割合が高く、次いで「徒歩（杖での移動も含む）」35.8%、「タクシー」35.4%の順です。要介護高齢者は「自動車（人に乗せてもらう）」が55.4%で最も割合が高く、次いで「徒歩（杖での移動も含む）」24.5%、「タクシー」21.7%の順です。

「徒歩（杖での移動も含む）」以外でみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者では「自家用車（自分で運転）」、要支援高齢者、要介護高齢者では「自動車（人に乗せてもらう）」が主な移動手段になっています。

また、路線バスは二次予防事業対象者で11.1%、ふれあい号は要支援高齢者で14.0%になっており、他の介護度に比べて割合が高くなっています。

図 外出する際の移動手段（複数回答：いくつでも）(1)

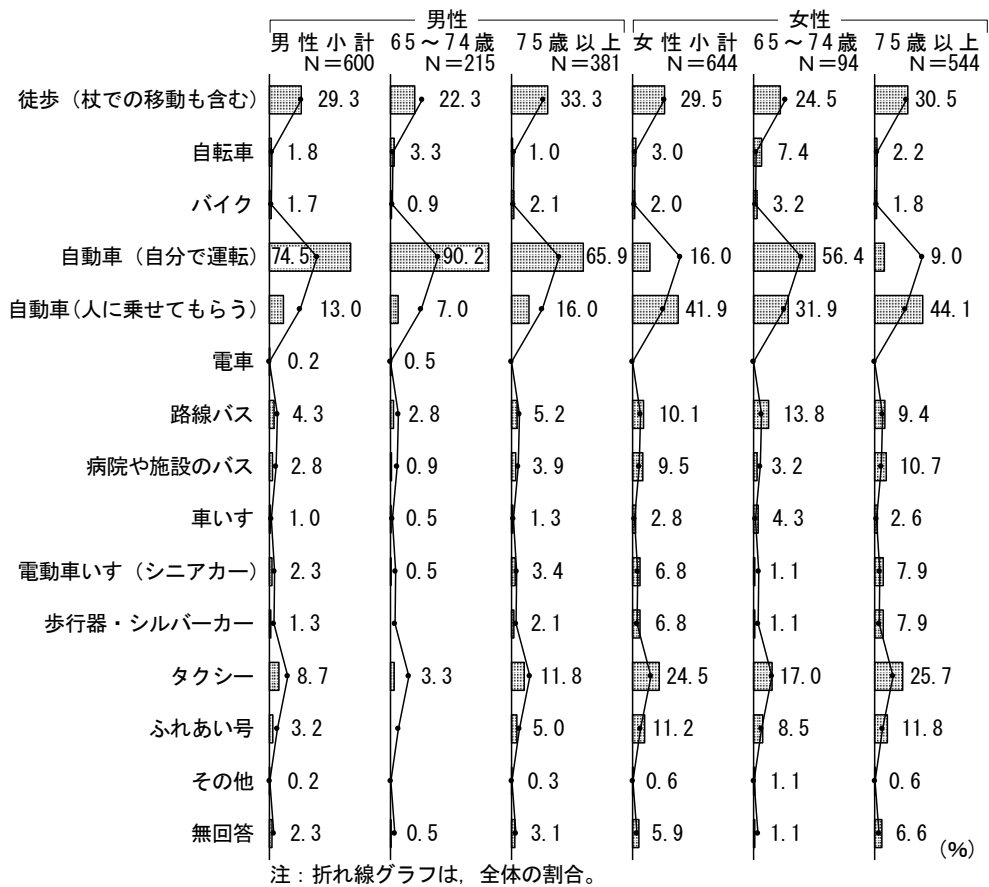


男女別年齢別に外出する際の移動手段をみると、男性では「自動車（自分）」と答えた人が74.5%で大部分を占めており、特に65～74歳では90.2%とほとんどを占めています。

女性をみると、65～74歳では「自動車（自分）」と答えた人が56.4%で最も割合が高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」31.9%の順です。75歳以上では自動車（人に乗せてもらう）と答えた人が44.1%で最も割合が高く、次いでタクシー25.7%等の順で、「自動車（自分で運転）」は9.0%と割合が低くなっています。

また、ふれあい号の利用をみると、男性で3.2%、女性で11.2%になっており、女性の割合が高くなっています。

図 外出する際の移動手段（複数回答：いくつでも）(2)



エ 運動等の状況

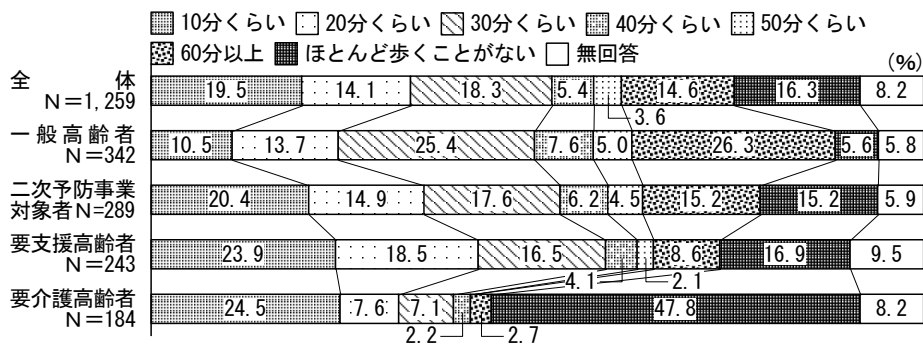
(7) 1日の歩行時間

1日の歩行時間は30分くらいまでの人が51.9%、「ほとんど歩くことがない」と答えた人が16.3%になっており、歩行時間が少なくなっています。

介護度別に30分くらいまでの人をみると、一般高齢者49.6%、二次予防事業対象者52.9%、要支援高齢者58.9%、要介護高齢者39.2%で、一般高齢者、二次予防事業対象者及び要支援高齢者において歩行時間の少ない人の割合が高くなっています。

また、介護度別に「ほとんど歩かない」と答えた人をみると、介護度が重くなるにつれて割合が高まり、要介護者では47.8%と約半分を占めています。

図 1日の歩行時間



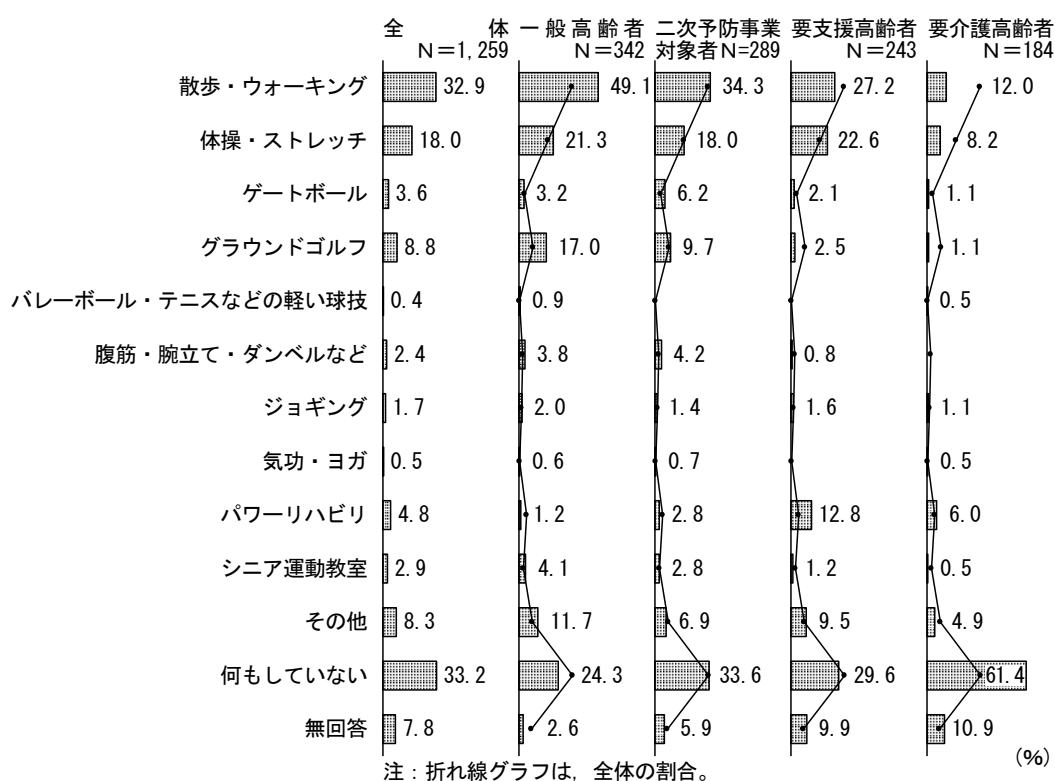
(イ) 行っているスポーツ・運動の内容

スポーツ・運動を行っていると答えた人（100%から「何もしていない」と「無回答」の割合を引いた値）は59.0%です。介護度別にスポーツ・運動を行っていると答えた人をみると、一般高齢者が73.1%で最も割合が高く、次いで二次予防事業対象者及び要支援高齢者60.5%、要介護高齢者27.7%の順で、要介護高齢者の割合は低くなっています。

行っているスポーツ・運動の内容は、「散歩・ウォーキング」と答えた人が32.9%で最も割合が高く、次いで「体操・ストレッチ」18.0%、「グラウンドゴルフ」8.8%等の順です。

介護度別に行っているスポーツ・運動の内容をみると、各介護度ともに「散歩・ウォーキング」の割合が最も高く、次いで「体操・ストレッチ」の順になっています。また、一般高齢者では「グラウンドゴルフ」が17.0%で比較的割合が高くなっています。

図 行っているスポーツ・運動の内容（複数回答：いくつでも）



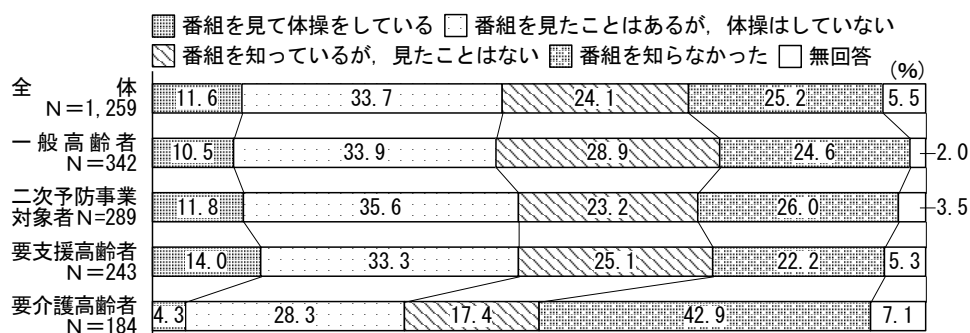
オ いきいき体操について

(7) いきいき体操の視聴状況

いきいき体操について「番組を見て体操している」と答えた人は11.6%とわずかです。介護度別に「番組を見て体操している」と答えた人の割合をみると、要介護高齢者を除く介護度で10%台、要介護高齢者で4.3%になっています。

また、「番組を知らなかった」と答えた人が25.2%と1/4を占めています。介護度別に「番組を知らなかった」と答えた人をみると、要介護高齢者を除く介護度で20%台、要介護高齢者で42.9%になっています。

図 いきいき体操の視聴状況

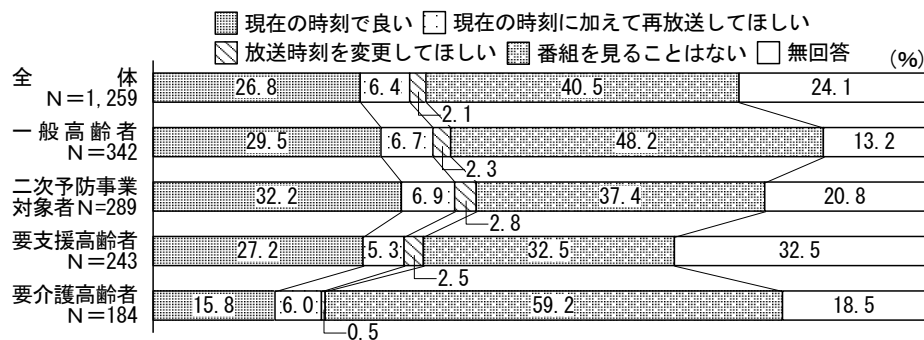


(イ) いきいき体操の放送時刻に対する希望

いきいき体操について視聴する意向のある人（100%から「番組を見ることはない」と無回答の割合を引いた値）は35.4%です。いきいき体操について視聴する意向のある人の放送時刻に対する希望は、「現在の時刻で良い」と答えた人が26.8%で最も割合が高く、次いで「現在の時刻に加えて再放送してほしい」6.4%、「放送時刻を変更してほしい」2.1%の順です。

介護度別にいきいき体操について視聴する意向のある人をみると、二次予防事業対象者が41.8%で最も割合が高く、次いで一般高齢者38.6%、要支援高齢者35.0%、要介護高齢者22.3%の順です。

図 いきいき体操の放送時刻に対する希望



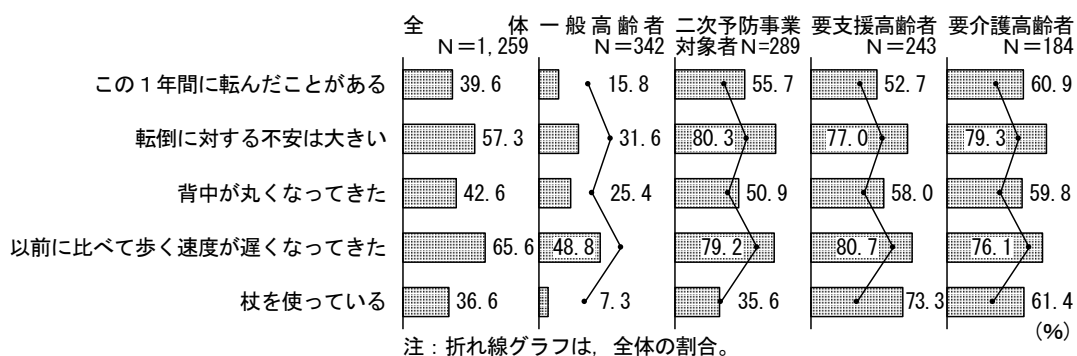
(4) 転倒等について

ア 項目別転倒等の状況

転倒等の状況をみると、「以前に比べて歩く速度が遅くなってきた」と答えた人が65.6%で最も割合が高く、次いで「転倒に対する不安は大きい」57.3%、「背中が丸くなってきた」42.6%、「この1年間に転んだことがある」39.6%、「杖を使っている」36.6%の順です。

介護度別に転倒等の状況をみると、一般高齢者においては各項目の順位は全体と同様ですが割合は低くなっています。二次予防事業対象者及び要介護高齢者においては「以前に比べて歩く速度が遅くなってきた」、「転倒に対する不安は大きい」の2項目、要支援高齢者においては「以前に比べて歩く速度が遅くなってきた」、「転倒に対する不安が大きい」、「杖を使っている」の3項目で70%以上になっています。

図 転倒等について



イ 転倒リスク要因を保有している人

次の5つの質問項目の回答で6点以上になった人を転倒リスク要因を保有している人としてみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者全体で37.9%が該当しています。また、各65～74歳までは男性、75歳以上では女性の割合が高くなっているほか、年齢が増すにつれて割合が高くなっています。

認定状況別に転倒リスク要因を保有している人の割合をみると、一般高齢者はその他の認定状況の人に比べて各年齢層で低い割合になっています。二次予防事業対象者、要支援高齢者、要介護高齢者は、75歳以上では比較的同程度の割合になっています。

表 評価指標と評価基準（6点以上の人）

（単位：点）

問番号	質問項目	5種類以上	4種類以下、飲んでいない
問 16	現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。	2	0
		はい	いいえ
問 31①	この1年間に転んだことがありますか	5	0
問 31③	背中が丸くなってきましたか	2	0
問 31④	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	2	0
問 31⑤	杖を使っていますか	2	0

注：表内の数字は得点。

図 性別年齢階級別該当者割合（一般及び二次予防事業対象者）

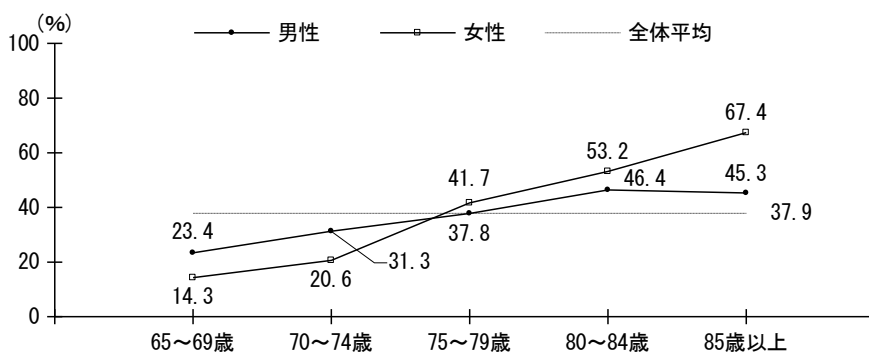


図 介護度別年齢階級別該当者割合

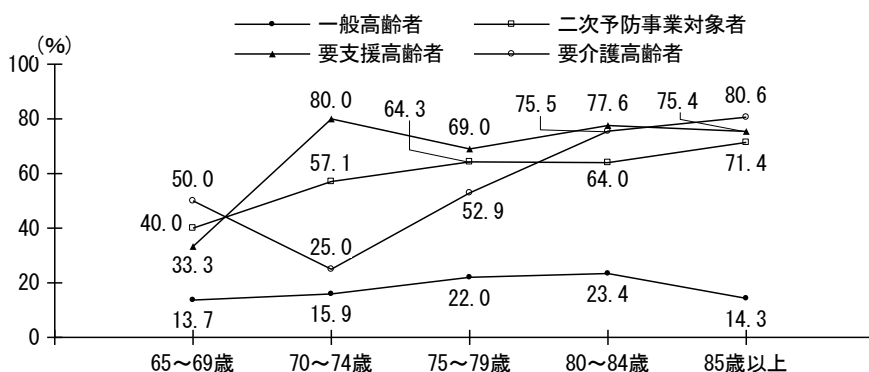
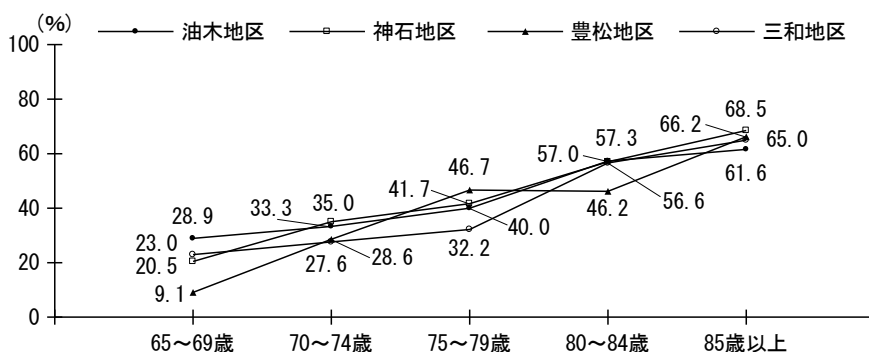


図 地区別年齢階級別該当者割合



(5) 口腔・栄養について

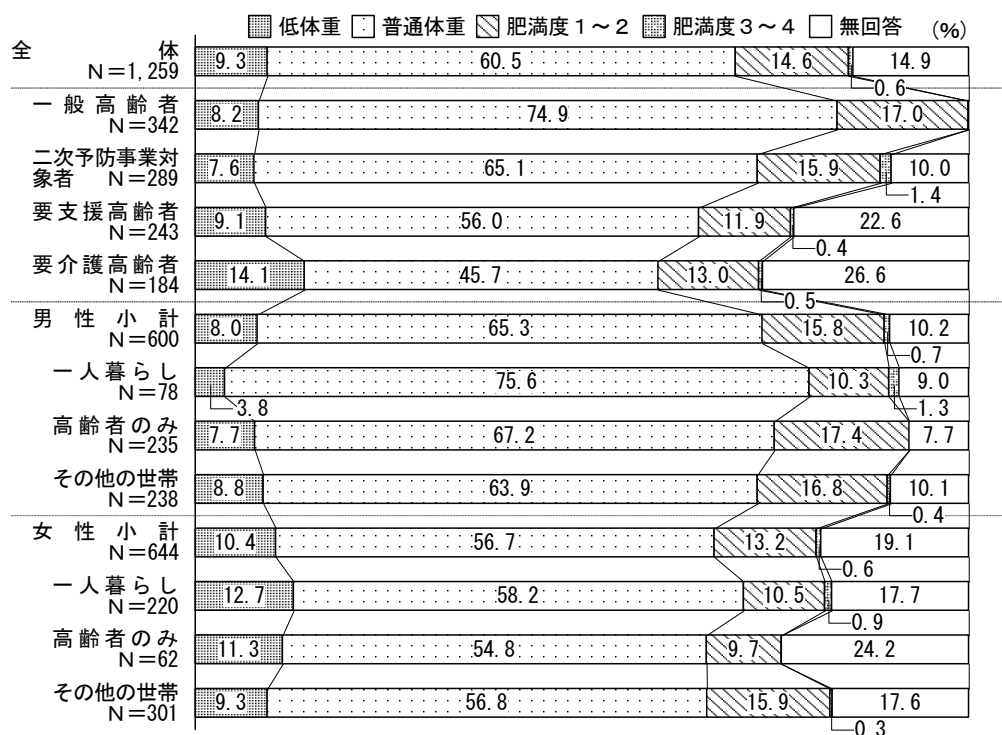
ア BMI

BMI をみると、低体重の人が9.3%、肥満度1以上の人が15.2%で、体重に問題を抱えている人が約1/4になっています。

介護度別に低体重の人をみると、介護度が重い人で割合が高くなっています。一方、肥満度1以上の人は、介護度が軽い人で割合が高くなっています。

男女別家族構成別にみると、際だった特徴はありません。

図 BMI



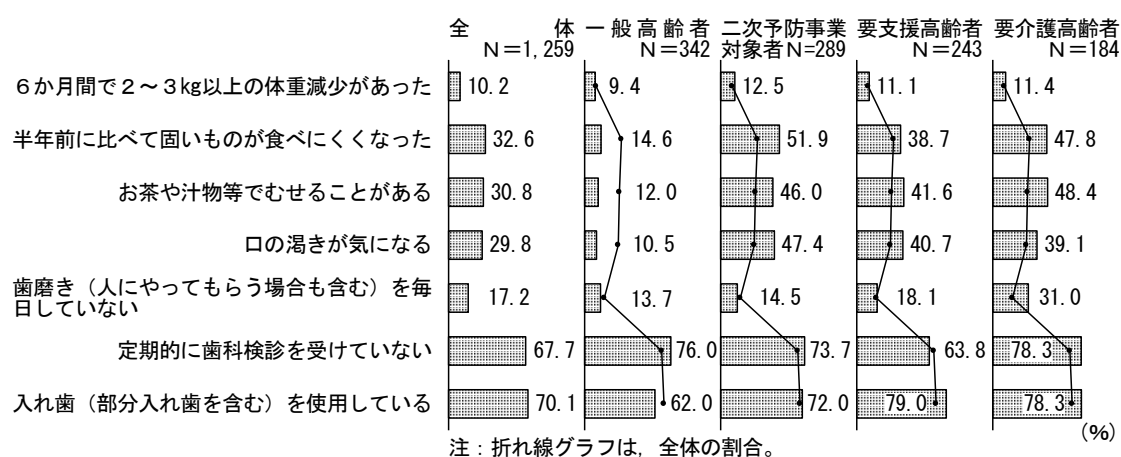
イ 歯の状態等について

(7) 項目別の歯の状態等について

歯の状態等についてみると、「入れ歯（部分入れ歯を含む）を使用している」70.1%、「定期的に歯科検診を受けていない」67.7%で、この2項目を挙げた人の割合が非常に高くなっています。その他では、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」及び「口の渇きが気になる」の3項目が30%前後、「歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していない」、「6か月間で2～3kg以上の体重減少があった」の2項目が10%台になっています。

介護度別に歯の状態等についてみると、各介護度ともに「入れ歯（部分入れ歯を含む）を使用している」と「定期的に歯科検診を受けていない」の2項目が70%前後になっています。その他の項目では、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」及び「口の渇きが気になる」の3項目が二次予防事業対象者で50%前後、要支援高齢者及び要介護高齢者で40%前後になっています。

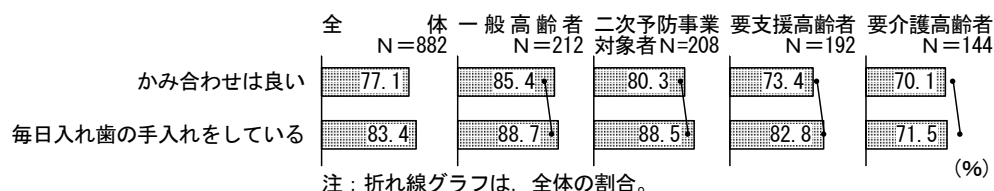
図 歯の状態等について



(イ) 入れ歯の状況について

「入れ歯（部分入れ歯を含む）を使用している」人の入れ歯の状況をみると、「かみ合わせは良い」77.1%、「毎日入れ歯の手入れをしている」83.4%になっています。

図 入れ歯の状況について



(ウ) 栄養改善が必要な人

6か月間で2～3kg以上の体重の減少があった人を栄養改善が必要な人としてみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者全体で10.8%が該当しています。男女別に栄養改善が必要な人の割合をみると、85歳未満では男性、85歳以上では女性の割合が高くなっています。年齢別にみると、際だった特徴はありません。

介護度別に栄養改善が必要な人の割合をみると、要支援者の70～74歳で割合が高くなっているほかは際だった特徴はありません。

表 評価指標と評価基準（「1. はい」と答えた人）

11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ
----	--------------------------	-------	--------

図 性別年齢階級別該当者割合（一般高齢者及び二次予防事業対象者）

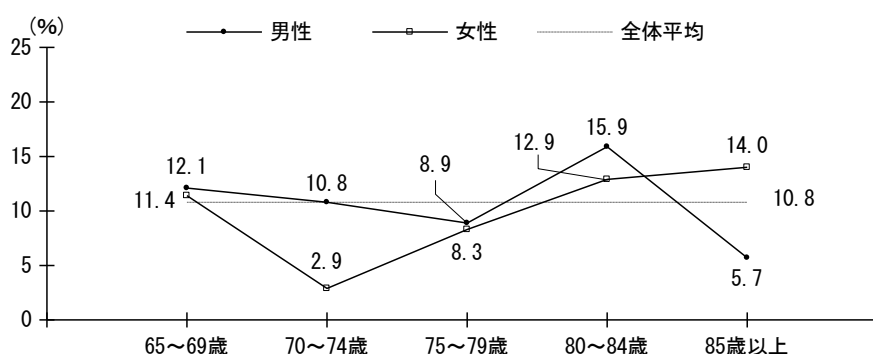


図 介護度別年齢階級別該当者割合

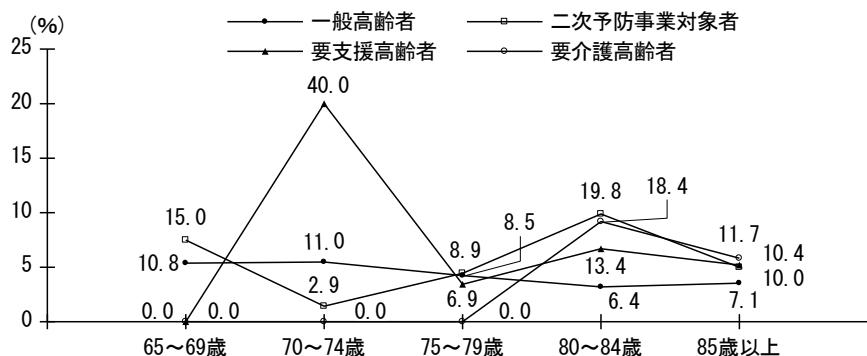
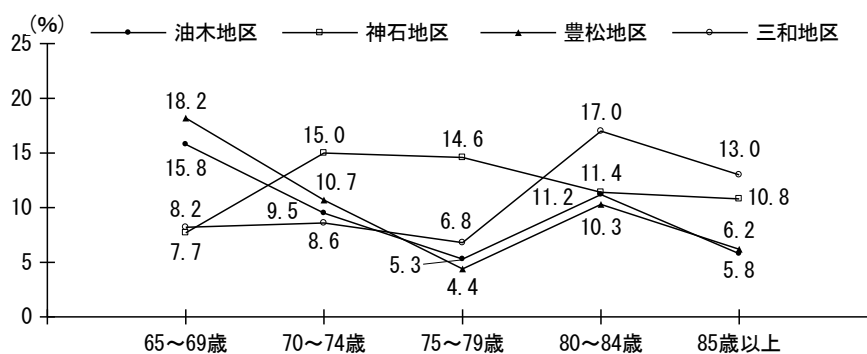


図 地域別年齢階級別該当者割合



(I) 口腔ケアが必要な人

次の3つの質問項目で2項目以上「はい」と回答した人を口腔ケアが必要な人としてみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者全体で25.4%が該当しています。また、男女別にみると、65～79歳ではほぼ同程度、80歳以上では男性の割合が高くなっているほか、年齢が増すにつれて割合が高くなる傾向にあります。

介護度別に口腔ケアが必要な人の割合をみると、一般高齢者では該当者がいません。一方、二次予防事業対象者は各年齢層で最も割合が高くなっており、70～74歳で70%台、その他の年齢で50%前後になっています。また、要支援者も二次予防事業対象者により割合が低いです、同様の傾向にあります。

表 評価指標と評価基準（3項目中、2項目以上「1. はい」と答えた人）

13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ
14	お茶や汁物でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ
15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ

図 性別年齢階級別該当者割合（一般高齢者及び二次予防事業対象者）

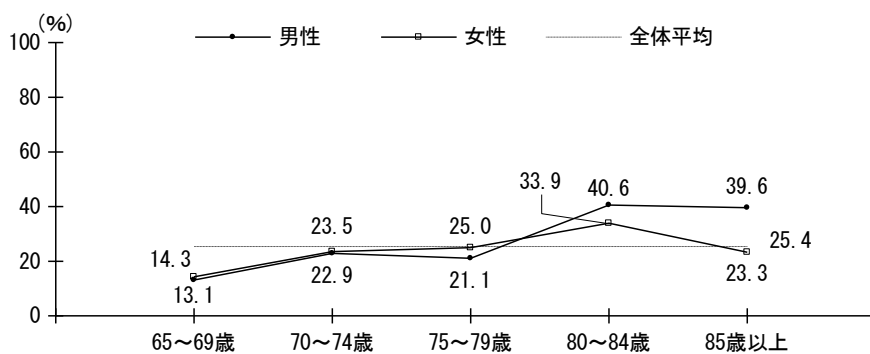


図 介護度別年齢階級別該当者割合

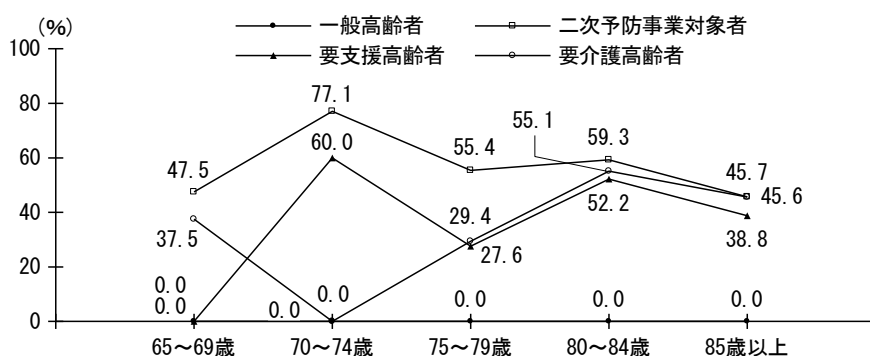
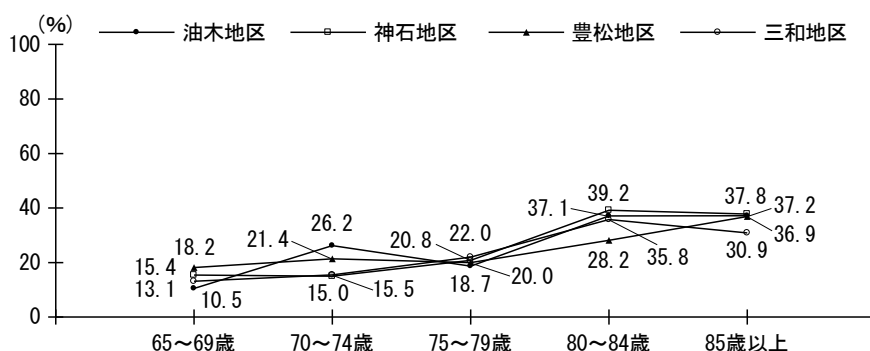


図 地域別年齢階級別該当者割合



ウ 食生活全般について

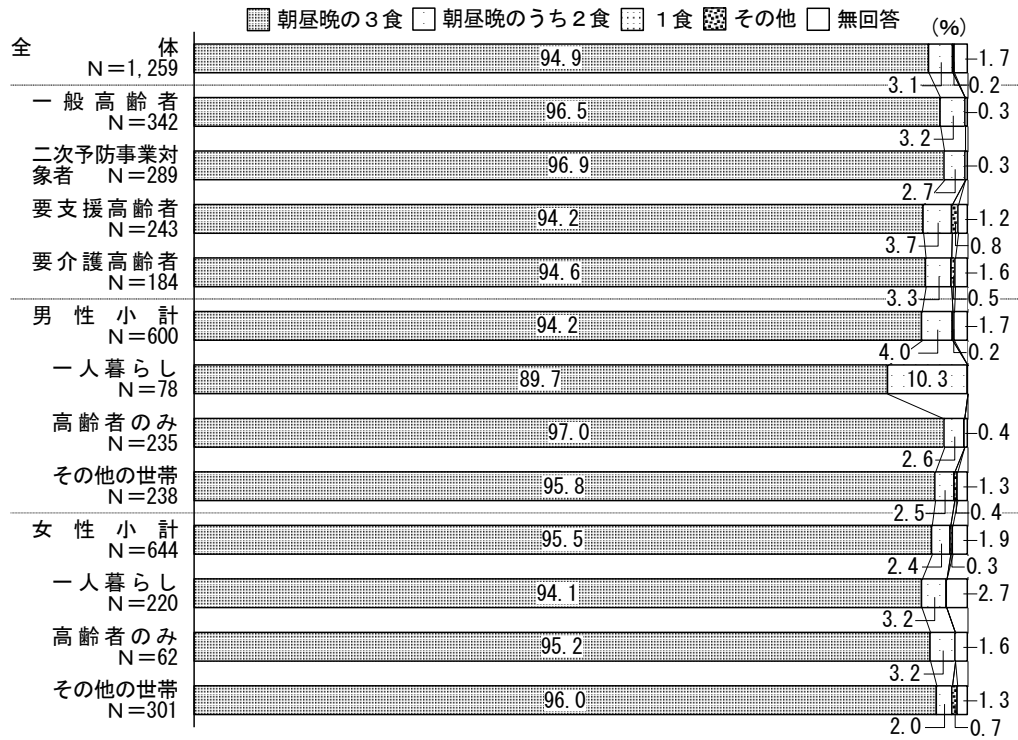
(7) 1日の食事の回数

1日の食事の回数は、「朝昼晩の3食」と答えた人が94.9%でほとんどを占めています。

介護度別に「朝昼晩の3食」と答えた人をみると、各介護度ともに90%以上になっています。

男女別家族構成別に「朝昼晩の3食」と答えた人をみると、男性の一人暮らしで89.7%とやや低くなっており、「朝昼晩のうち2食」と答えた人が10.3%になっています。

図 1日の食事の回数



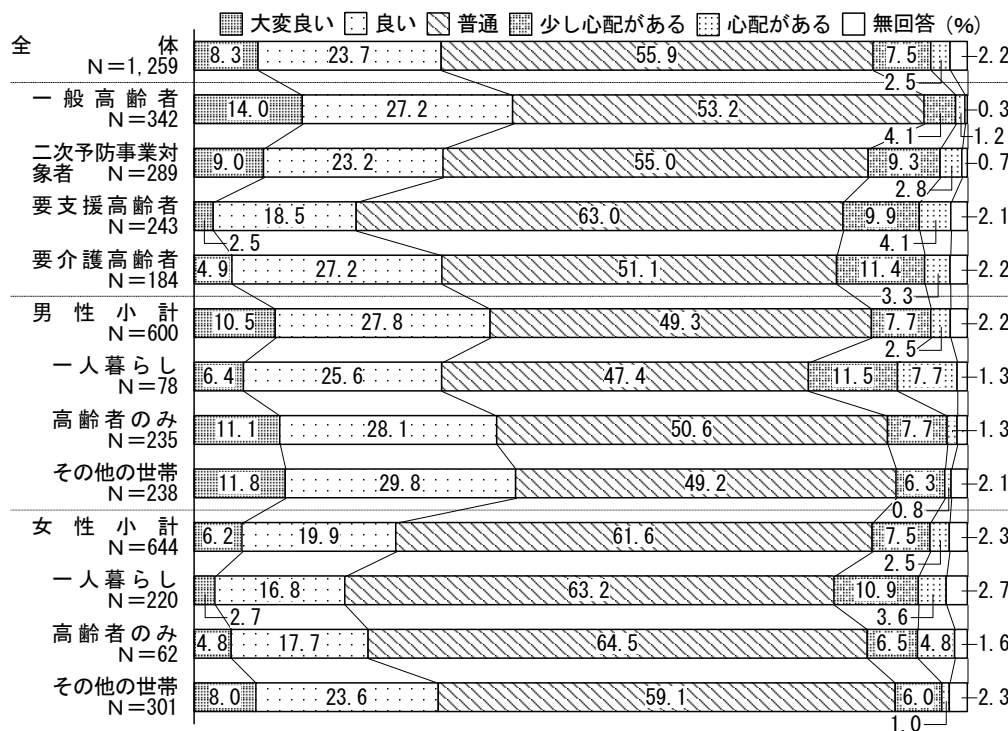
(イ) 自分の食生活の評価

自分の食生活の評価は、「心配がある」2.5%、「少し心配がある」7.5%で、これらを合わせた食生活に心配があると答えた人は10.0%になっています。

介護度別に食生活に心配があると答えた人をみると、要介護高齢者が14.7%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者が14.1%、二次予防事業対象者12.1%、一般高齢者5.3%の順です。

男女別家族構成別に食生活に心配があると答えた人をみると、男女ともに一人暮らしの世帯で割合がやや高くなっています。

図 自分の食生活の評価



(ウ) 食事を抜くこと

食事を抜くことは、「毎日ある」1.2%、「週に何度かある」5.3%、「月に何度かある」7.5%で、これらを合わせた食事を抜くことがある人は14.0%です。

介護度別に食事を抜くことがある人をみると、介護度が重くなるにつれて割合が高くなっていきます。

男女別家族構成別に食事を抜くことがある人をみると、男女ともに一人暮らしの世帯での割合が高くなっています。

図 食事を抜くこと

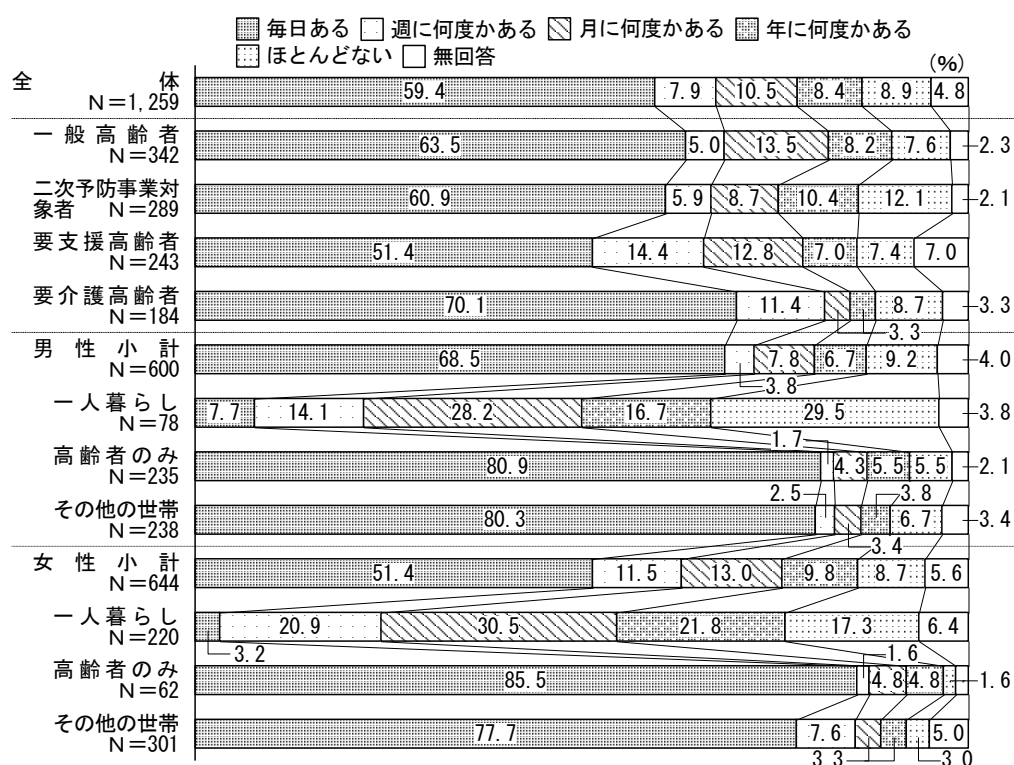


(I) 誰かと食事をとる機会

誰かと食事をとる機会が「毎日ある」と答えた人が59.4%で約6割を占めており、次いで「月に何度かある」10.5%、「ほとんどない」8.9%、「年に何度かある」8.4%、「週に何度かある」7.9%の順です。

男女別家族構成別にみると、「毎日ある」と答えた人が男女ともに高齢者のみの世帯で80%以上、その他の世帯で80%前後と大部分を占めています。一方、一人暮らし世帯で「ほとんどない」と「年に何度かある」と答えた人の割合を合わせると、男性で46.2%、女性で39.1%になっています。

図 誰かと食事をとる機会



(オ) 食事をとにもする人

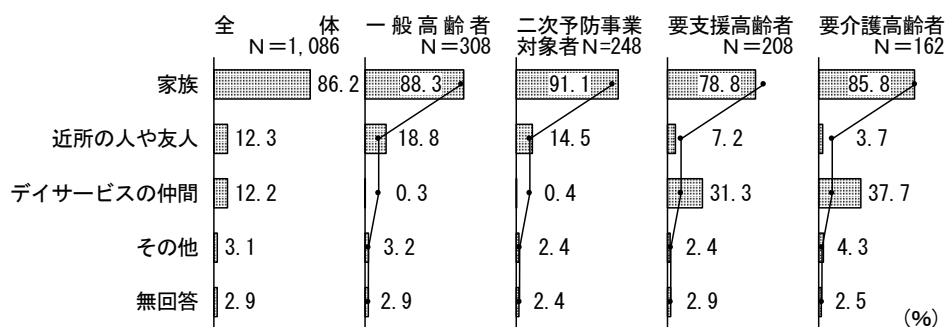
食事をとにもする人は、「家族」と答えた人が86.2%でほとんどを占めています。

介護度別にみると、各介護度ともに「家族」と答えた人の割合が最も高くなっています、その他の項目をみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者では「近所の人や友人」が10%台、要支援高齢者及び要介護高齢者では「デイサービスの仲間」が30%台になっています。

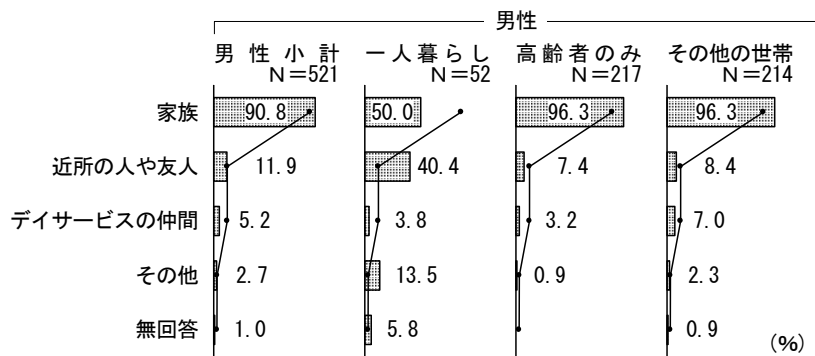
男女別家族構成別にみると、高齢者のみ及びその他の世帯では男女ともに「家族」と答えた人が9割以上とほとんどを占めています。

一人暮らし世帯をみると、男性では「家族」50.0%、「近所の人や友人」40.4%で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。また、女性では「家族」と答えた人の割合が高く、次いで「近所の人や友人」27.4%、「デイサービスの仲間」21.4%等の順です。

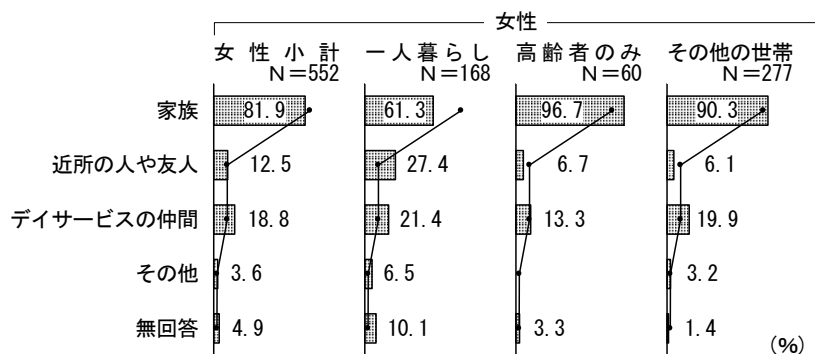
図 食事をとにもする人（複数回答：いくつでも）(1)



注：折れ線グラフは、全体の割合。



注：折れ線グラフは、全体の割合。



注：折れ線グラフは、全体の割合。

エ 配食サービスについて

(7) 配食サービスの利用の有無

配食サービスを「利用している」と答えた人は7.8%です。

介護度別に配食サービスを「利用している」と答えた人をみると、要支援高齢者及び要介護高齢者で15%前後と全体に比べて割合が高くなっています。

男女別家族構成別に配食サービスを「利用している」と答えた人をみると、一人暮らし世帯の男性で23.1%、女性で12.3%、高齢者のみの世帯の女性で17.7%と全体に比べて割合が高くなっています。

図 配食サービスの利用の有無



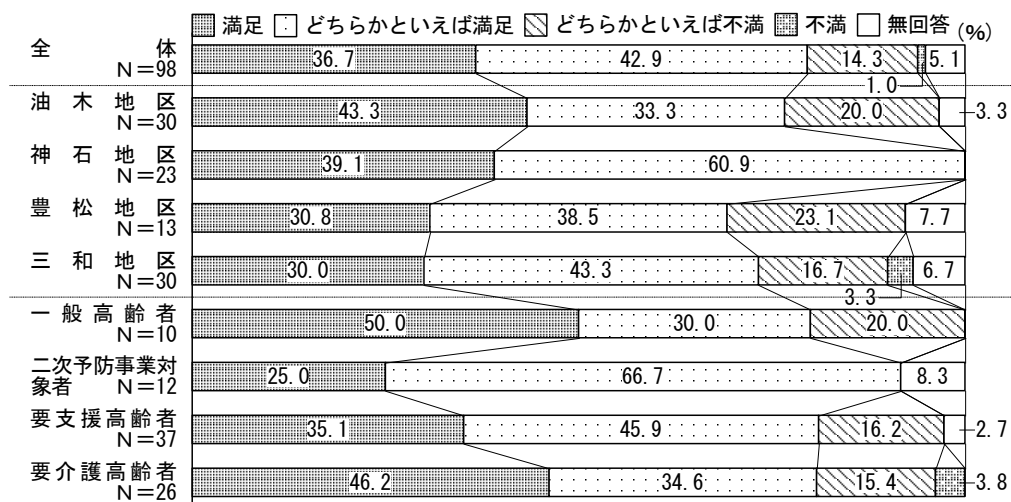
(イ) 配食サービスを利用している人の配食サービスに対する評価

配食サービスを利用している人の配食サービスに対する評価は、「満足」36.7%、「どちらかといえば満足」42.9%で、これらを合わせた満足している人の割合は約8割と大部分を占めています。

地区別に配食サービスに対して満足している人をみると、神石地区が100.0%で最も割合が高く、次いで油木地区76.6%、三和地区73.3%、豊松地区69.3%の順です。

介護度別に配食サービスに対して満足している人をみると、二次予防事業対象者が91.7%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者81.0%、要介護高齢者80.8%、一般高齢者80.0%の順になっています。

図 配食サービスを利用している人の配食サービスに対する評価



(ウ) 配食サービスを利用している人の配食サービスへの改善要望

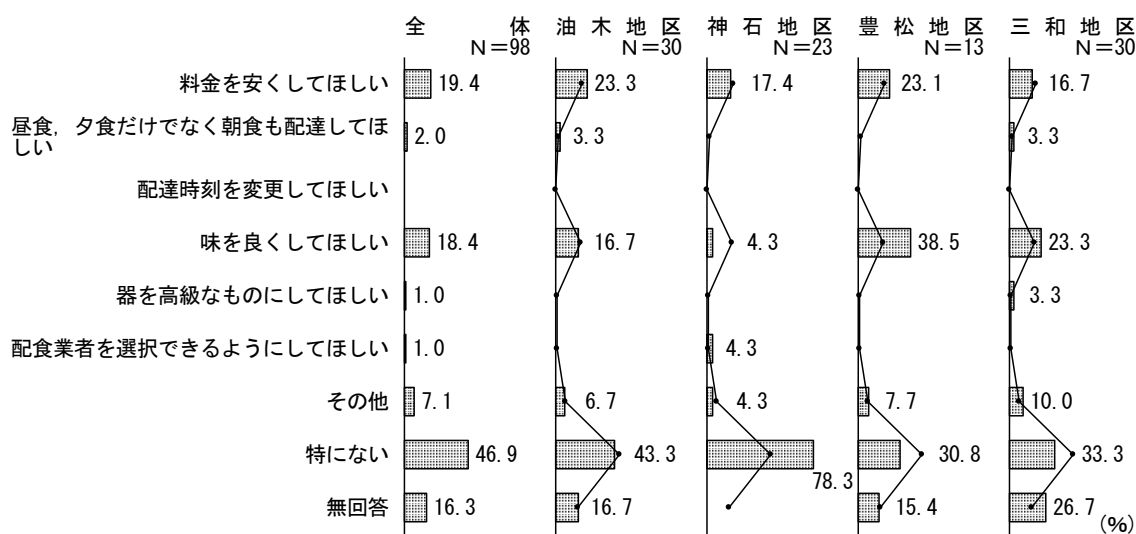
配食サービスを利用している人で配食サービスへの改善要望がある人（100%から「特にな
い」と無回答の割合を引いた値）は36.8%です。

配食サービスへの改善要望は、「料金を安くしてほしい」19.4%、「味を良くしてほしい」
18.4%で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。

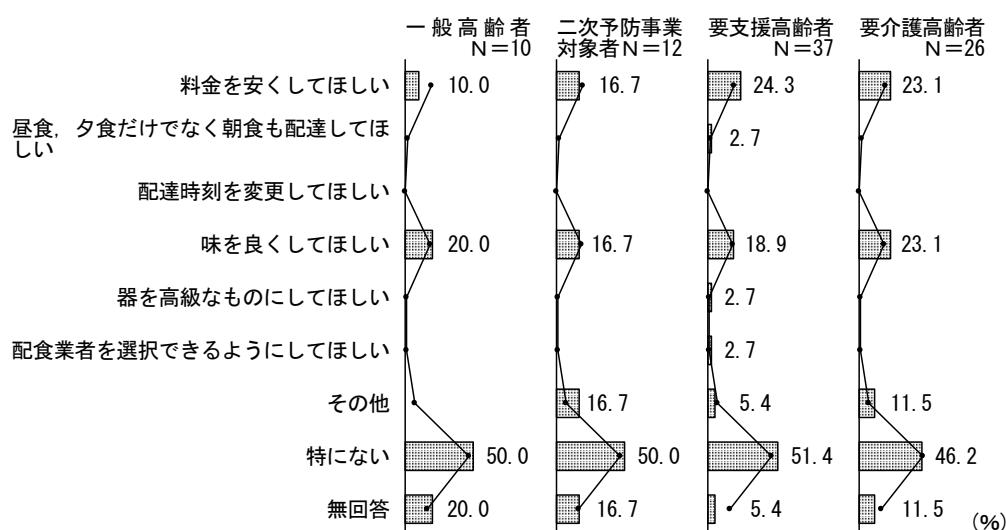
地区別に配食サービスへの改善要望をみると、神石地区を除く3地区では全体と同様に「料
金を安くしてほしい」、「味を良くしてほしい」の2項目を挙げた人の割合が高くなっています。
また、神石地区では「料金を安くしてほしい」の割合が高くなっています。

介護度別に配食サービスへの改善要望をみると、各介護度ともに全体と同様に「料金を安く
してほしい」、「味を良くしてほしい」の2項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図 配食サービスを利用している人の配食サービスへの改善要望（複数回答：いくつでも）



注：折れ線グラフは、全体の割合。



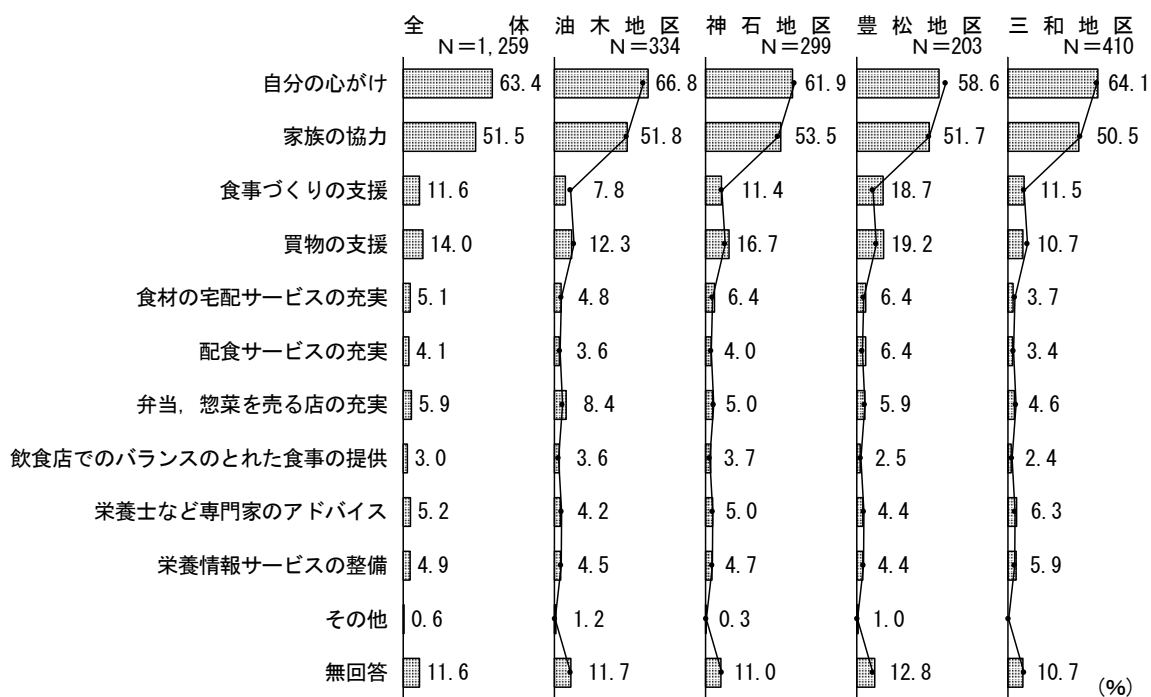
注：折れ線グラフは、全体の割合。

オ 自分の食生活をよりよくするために大切なこと

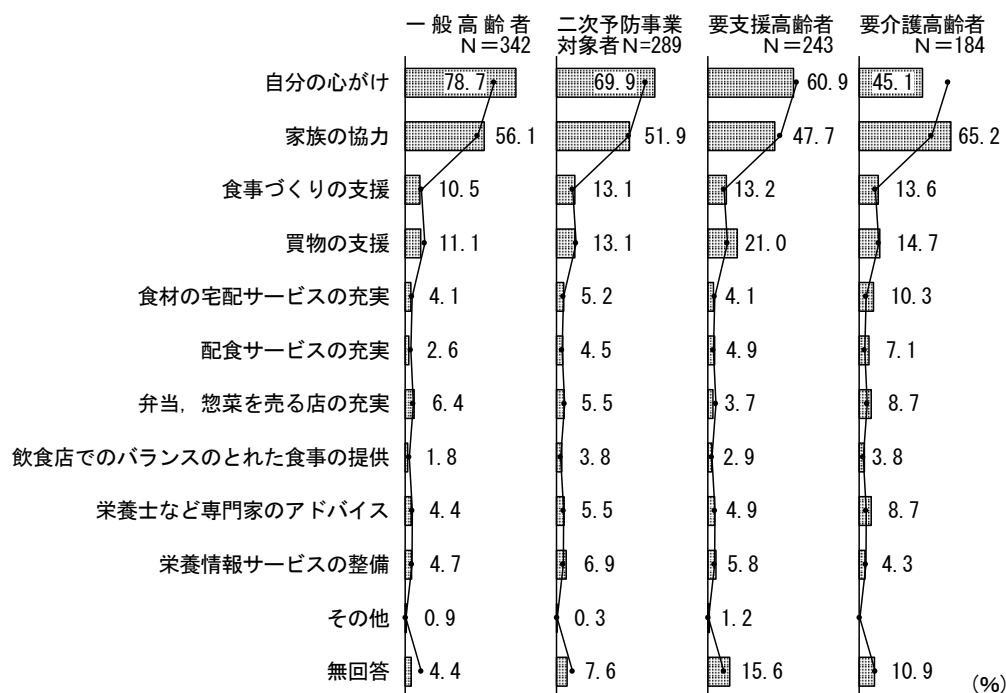
自分の食生活をよりよくするために大切なことは、「自分の心がけ」と答えた人が63.4%で最も割合が高く、次いで「家族の協力」51.5%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。

地区別、介護度別に自分の食生活をよりよくするために大切なことをみると、各地区、各介護度ともに全体と同様「自分の心がけ」と「家族の協力」の2項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図 自分の食生活をよりよくするために大切なこと（複数回答：いくつでも）



注：折れ線グラフは、全体の割合。



注：折れ線グラフは、全体の割合。

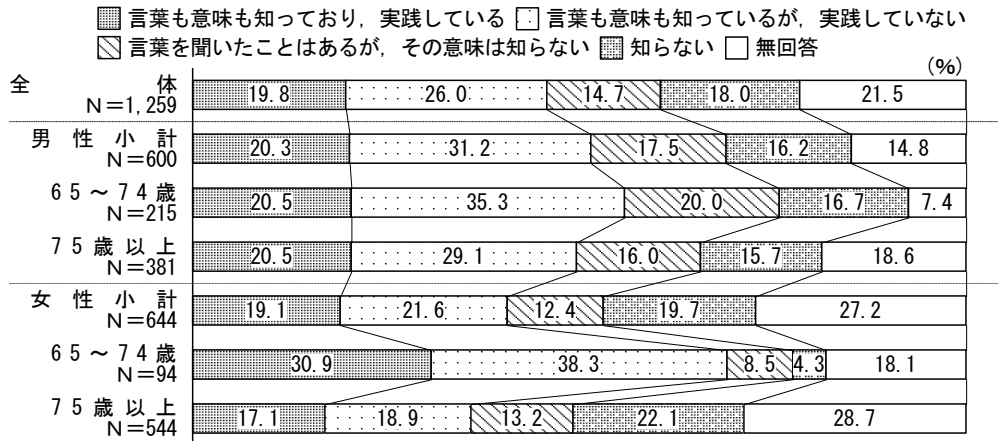
カ 言葉の認知度・実践状況

(7) 食育

食育という言葉について「言葉も意味も知っており、実践している」19.8%、「言葉も意味も知っているが、実践していない」26.0%で、実践している人が約2割、言葉も意味も知っている人が5割弱です。

男女別年齢別にみると、実践している人、言葉も意味も知っている人ともに、女性の65～74歳で割合が高くなっています。

図 食育

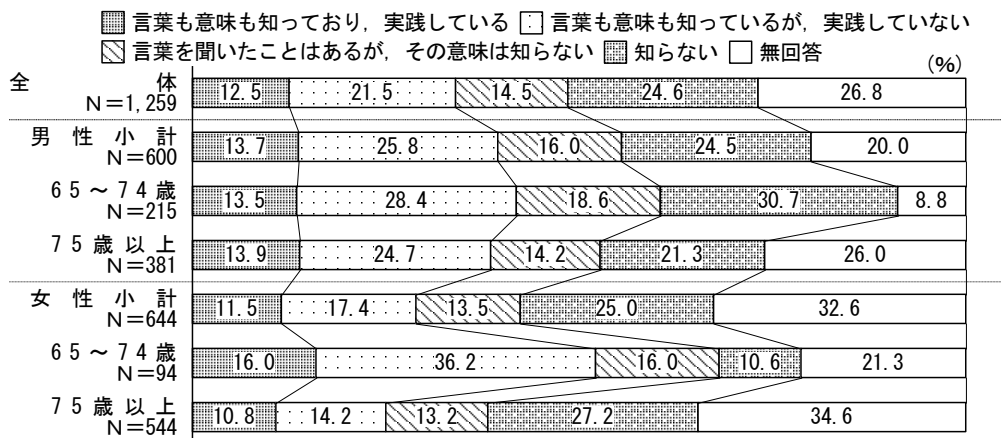


(イ) 食生活指針

食生活指針という言葉について「言葉も意味も知っており、実践している」12.5%、「言葉も意味も知っているが、実践していない」21.5%で、実践している人1割強、言葉も意味も知っている人約1/3です。

男女別年齢別にみると、実践している人、言葉も意味も知っている人ともに、女性の65～74歳で割合が高くなっています。

図 食生活指針

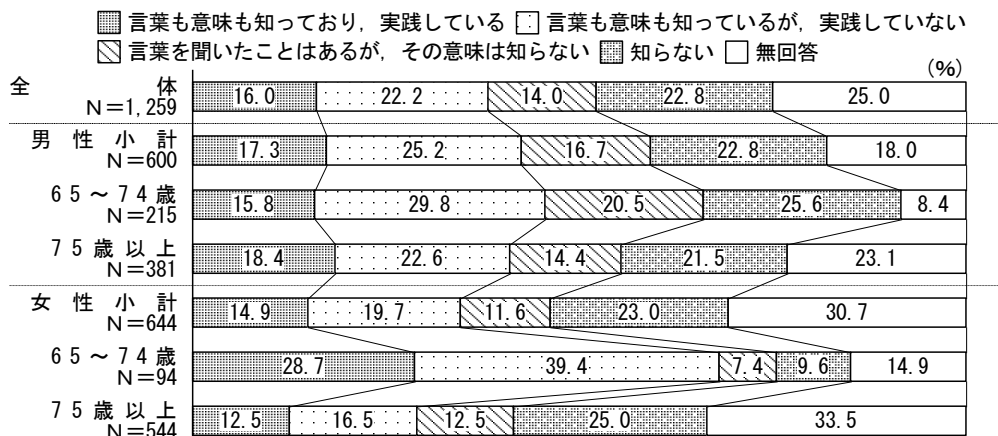


(ウ) 食事バランスガイド

食事バランスガイドという言葉について「言葉も意味も知っており、実践している」16.0%、「言葉も意味も知っているが、実践していない」22.2%で、実践している人が約1/6、言葉も意味も知っている人が4割弱です。

男女別年齢別にみると、実践している人、言葉も意味も知っている人ともに、女性の65～74歳で割合が高くなっています。

図 食事バランスガイド

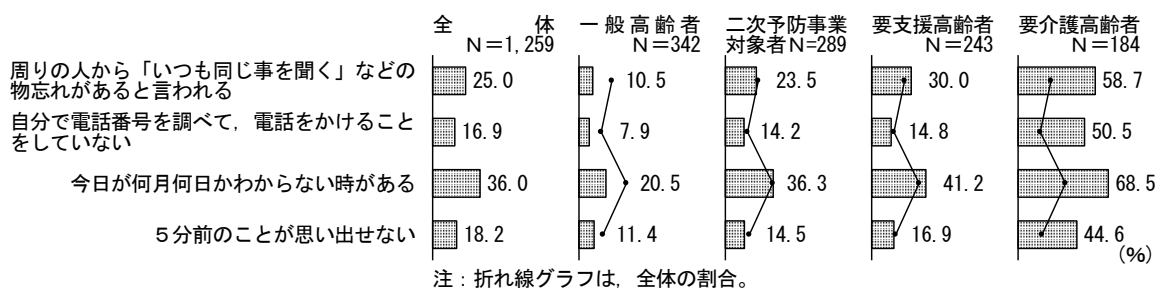


(6) 物忘れについて

ア 物忘れの状況

物忘れの状況は、介護度が重くなるにつれて物忘れが進んでおり、要介護高齢者では各項目で40～60%台になっています。

図 物忘れの状況



イ 認知症予防が必要な人

次の3つの質問項目で灰色の回答に1つ以上該当する人を認知症予防が必要な人としてみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者全体で41.8%が該当しています。また、男女別にみると、65～74歳及び85歳以上では男性、75～84歳では女性の割合が高くなっており、年齢が増すにつれて割合が高くなる傾向にあります。

介護度別に認知症予防に該当する人の割合をみると、要介護高齢者は各年齢層で最も高い割合になっていますが、年齢層によって割合は異なっており、75～79歳の割合が最も低くなっています。二次予防事業対象者も割合は低いものの要介護高齢者と同様の形状になっています。要支援高齢者及び一般高齢者は、79歳まで年齢が増すにつれて割合が増加し、80歳以上では微減傾向になっています。

表 評価指標と評価基準（3項目中、灰色の回答に1つ以上該当する人）

18	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると 言われますか	1. はい	0. いいえ
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ

図 性別年齢階級別該当者割合（一般高齢者及び二次予防事業対象者）

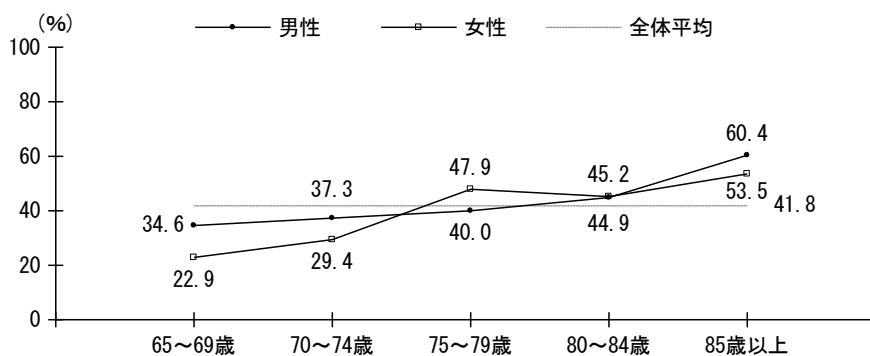


図 介護度別年齢階級別該当者割合

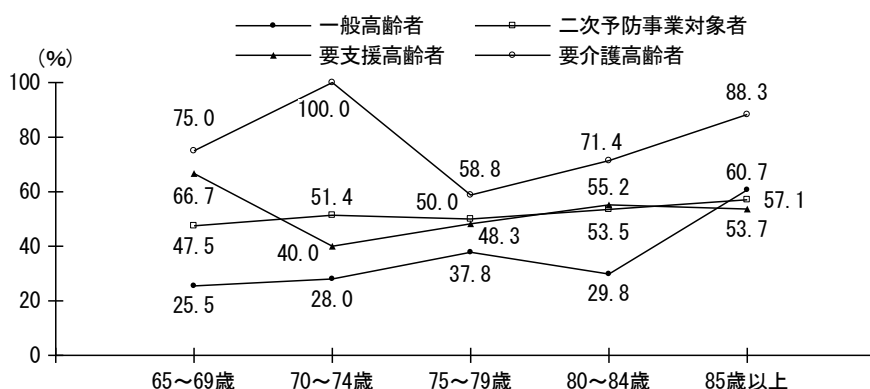
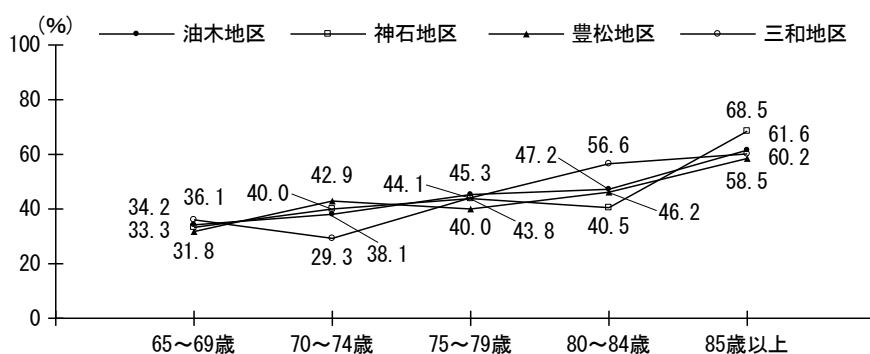


図 地区別年齢階級別該当者割合



ウ 認知機能障害程度（CPS）

(7) 認知機能障害程度（CPS）判定フロー

認知機能障害程度（CPS）判定フローは次のとおりです。

表 認知機能障害程度（CPS）判定フロー

<ステップ1>

問番号	質問項目	
問32	その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか	
	できる	ステップ2へ
	いくらか困難があるが、できる	
	だれかの合図や見守りがあればできる	
できない	ステップ4へ	

<ステップ2>

問番号	質問項目		点数
問31④	5分前のことが思い出せますか		点数
	はい	0	
	いいえ	1	
問32	その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか		点数
	できる	0	
	いくらか困難があるが、できる	1	
	だれかの合図や見守りがあればできる	1	
問33	人に自分の考えを上手く伝えられますか		点数
	伝えられる	0	
	いくらか困難であるが、伝えられる	1	
	あまり伝えられない	1	
	ほとんど伝えられない	1	

<該当点数により以下の判定>

点数	判定
0点	0レベル：自立
1点	1レベル：境界的
2点以上	ステップ3へ（2項目以上該当）

<ステップ3>

問番号	質問項目		点数
問32	その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか		点数
	できる	0	
	いくらか困難があるが、できる	0	
	だれかの合図や見守りがあればできる	1	
問33	人に自分の考えを上手く伝えられますか		点数
	伝えられる	0	
	いくらか困難であるが、伝えられる	0	
	あまり伝えられない	1	
	ほとんど伝えられない	1	

<該当点数により以下の判定>

点数	判定
0点	2レベル：軽度の障害
1点	3レベル：中程度の障害
2点	4レベル：やや重度の障害

<ステップ4：ステップ1で「できない」と答えた人>

問番号	質問項目	
問44③	食事を自分で食べることができますか	
	できる	5レベル：重度の障害
	一部介助があればできる	
できない	6レベル：最重度の障害	

<障害程度区分>

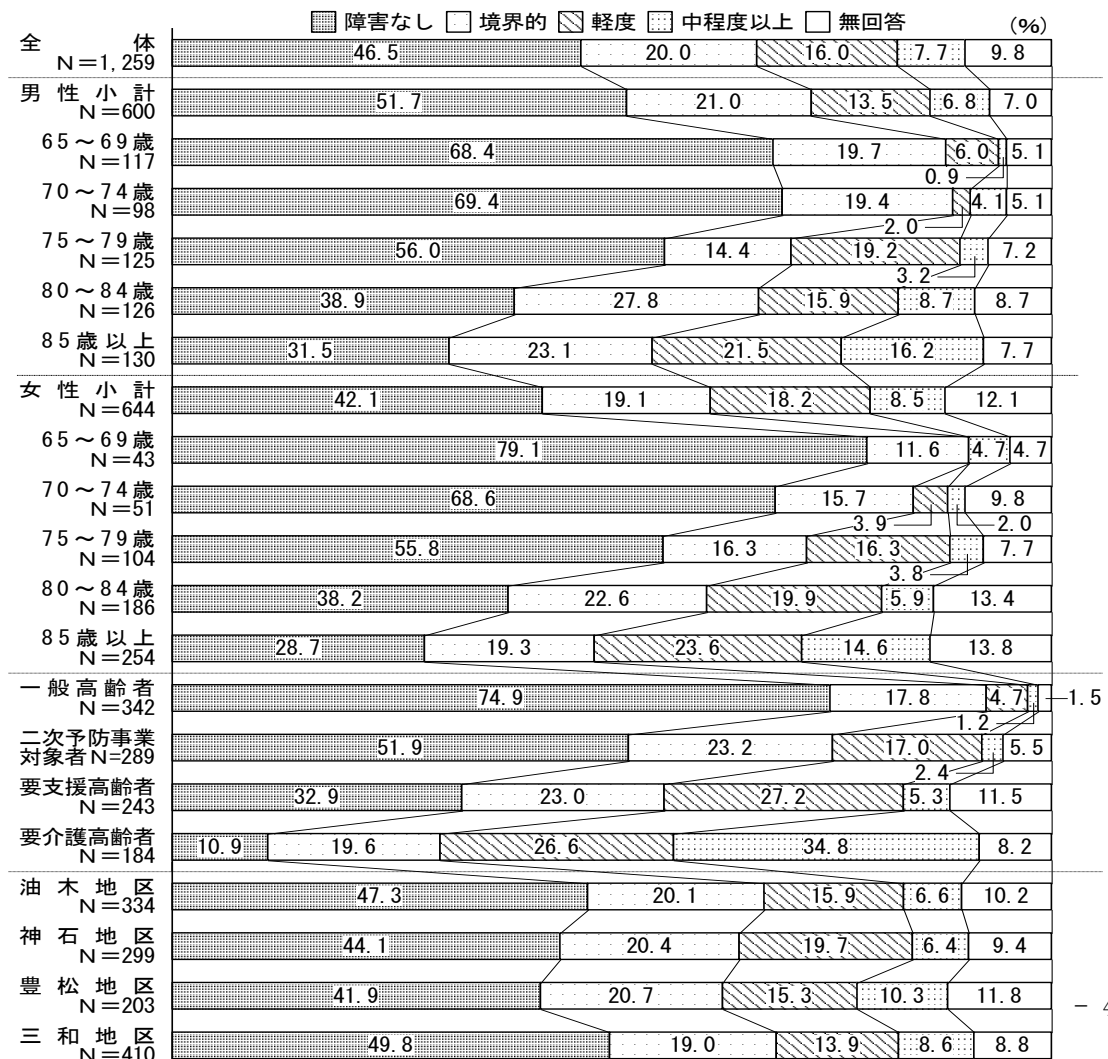
区分	状態
0レベル	自立
1レベル	境界的
2レベル	軽度の障害
3レベル	中程度の障害
4レベル	やや重度の障害
5レベル	重度の障害
6レベル	最重度の障害

(イ) 認知機能障害程度（CPS）判定の結果

認知機能障害程度（CPS）判定フローに基づく結果をみると、1レベル（境界的）以上の障害程度と評価される人の割合は、全体（一般高齢者、二次予防事業対象者、要支援高齢者、要介護高齢者の合計）で43.7%になっています。男女別にみると、男性41.3%、女性45.8%でやや女性の割合が高くなっています。年齢別にみると、年齢が増すにつれて割合が高くなっています。

介護度別に認知機能障害程度（CPS）をみると、認定状況が重くなるにつれて1レベル（境界的）以上の障害程度と評価される人の割合が高くなっており、要介護者では8割以上に達しています。

図 該当者割合

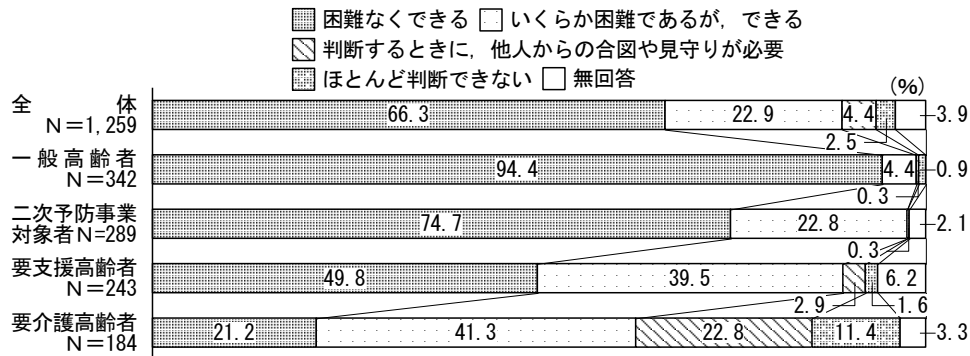


エ その日の活動の判断について

その日の活動の判断について、「判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」4.4%、「ほとんど判断できない」2.5%で、これらを合わせた見守りが必要な人は6.9%です。

介護度別に見守りが必要な人をみると、要介護高齢者が34.2%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者4.5%等の順で、要介護高齢者では約1/3を占めています。

図 その日の活動の判断について

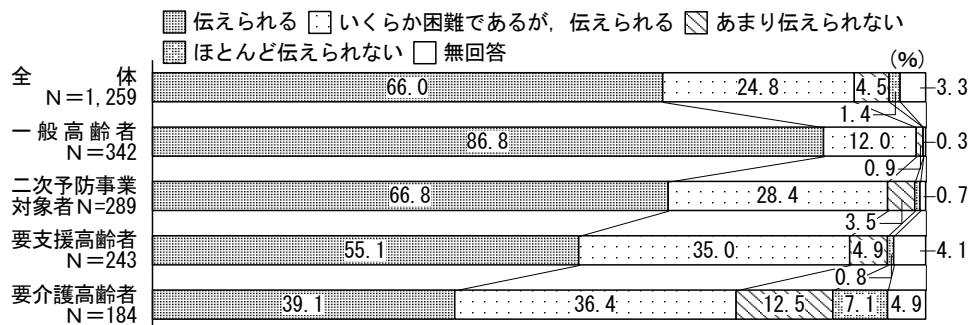


オ 人に自分の考えを伝えることについて

人に自分の考えを伝えることについて、「あまり伝えられない」4.5%、「ほとんど伝えられない」1.4%で、自分の考えが伝えられない人が5.9%です。

介護度別に自分の考えが伝えられない人をみると、要介護高齢者が19.6%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者5.7%、二次予防事業対象者4.2%等の順で、要介護高齢者では約2割を占めています。

図 人に自分の考えを伝えることについて

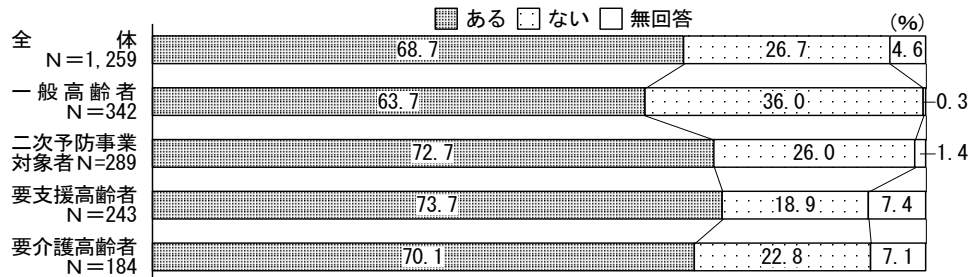


カ 認知症になることへの不安の有無

自分が認知症になったらという不安が「ある」と答えた人は68.7%です。

介護度別に自分が認知症になったらという不安が「ある」と答えた人を見ると、一般高齢者63.7%、二次予防事業対象者72.7%、要支援高齢者で73.7%、要介護高齢者70.1%になっており、二次予防事業対象者以上の介護度では70%以上になっています。

図 認知症になることへの不安の有無

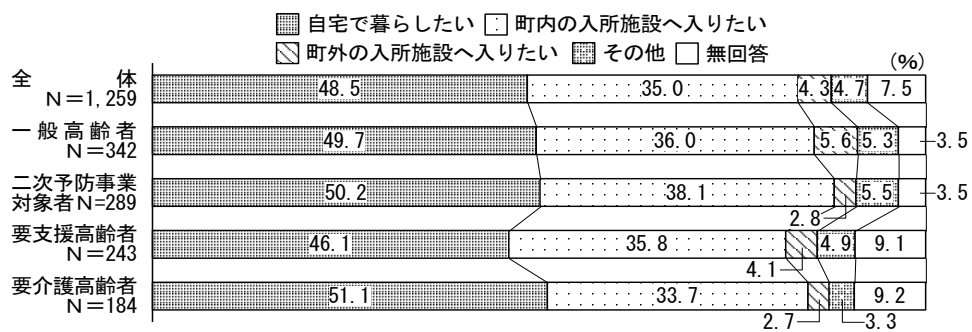


キ 認知症になった時に暮らしたい場所

認知症になった時に暮らしたい場所は、「自宅で暮らしたい」を挙げた人が48.5%で最も割合が高く、次いで「町内の入所施設へ入りたい」35.0%、「町外の入所施設へ入りたい」4.3%等の順で、自宅または町内の入所施設を挙げた人が大部分を占めています。

介護度別に認知症になったときに暮らしたい場所を見ると、各介護度ともに全体とほぼ同様の割合になっています。

図 認知症になった時に暮らしたい場所

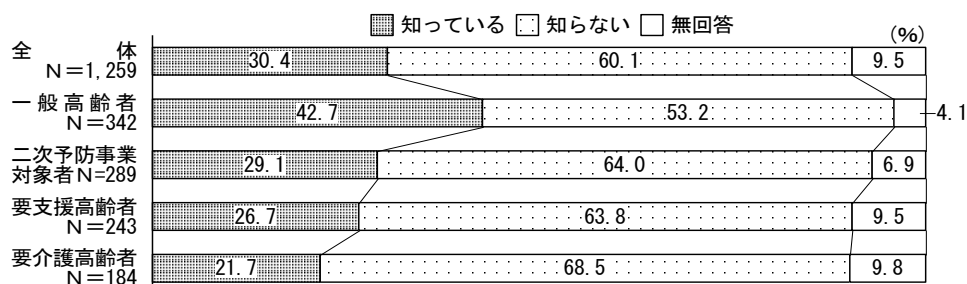


ク 認知症サポーターの認知

認知症サポーター制度について「知っている」と答えた人は30.4%と低い割合になっています。

介護度別に認知症サポーター制度について「知っている」と答えた人を見ると、一般高齢者42.7%、二次予防事業対象者29.1%、要支援高齢者26.7%、要介護高齢者21.7%になっており、介護度が重くなるにつれて割合が低くなっています。

図 認知症サポーターの認知

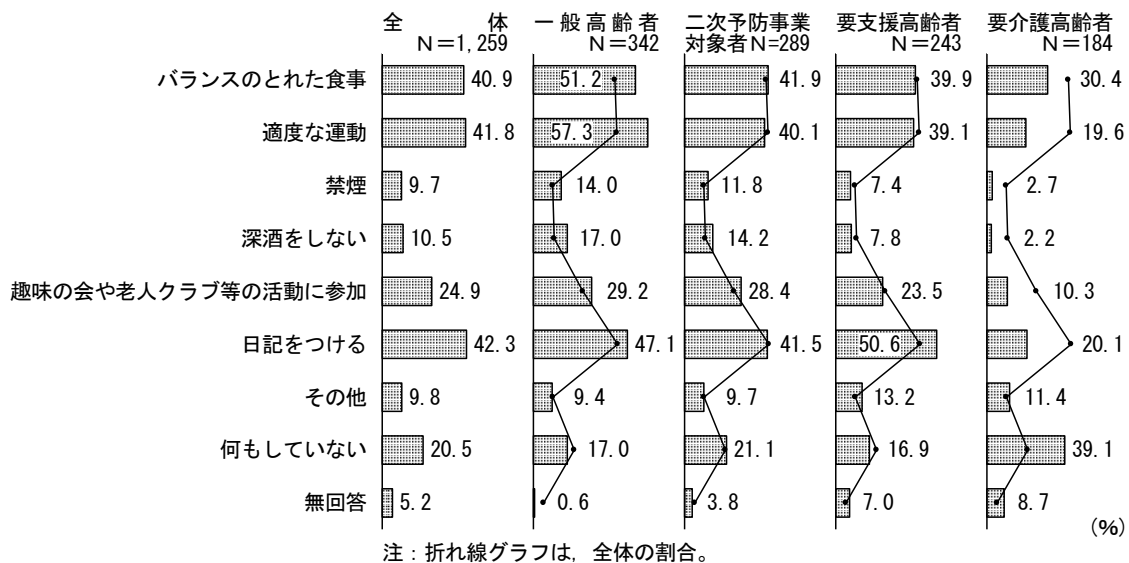


ケ 認知症を予防するために気をつけていること

認知症を予防するために気をつけていることがある（100%から「特にない」と無回答の割合を引いた値）と答えた人は74.3%です。

認知症を予防するために気をつけていることがあると答えた人の気をつけていることの内容は、「日記をつける」と答えた人が42.3%で最も割合が高く、次いで「適度な運動」41.8%、「バランスのとれた食事」40.9%、「趣味の会や老人クラブ等の活動に参加」24.9%等の順で、日記、食事、運動の3項目を挙げた人の割合が高くなっています。

図 認知症を予防するために気をつけていること（複数回答：いくつでも）

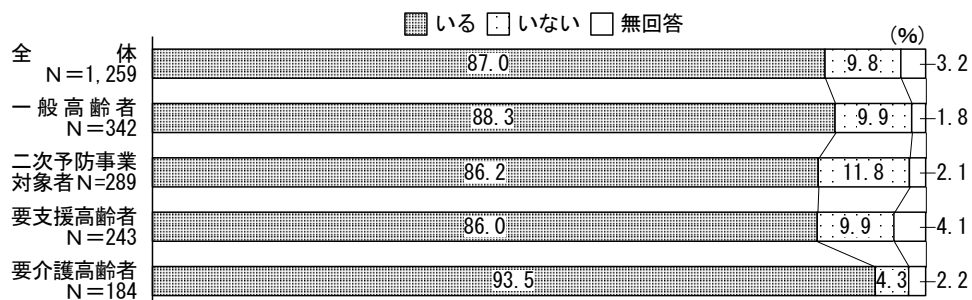


コ 通帳や金銭管理が難しくなった時に管理してくれる人の有無

金銭管理をしてくれる人が「いない」と答えた人は9.8%で、無回答を加えると金銭管理をしてくれる人がいないと見込まれる高齢者が10%以上になっています。

介護度別に金銭管理をしてくれる人が「いない」と答えた人をみると、一般高齢者、二次予防事業対象者、要支援高齢者ともに全体とほぼ同様の割合で、要介護高齢者は4.3%と他の介護度の半分以下になっています。

図 通帳や金銭管理が難しくなった時に管理してくれる人の有無



(7) 日常生活について

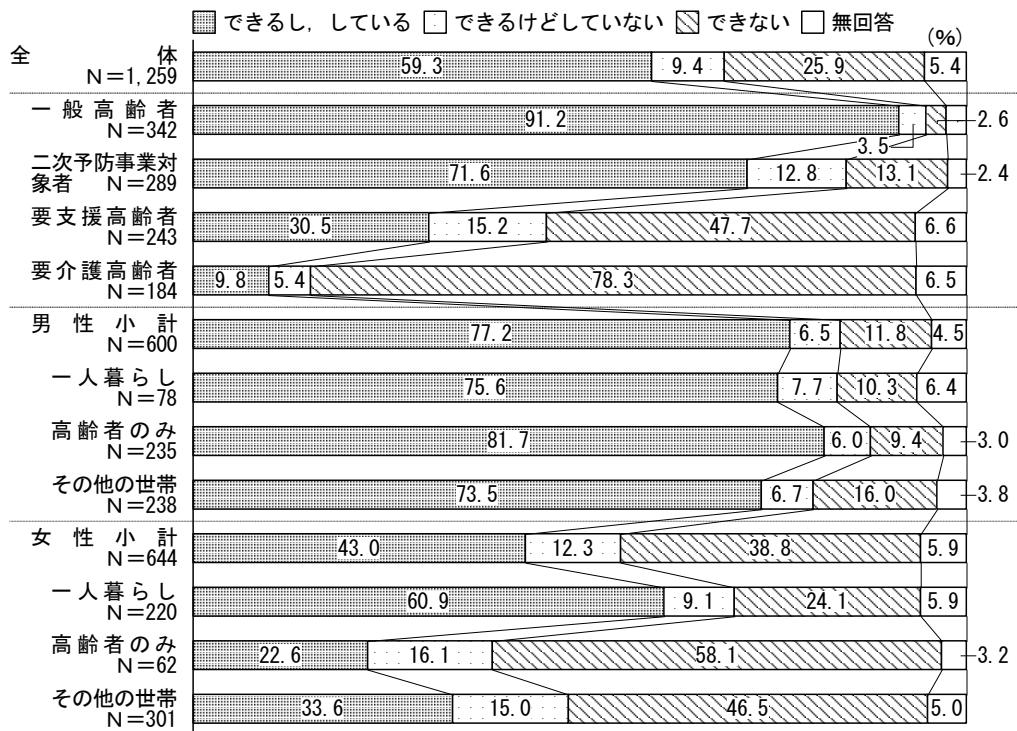
ア 一人で外出すること

一人で外出することが「できない」と答えた人は25.9%です。

介護度別に一人で外出することが「できない」と答えた人をみると、要介護高齢者が78.3%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者47.7%，二次予防事業対象者13.1%，一般高齢者2.6%の順で、要支援高齢者及び要介護高齢者では一人で外出困難な高齢者の割合が高くなっています。

男女別家族構成別に一人で外出することが「できない」と答えた人をみると、男性に比べて女性の各世帯で一人で外出することができない人の割合が高く、特に高齢者のみの世帯では約6割になっています。

図 一人で外出すること



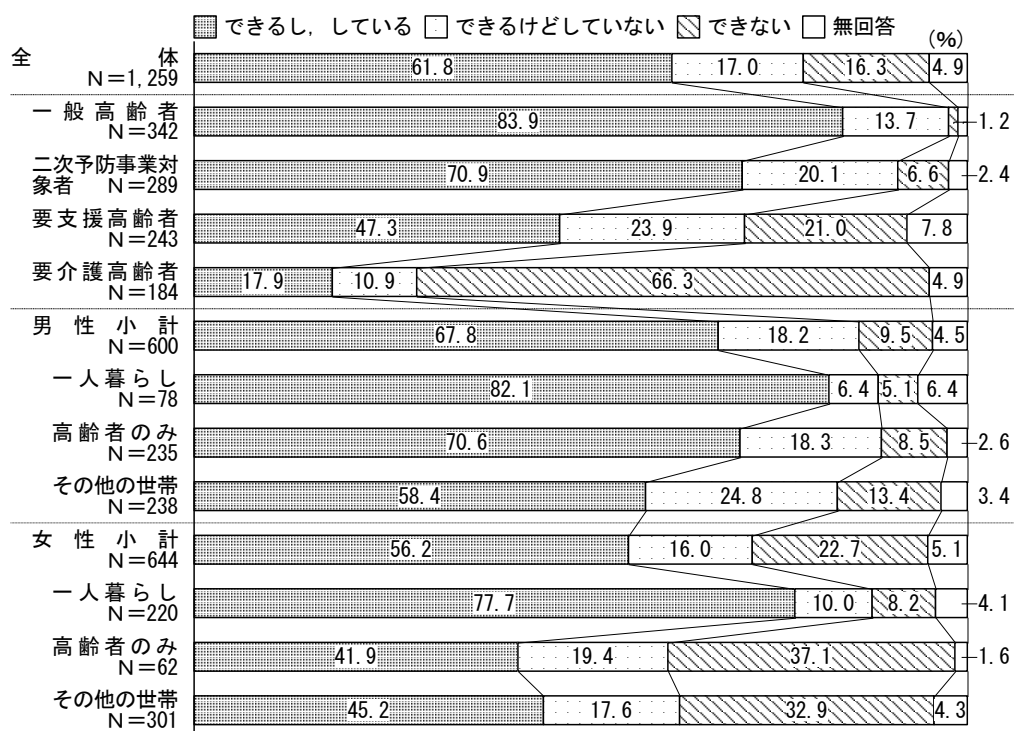
イ 日用品や食料品の買い物を自分ですること

日用品や食料品の買い物を自分で「できない」と答えた人は16.3%です。

介護度別に日用品や食料品の買い物を自分で「できない」と答えた人を見ると、要介護高齢者が66.3%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者20.1%、二次予防事業対象者6.6%、一般高齢者1.2%の順です。

男女別家族構成別に日用品や食料品の買い物を自分で「できない」と答えた人を見ると、男性に比べて女性の各世帯で買い物を自分でできない人の割合が高く、特に高齢者のみの世帯では37.1%になっています。

図 日用品や食料品の買い物を自分ですること



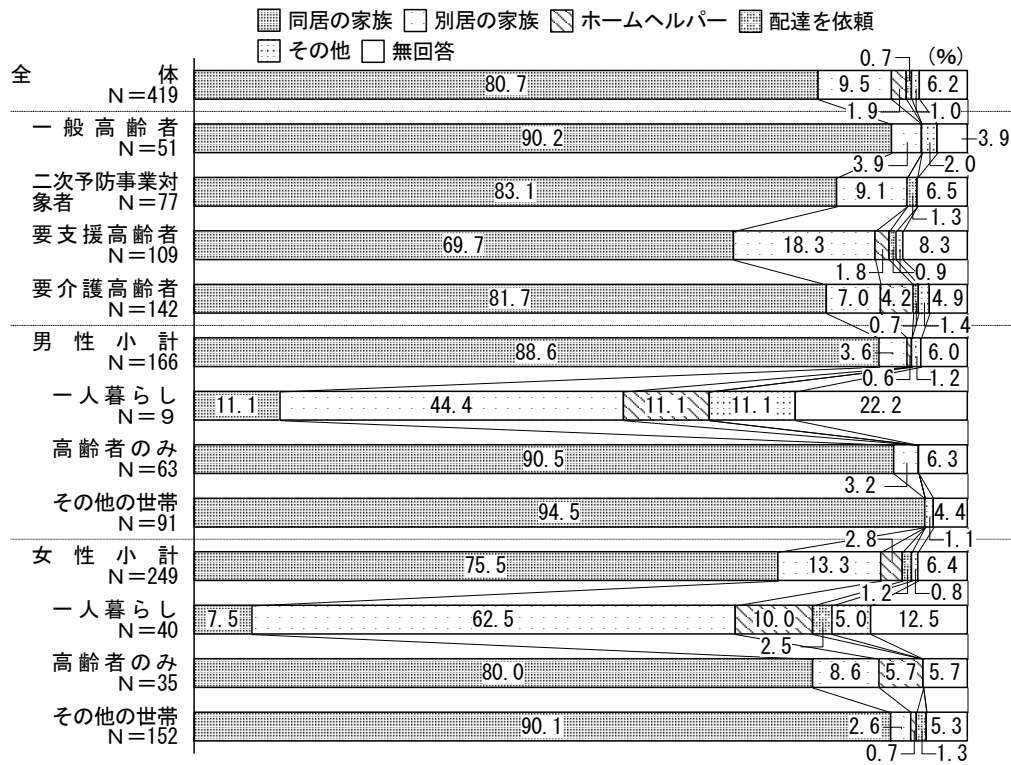
ウ 日用品や食料品の買い物を自分でしない人の日用品や食料品の買い物を主にしてくれる人

日用品や食料品の買い物を自分でしない人の日用品や食料品の買い物を主にしてくれる人をみると、「同居の家族」が80.7%で大部分を占め、次いで「別居の家族」9.5%、「ホームヘルパー」1.9%等の順です。

介護度別に日用品や食料品の買い物を主にしてくれる人をみると、各介護度ともに全体と同様に「同居の家族」が大部分を占めています。要支援高齢者では「別居の家族」と答えた人が18.3%で一定割合を占めています。

男女別家族構成別に日用品や食料品の買い物を主にしてくれる人をみると、一人暮らし世帯では「別居の家族」と答えた人が男性で44.4%、女性で62.5%になっており、それぞれ最も割合が高くなっています。その他では「ホームヘルパー」が男性で11.1%、女性で10.0%になっています。

図 食料品の買い物を主にしてくれる人



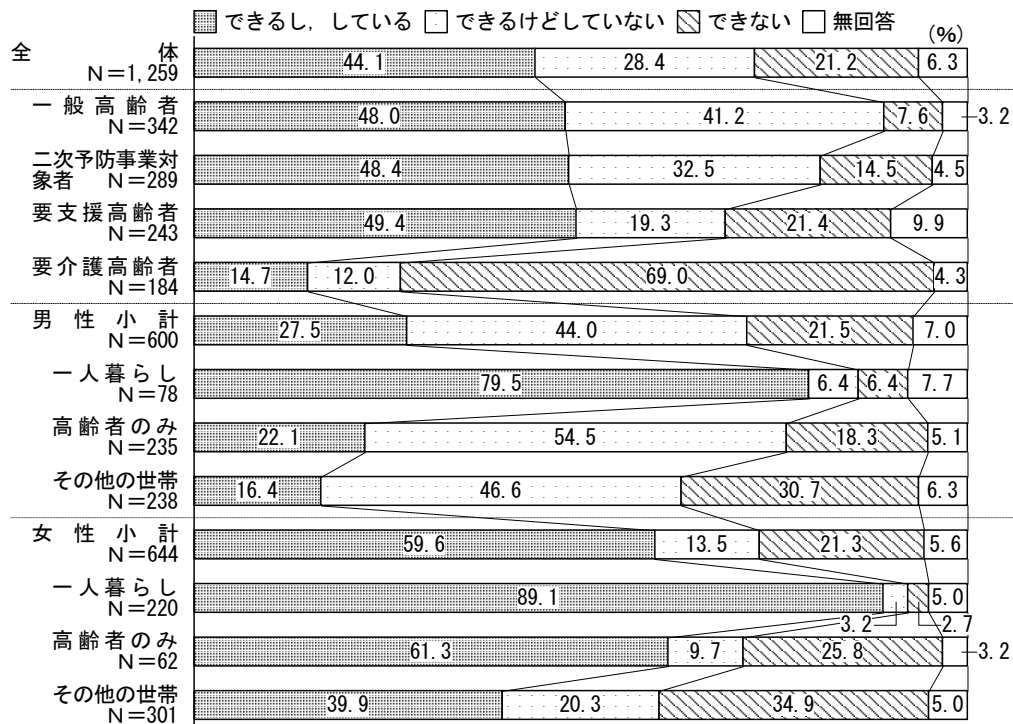
エ 自分で食事の用意をすること

自分で食事の用意を「できない」と答えた人は21.2%です。

介護度別に食事の用意を「できない」と答えた人を見ると、要介護高齢者が69.0%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者21.4%、二次予防事業対象者14.5%、一般高齢者7.6%の順です。

男女別家族構成別に食事の用意を「できない」と答えた人を見ると、一人暮らし世帯の男性で6.4%、女性で2.7%です。高齢者のみの世帯では男性で18.3%、女性で25.9%になっており、一人暮らし及び高齢者のみの世帯において自分で食事の用意をできない人が一定割合を占めています。

図 自分で食事の用意をすること

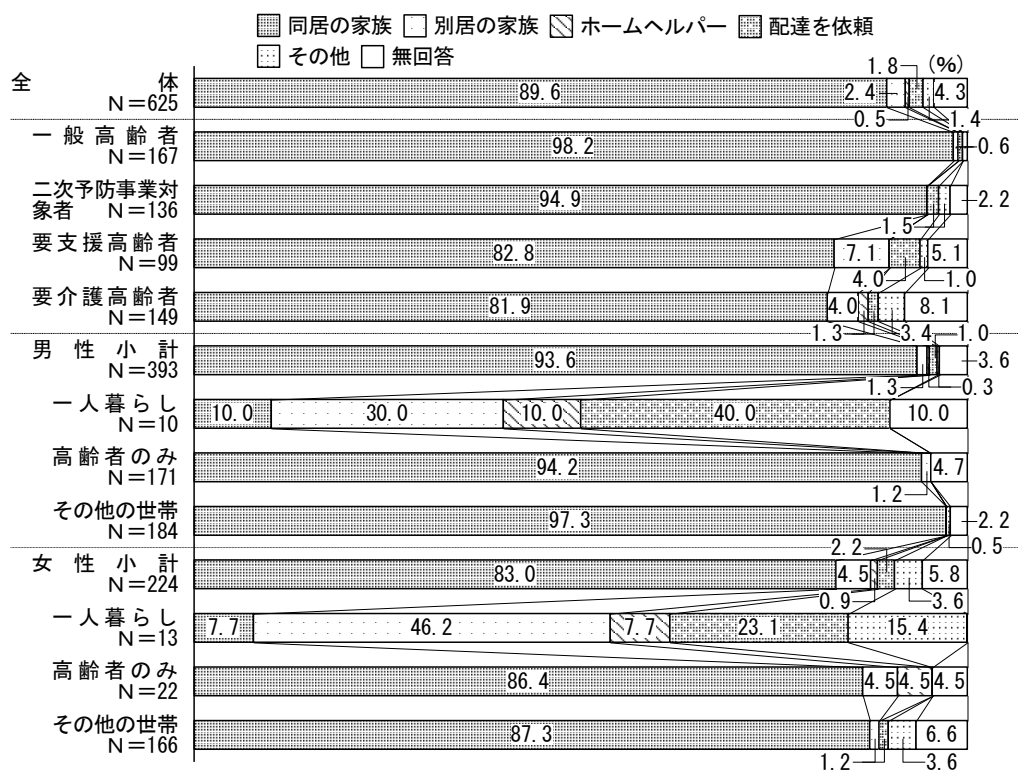


オ 自分で食事の用意をしない人の食事の用意を主にしてくれる人

自分で食事の用意をしない人の食事の用意を主にしてくれる人は、「同居の家族」が89.6%でほとんどを占めています。

介護度別に食事を用意してくれる人をみると、各介護度ともに「同居の家族」が大部分を占めています。その他の項目をみると、要支援高齢者は「別居の家族」,「配達を依頼」, 要介護高齢者では「別居の家族」が一定割合を占めています。

図 食事の用意を主にしてくれる人



カ 日常生活の状況について

(ア) 一般高齢者

一般高齢者は、屋内での日常生活のうち「尿もれや尿失禁がない」及び「家事全般ができていける」の2項目を除く項目で90%以上の人ができると答えています。一方、「尿もれや尿失禁がない」及び「家事全般ができていける」の2項目は80%台です。また、「自分で請求書の支払いができるし、している」及び「自分で預貯金の出し入れができるし、している」の2項目は80%台になっています。

(イ) 二次予防事業対象者

二次予防事業対象者は、屋内での日常生活のうち「尿もれや尿失禁がない」及び「家事全般ができていける」の2項目を除く項目で80%以上の人ができると答えています。一方、「尿もれや尿失禁がない」57.8%、「家事全般ができていける」70.9%で他の項目に比べて割合が低くなっています。また、「自分で50m以上歩ける」は80%台、「自分で請求書の支払いができるし、している」及び「自分で預貯金の出し入れができるし、している」は70%台になっています。

一般高齢者に比べて、「自分で請求書の支払いができるし、している」、「自分で預貯金の出し入れができるし、している」、「自分で50m以上歩ける」、「階段の昇り降りができる」、「大便の失敗がない」、「尿もれや尿失禁がない」及び「家事全般ができていける」の項目で割合が低下しています。

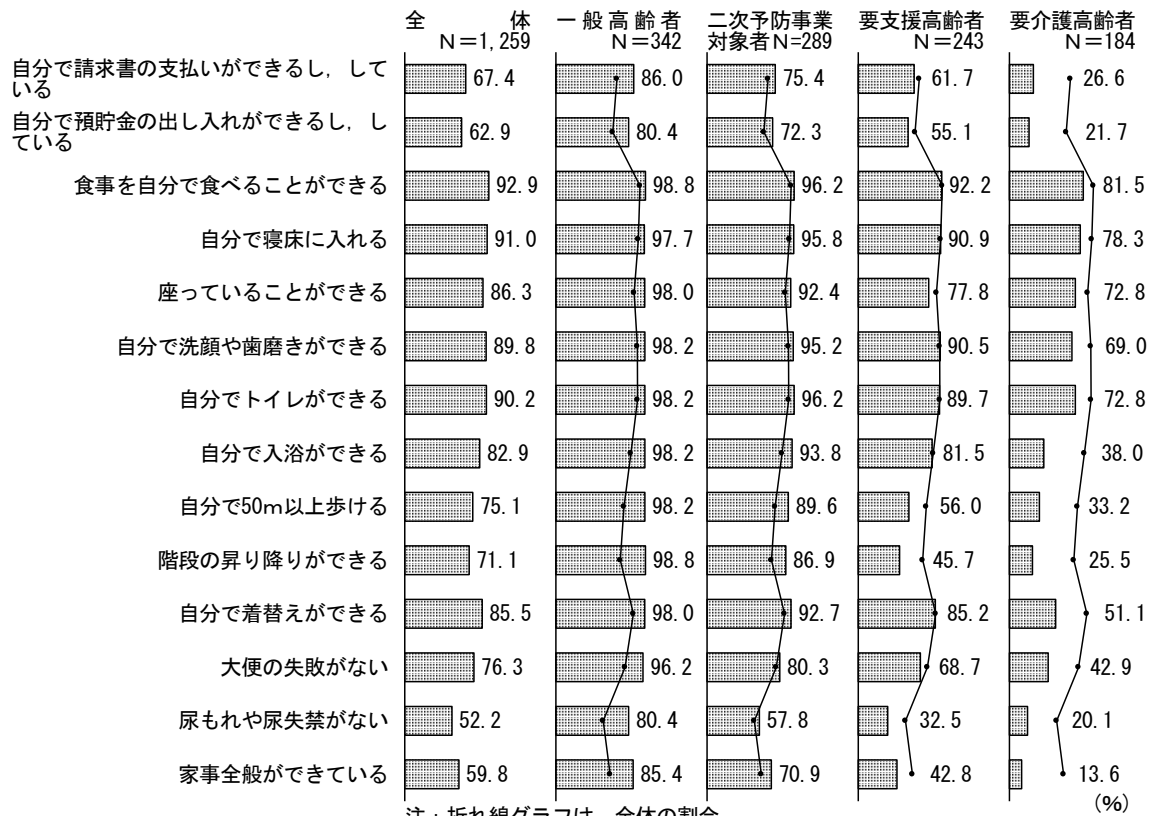
(ウ) 要支援高齢者

要支援高齢者は、屋内での日常生活のうち、食事、寝床に入ること、洗顔や歯磨き、トイレ、入浴、着替えについては80%以上の人ができると答えています。一方で、「座ることができる」は70%台、「自分で請求書の支払いができるし、している」及び「大便の失敗がない」60%台、「自分で預貯金の出し入れができるし、している」及び「自分で50m以上歩ける」50%台、「階段の昇り降りができる」及び「家事全般ができていける」は40%台、「尿もれや尿失禁がない」は30%台になっています。

(エ) 要介護高齢者

要介護高齢者については、屋内での日常生活のうち、食事、寝床に入ること、座っていること、トイレが自分でできると答えた人が70%以上、洗顔や歯磨き60%台、着替え50%台になっています。そのほかの生活動作は50%未満になっており、「家事全般ができていける」は10%台、「自分で請求書の支払いができるし、している」、「自分で預貯金の出し入れができるし、している」、「階段の昇り降りができる」及び「尿もれや尿失禁がない」の4項目は20%台と割合が低くなっています。

図 日常生活の状況について



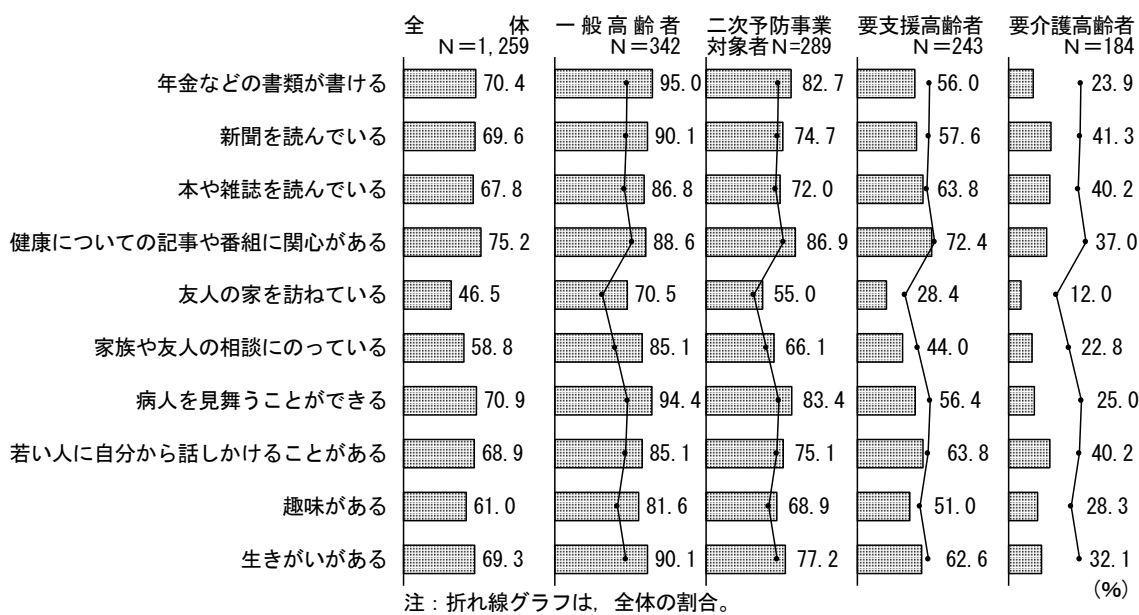
(8) 社会参加について

ア 社会参加の状況

社会参加の状況をみると、「健康についての記事や番組に関心がある」、「病人を見舞うことができる」、「年金などの書類が書ける」の3項目が70%台、「新聞を読んでいる」、「生きがいがある」、「若い人に自分から話しかけることがある」、「本や雑誌を読んでいる」、「趣味がある」の5項目が60%台、「家族や友人の相談にのっている」、「友人の家を訪ねている」の2項目が50%前後になっています。

介護度別に社会参加の状況をみると、介護度が重くなるにつれてそれぞれの社会参加の割合が低くなっており、要介護高齢者では全ての項目で50%未満になっています。

図 社会参加の状況



イ 会・グループ等への参加状況

会・グループ等へ月1回以上参加していると答えた人の割合をみると次のとおりです。

一般高齢者をみると、「町内会・自治会」と答えた人が23.5%で最も割合が高く、次いで「趣味関係のグループ」18.2%、「スポーツ関係のグループやクラブ」16.7%、「その他の団体や会」12.9%、「ボランティアのグループ」12.1%、「老人クラブ」及び「地域のふれあいサロン」8.5%等の順です。

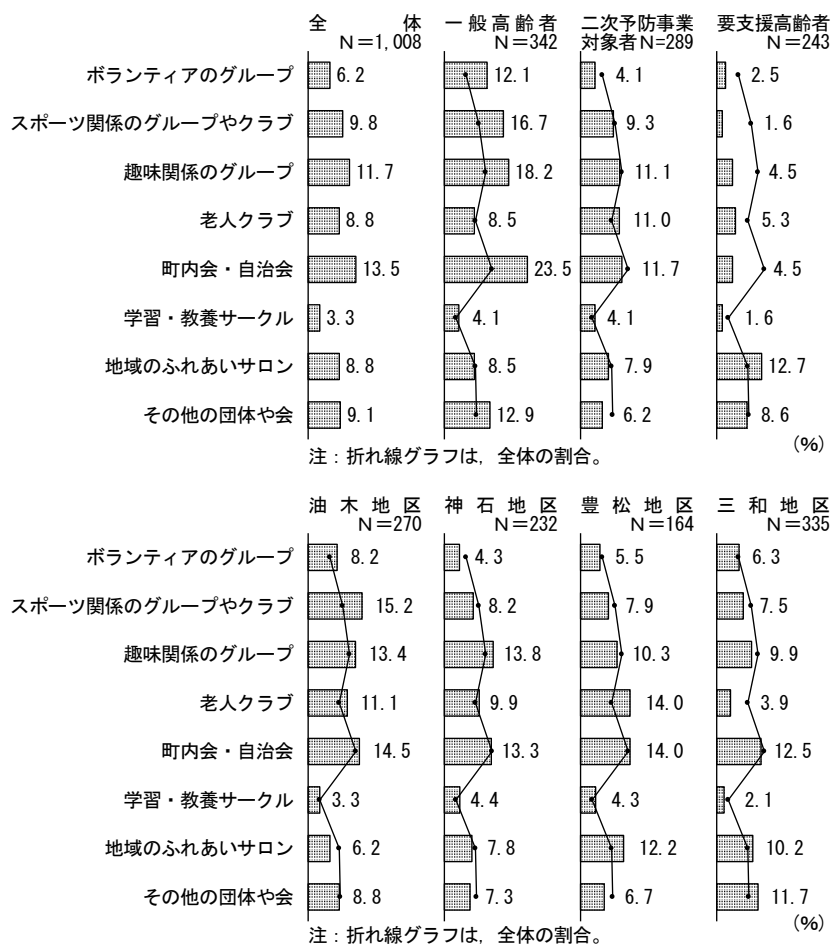
二次予防事業対象者をみると、「町内会・自治会」と答えた人が11.7%で最も割合が高く、次いで「趣味関係のグループ」11.1%、「老人クラブ」10.0%、「スポーツ関係のグループやクラブ」9.3%、「地域のふれあいサロン」7.9%、「ボランティアのグループ」及び「学習・教養サークル」4.1%等の順になっており、一般高齢者に比べて老人クラブを除く会・グループ等への参加の割合が低くなっています。

要支援高齢者をみると、「地域のふれあいサロン」と答えた人が12.7%で最も割合が高く、次いで「その他の団体や会」8.6%、「老人クラブ」5.3%、「趣味関係のグループ」及び「町内会・自治会」4.5%等の順になっており、「地域のふれあいサロン」以外の参加率は10%未満になっています。

要介護高齢者は会・グループ等への参加がほとんどないため記載していません。

地区別にみると、油木では「スポーツ関係のグループやクラブ」、豊松地区では「老人クラブ」及び「地域のふれあいサロン」の割合が高くなっています。一方、三和地区では「老人クラブ」の割合が低くなっています。神石地区は概ね全体と同様の割合になっています。

図 会・グループ等への参加状況



ウ 社会参加活動や仕事の状況

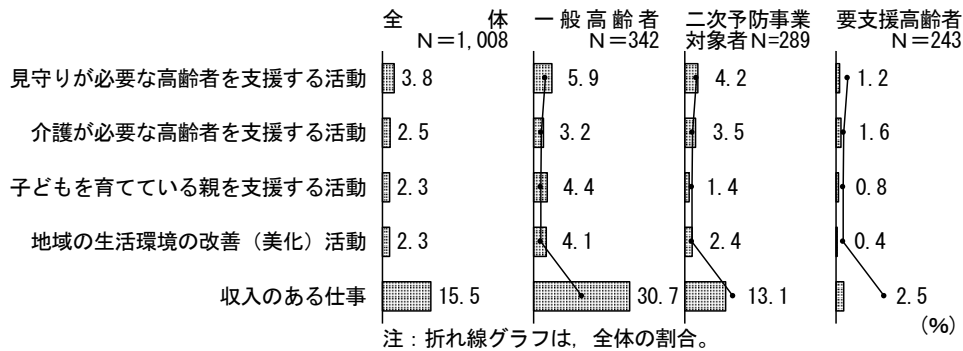
社会参加活動や仕事に月1回以上参加している人は次のとおりです。

一般高齢者をみると、「収入のある仕事」と答えた人が30.7%で最も割合が高く、次いで「見守りが必要な高齢者を支援する活動」5.9%、「子どもを育てている親を支援する活動」4.4%、「地域の生活環境の改善（美化）活動」4.1%、「介護が必要な高齢者を支援する活動」3.2%の順になっており、「収入のある仕事」以外の参加はほとんどありません。

二次予防事業対象者をみると、「収入のある仕事」と答えた人が13.1%で最も割合が高く、その他の活動への参加はほとんどありません。

要支援高齢者をみると、全ての項目で参加はほとんどありません。

図 社会参加活動や仕事の状況



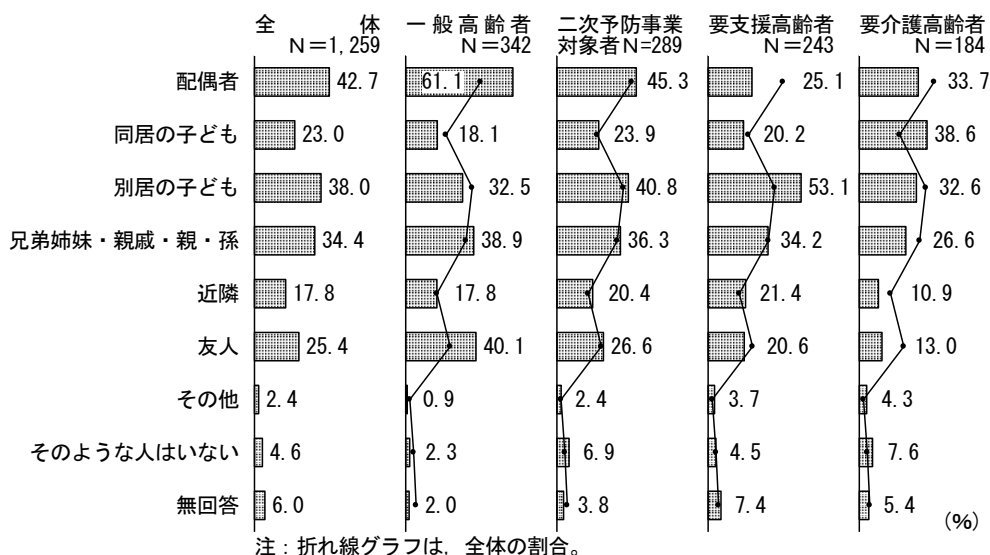
エ 心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人がいると答えた人（100%から「そのような人はいない」と無回答の割合を引いた値）は89.4%です。

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」と答えた人が42.7%で最も割合が高く、次いで「別居の子ども」38.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」34.4%、「友人」25.4%、「同居の子ども」23.0%、「近隣」17.8%等の順です。

介護度別に心配事や愚痴を聞いてくれる人をみると、一般高齢者は「配偶者」と「友人」の割合が高くなっています。二次予防事業対象者は全体とほぼ同様の割合になっています。要支援高齢者は「別居の子ども」の割合が高く、「配偶者」の割合が低くなっています。要介護高齢者は「同居の子ども」の割合が高くなっています。

図 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答：いくつでも）



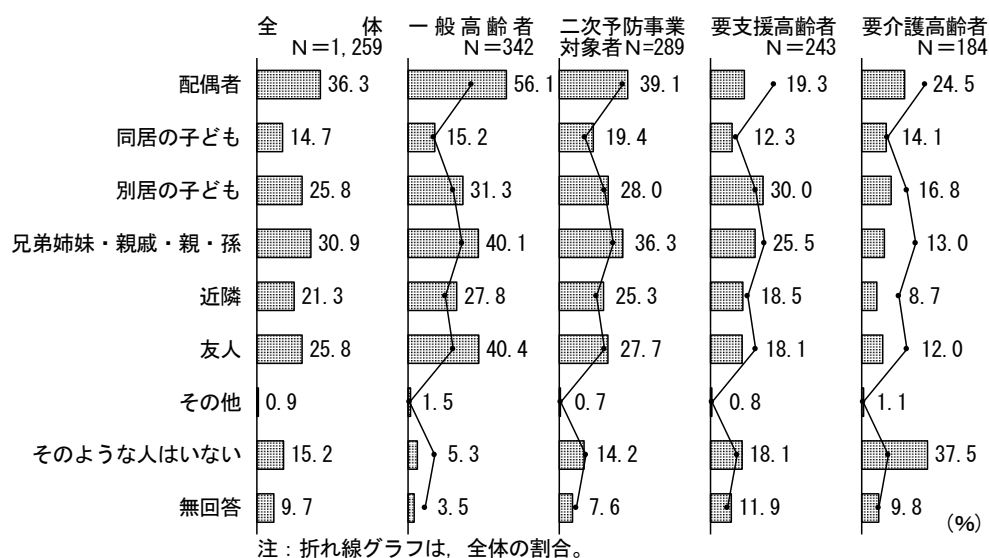
オ 心配事や愚痴を聞いてあげる人

心配事や愚痴を聞いてあげる人がいると答えた人（100%から「そのような人はいない」と無回答の割合を引いた値）は75.1%です。

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」と答えた人が36.3%で最も割合が高く、次いで「兄弟・親戚・親・孫」30.9%、「別居の子ども」及び「友人」25.8%、「近隣」21.3%、「同居の子ども」14.7%等の順です。

介護度別に心配事や愚痴を聞いてあげる人をみると、一般高齢者は「配偶者」、「友人」及び「兄弟・親戚・親・孫」の割合が高くなっています。二次予防事業対象者は全体とほぼ同様の割合になっています。要支援高齢者は「配偶者」の割合が低くなっている以外は、全体とほぼ同様の割合になっています。要介護高齢者は全体的に割合が低くなっています。

図 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答：いくつでも）



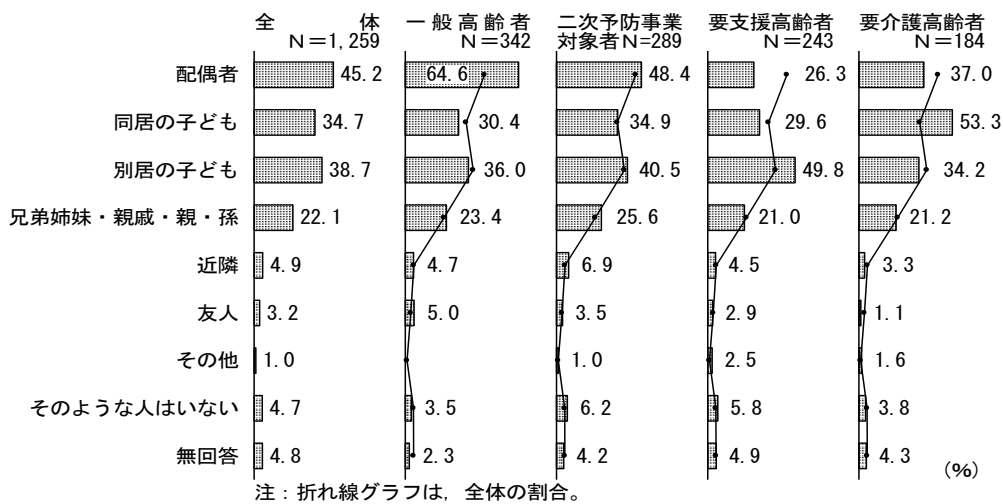
カ 数日間寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人

数日間寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人がいると答えた人（100%から「そのような人はいない」と無回答の割合を引いた値）は90.5%です。

数日間寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」と答えた人が45.2%で最も割合が高く、次いで「別居の子ども」38.7%、「同居の子ども」34.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」22.1%等の順です。

介護度別に数日間寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人をみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者では全体とほぼ同様の割合になっています。要支援高齢者では「別居の子ども」の割合が高く、「配偶者」の割合が低くなっています。要介護高齢者では「同居の子ども」の割合が高くなっています。

図 数日間寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人（複数回答：いくつでも）



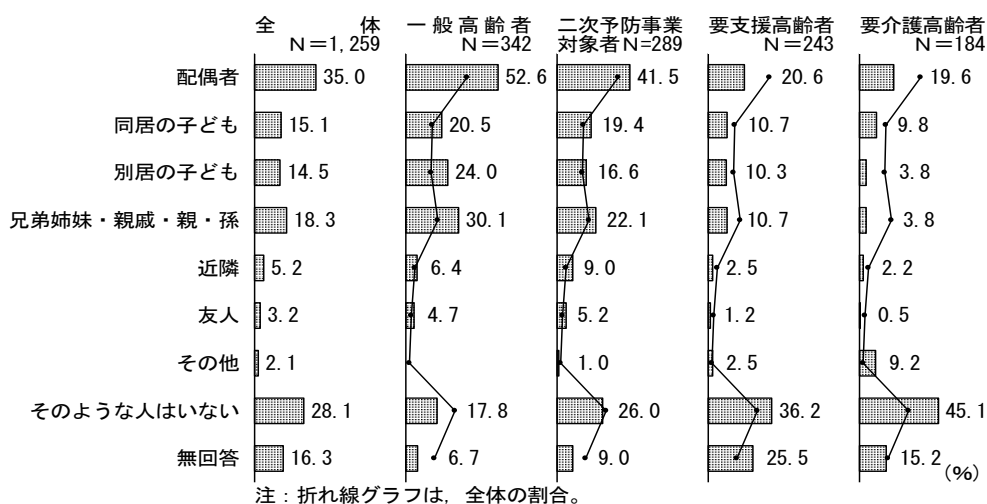
キ 看病や世話をしてあげる人

看病や世話をしてあげる人がいると答えた人（100%から「そのような人はいない」と無回答の割合を引いた値）は55.6%です。

看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」と答えた人が35.0%で最も割合が高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」18.3%、「同居の子ども」15.1%、「別居の子ども」14.5%等の順です。

介護度別に看病や世話をしてあげる人は、一般高齢者では「配偶者」及び「兄弟姉妹・親戚・親・孫」をはじめとして高い割合となっていますが、介護度が重くなるにつれて割合が低くなっています。

図 看病や世話をしてあげる人（複数回答：いくつでも）



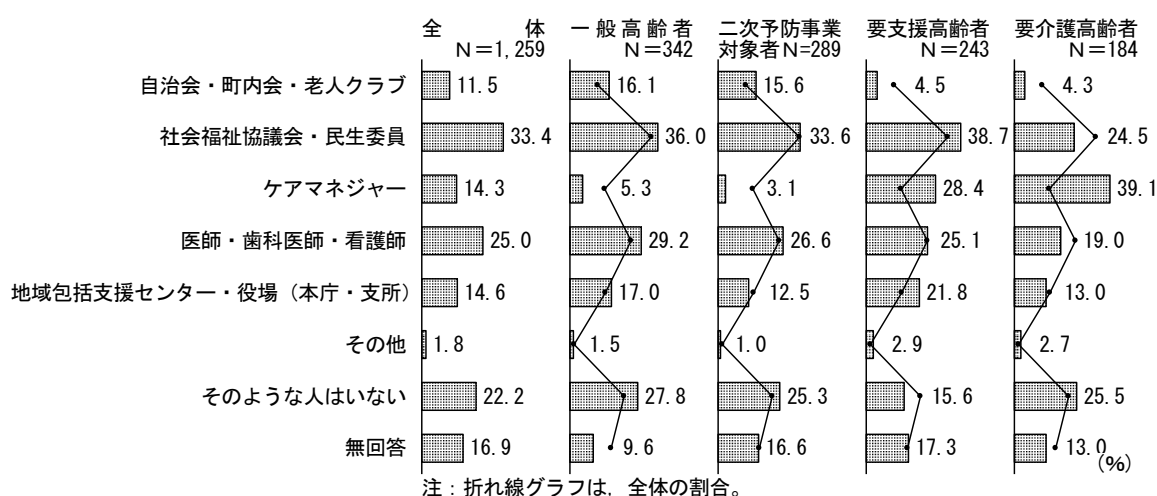
ク 家族、友人・知人以外の相談相手

家族、友人・知人以外の相談相手がいると答えた人（100%から「そのような人はいない」と無回答の割合を引いた値）は60.9%です。

家族、友人・知人以外の相談相手は、「社会福祉協議会・民生委員」と答えた人が33.4%で最も割合が高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」25.0%、「地域包括支援センター・役場（本庁・支所）」14.6%、「ケアマネジャー」14.3%、「自治会・町内会・老人クラブ」11.5%等の順です。

介護度別に家族、友人・知人以外の相談相手をみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者は全体とほぼ同様の割合になっています。要支援高齢者は「社会福祉協議会・民生委員」、「ケアマネジャー」及び「地域包括支援センター・役場（本庁・支所）」の割合が高くなっています。要介護高齢者は「ケアマネジャー」の割合が最も高くなっています。

図 家族、友人・知人以外の相談相手（複数回答：いくつでも）



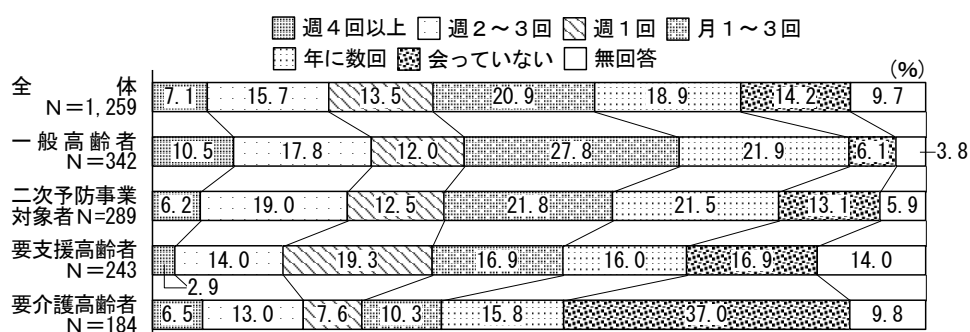
ケ 友人・知人と会う回数

友人・知人と会っていると答えた人（100%から「会っていない」と無回答の割合を引いた値）は76.1%です。

友人・知人に会う回数は、「月1～3回」と答えた人が20.9%で最も割合が高く、次いで「年に数回」18.9%、「週2～3回」15.7%、「週1回」13.5%、「週4回以上」7.1%の順で、週1回以上会っている人は4割弱です。

介護度別に友人・知人に週1回以上会っている人をみると、一般高齢者40.3%、二次予防事業対象者37.7%、要支援高齢者36.2%、要介護高齢者27.1%で、要介護高齢者を除く高齢者ではほぼ同程度の割合になっています。

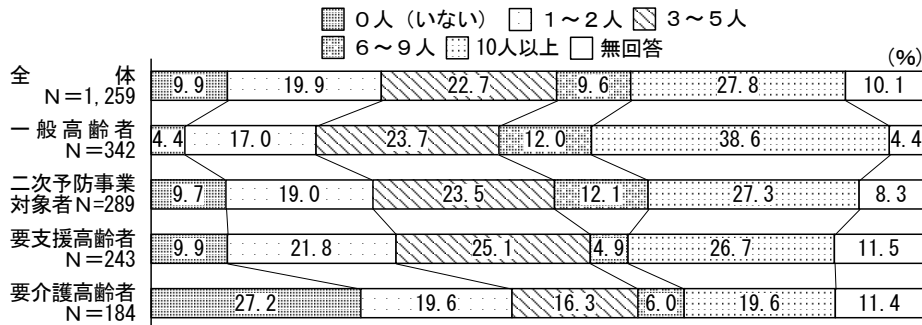
図 友人・知人と会う回数



コ 1か月以内に会った友人・知人の延べ人数

1か月以内に会った友人・知人の延べ人数は、「10人以上」と答えた人が27.8%で最も割合が高く、次いで「3～5人」22.7%、「1～2人」19.9%、「6～9人」9.6%の順で、「0人（いない）」と答えた人は9.9%です。

図 1か月以内に会った友人・知人の延べ人数



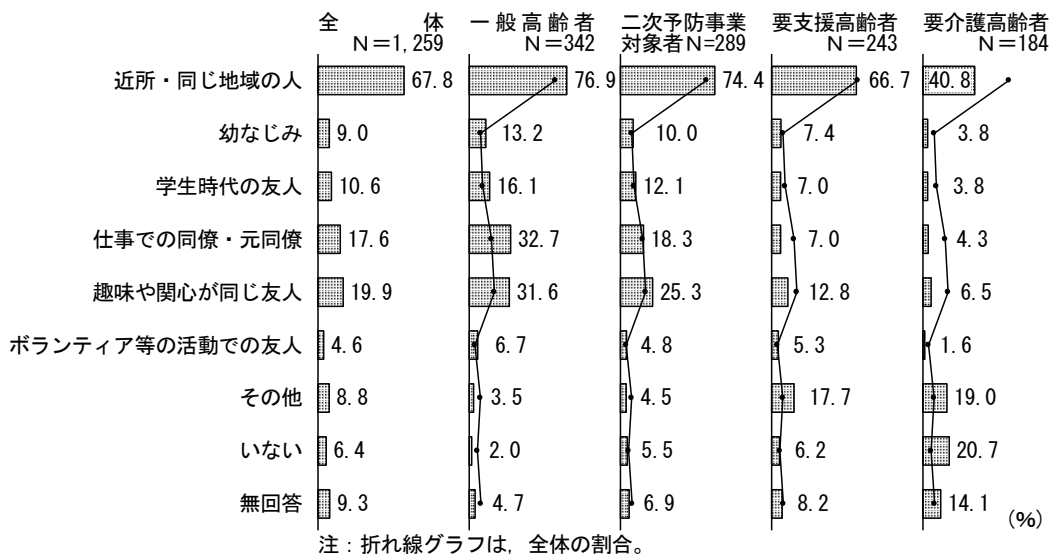
サ よく会う友人・知人との関係

よく会う友人・知人がいると答えた人（100%から「いない」と無回答の割合を引いた値）は84.3%です。

よく会う友人・知人は、「近所・同じ地域の人」と答えた人が67.8%で最も割合が高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」19.9%、「仕事での同僚・元同僚」17.6%、「学生時代の友人」10.6%、「幼なじみ」9.0%等の順です。

介護度別によく会う友人・知人をみると、各介護度ともに「近所・同じ地域の人」の割合が高くなっています。

図 よく会う友人・知人との関係（複数回答：いくつでも）



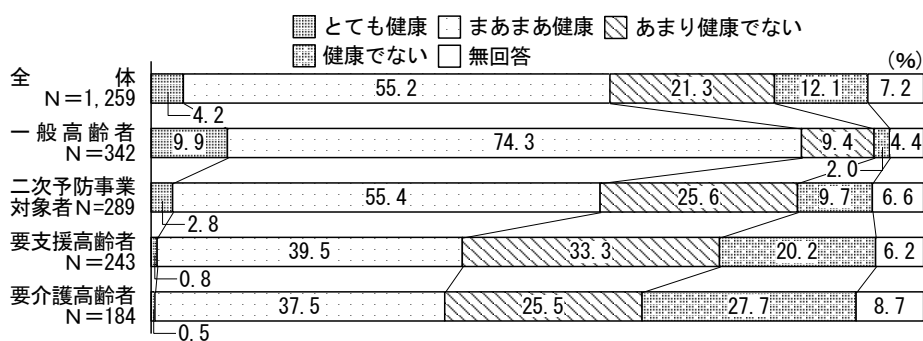
(9) 健康について

ア 健康状態

健康状態は、「とても健康」4.2%、「まあまあ健康」55.2%で、これらを合わせた健康と答えた人の割合は約6割です。

介護度別に健康と答えた人をみると、一般高齢者が84.2%で最も割合が高く、次いで二次予防事業対象者58.2%、要支援高齢者40.3%、要介護高齢者38.0%の順で、要支援高齢者及び要介護高齢者でも健康だと考えている人が約4割です。

図 健康状態



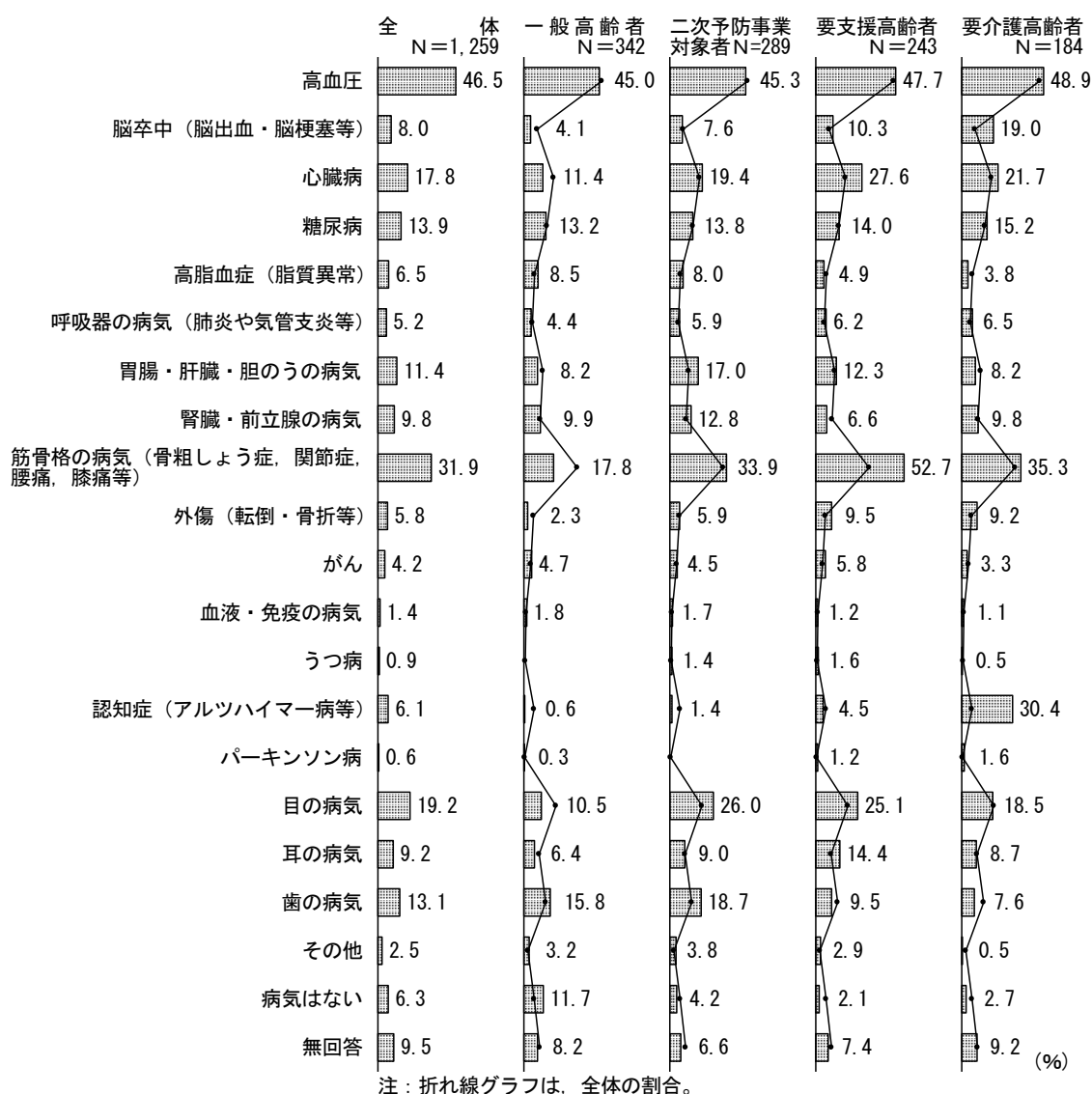
イ 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気がある人（100%から「病気はない」と無回答の割合を引いた値）は84.2%とほとんどを占めています。

現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」が46.5%で最も割合が高く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症、腰痛、膝痛等）」31.9%の順でこの2つの病気を挙げた人の割合が高くなっています。その他の病気をみると、「目の病気」19.2%、「心臓病」17.8%、「糖尿病」13.9%、「歯の病気」13.1%、「胃腸・肝臓・胆のうの病気」11.4%等の順です。

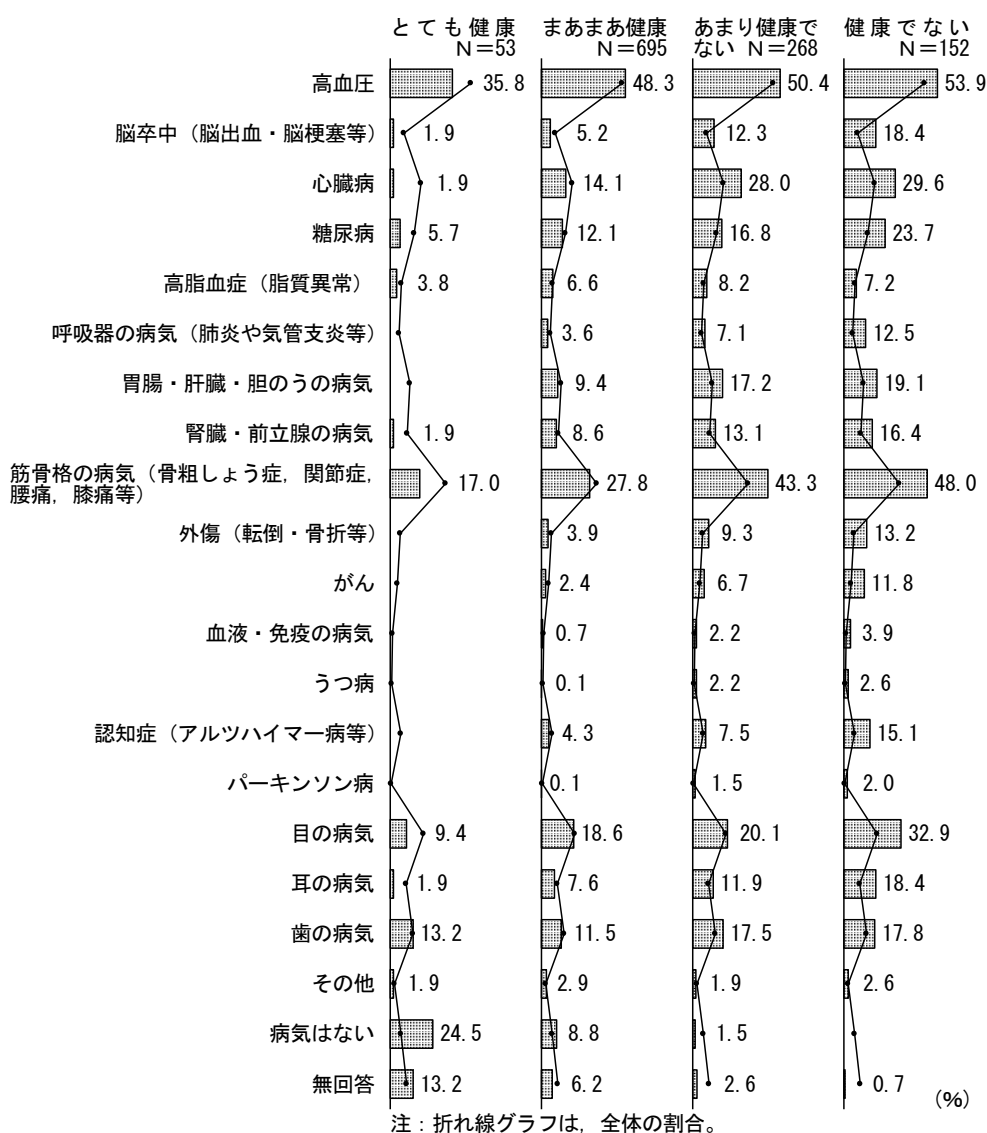
要介護度別に現在治療中、または後遺症のある病気のみると、各介護度ともに「高血圧」と「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症、腰痛、膝痛等）」が1位、2位を占めています。その他の病気をみると、二次予防事業対象者では「目の病気」、要支援高齢者では「心臓病」と「目の病気」、要介護高齢者では「認知症（アルツハイマー病等）」、「心臓病」が20%以上の割合になっています。

図 現在治療中、または後遺症のある病気（複数回答：いくつでも）(1)



健康状態別に現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「とても健康」と答えた人でも「高血圧」35.8%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症、腰痛、膝痛等）」17.0%です。「まあまあ健康」と答えた人では「高血圧」48.3%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症、腰痛、膝痛等）」27.8%で、「とても健康」と答えた人比べて割合が高くなっています。このように健康と答えた人においても、現在治療中、または後遺症のある病気の人が一定割合います。また、「あまり健康でない」、「健康でない」と答えた人においても「高血圧」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症、腰痛、膝痛等）」の割合が高くなっているほか、様々な病気の治療をしています。

図 現在治療中、または後遺症のある病気（複数回答：いくつでも）(2)



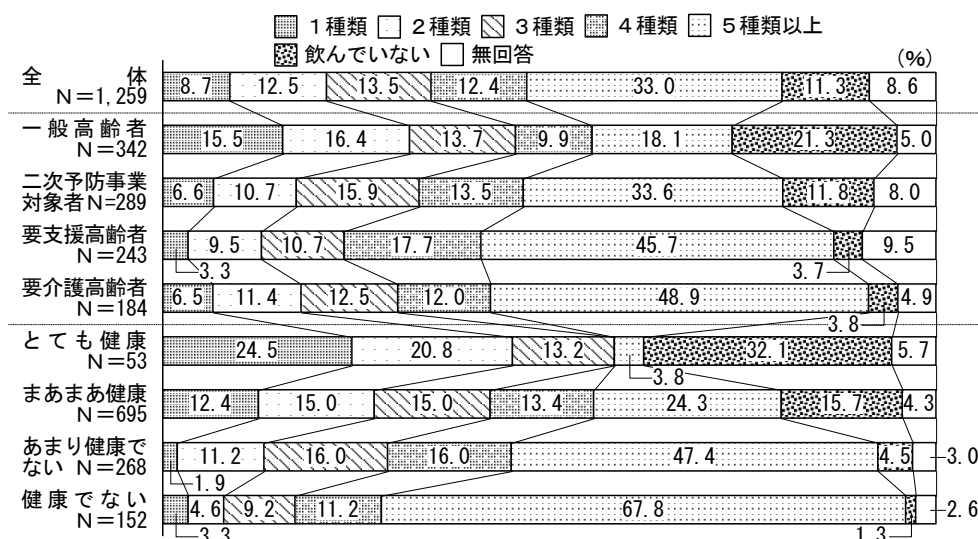
ウ 服薬している薬の種類

服薬している人（100%から「飲んでいない」と無回答の割合を引いた値）は80.1%です。服薬している薬の種類は「5種類以上」が33.0%で最も割合が高く、次いで「3種類」13.5%、「2種類」12.5%、「4種類」12.4%、「1種類」8.7%の順で、複数の病気に対して薬をもらっている人が多くなっているものと考えられます。

介護度別に服薬している薬の種類をみると、介護度が重くなるにつれて「5種類以上」の割合が高くなり、要支援高齢者及び要介護高齢者では半数近くを占めています。

健康状態別に服薬している薬の種類をみると、健康状態が悪くなるにつれて服薬している人の割合と服薬している薬が「5種類以上」の人の割合が高くなっています。

図 服薬している薬の種類



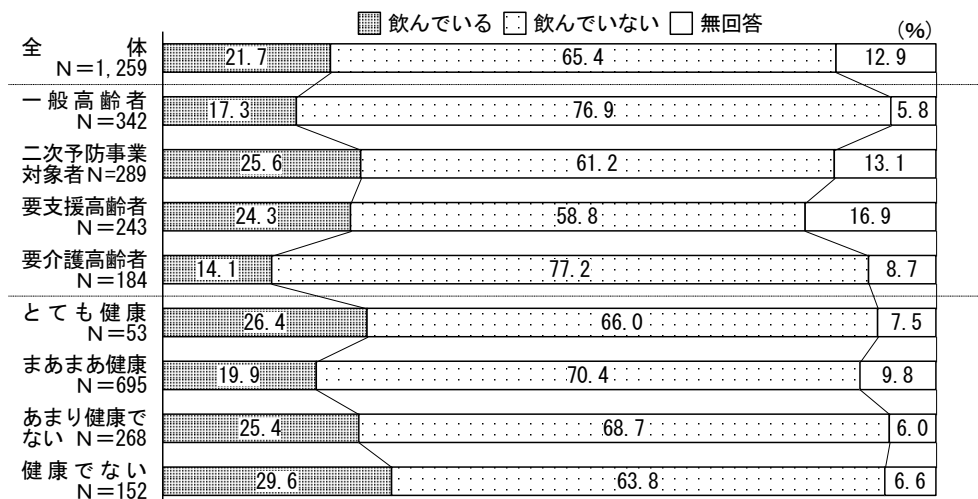
エ 市販の薬の使用の有無

市販の薬を「飲んでいる」と答えた人は21.7%です。

介護度別に市販の薬を「飲んでいる」答えた人をみると、二次予防事業対象者及び要支援高齢者で約1/4になっています。

健康状態別に市販の薬を「飲んでいる」答えた人をみると、「まあまあ健康」と答えた人以外は20%台後半になっています。

図 市販の薬の使用の有無



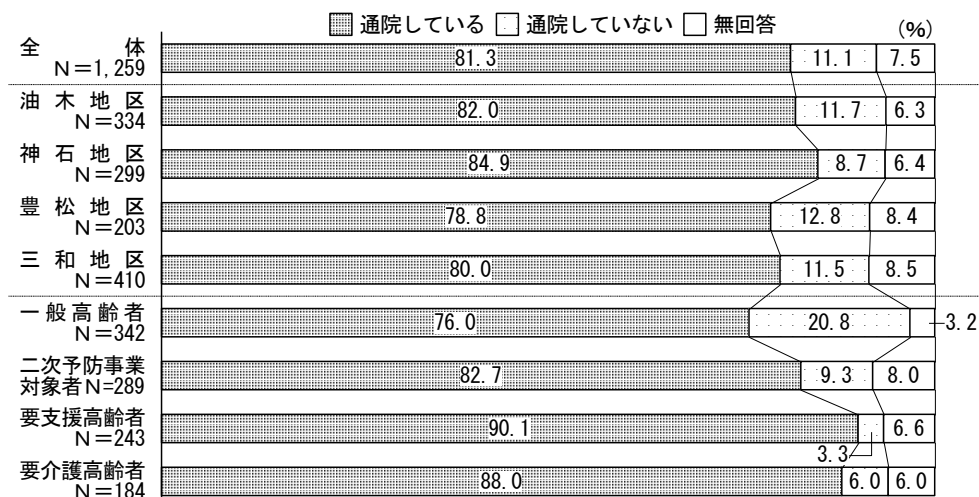
オ 通院の有無

医療機関へ「通院している」と答えた人は81.3%でほとんどを占めています。

地区別に医療機関へ「通院している」と答えた人を見ると、豊松地区を除く3地区では80%以上ですが、豊松地区は78.8%で割合がやや低くなっています。

介護度別に医療機関へ「通院している」と答えた人の割合をみると、介護度が重くなるにつれて割合が高くなり、要支援高齢者及び要介護高齢者では90%前後を占めています。

図 通院の有無



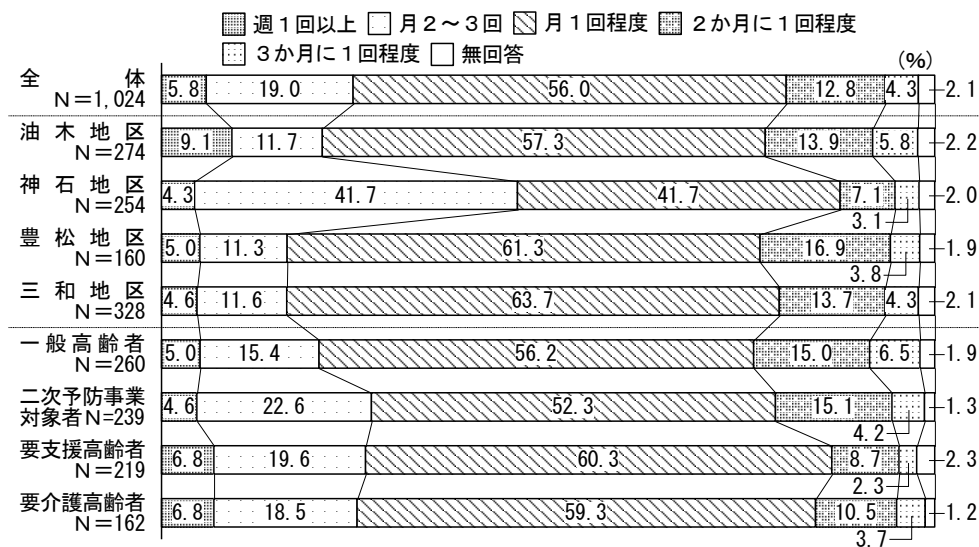
カ 通院の回数

通院の回数は、「月1回程度」が56.0%で最も割合が高く、次いで「月2～3回」19.0%、「2か月に1回程度」12.8%、「週1回以上」5.8%等の順です。

地区別に通院回数をみると、油木地区では「週1回以上」、神石地区では「月2～3回」と答えた人の割合が高くなっています。

介護度別に通院回数をみると、一般高齢者以外では月2回以上通院している人の割合がやや高くなっています。

図 通院の回数



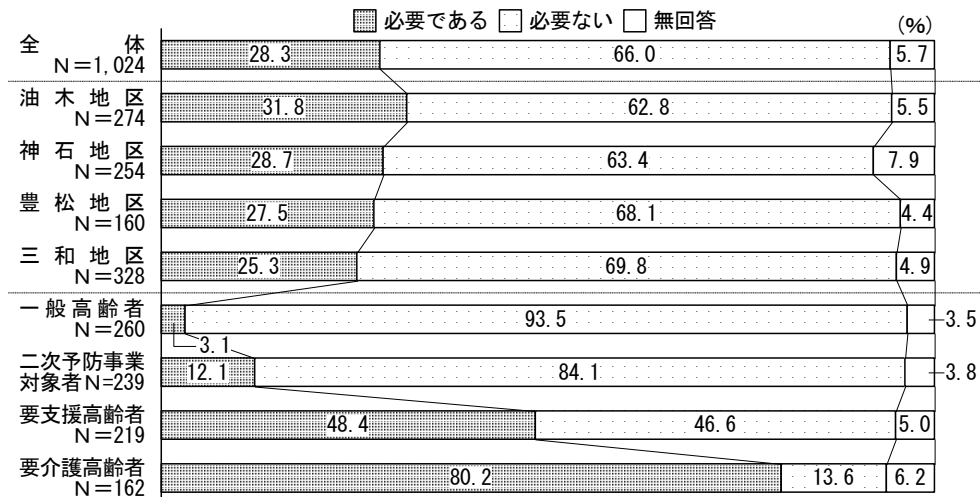
キ 通院への介助の必要

通院に介助が「必要である」と答えた人は28.3%です。

地区別に通院に介助が「必要である」と答えた人を見ると、油木地区が31.8%で最も割合が高く、次いで神石地区28.7%、豊松地区27.5%、三和地区25.3%の順で、地区によって割合がやや異なっています。

介護度別に通院に介助が「必要である」と答えた人を見ると、要介護高齢者が80.2%で最も割合が高く、次いで要支援高齢者48.4%、二次予防事業対象者12.1%、一般高齢者3.1%の順で、介護度が重くなるにつれて通院の際の介助が必要な人の割合が高くなっています。

図 通院への介助の必要



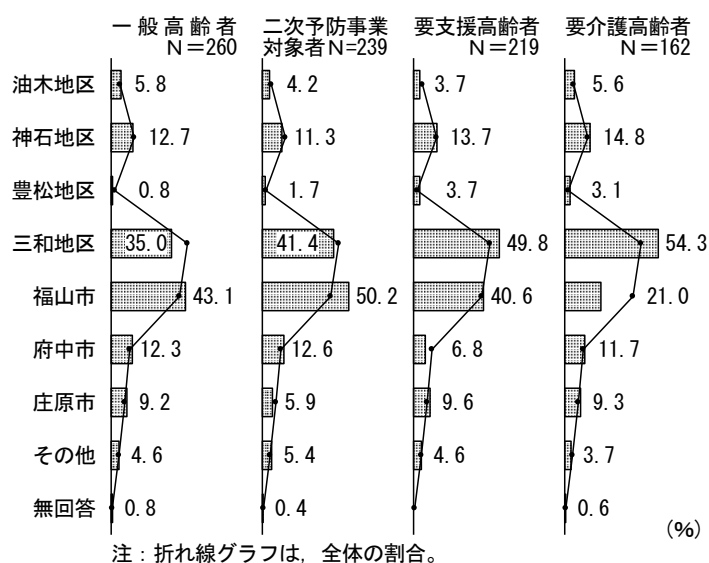
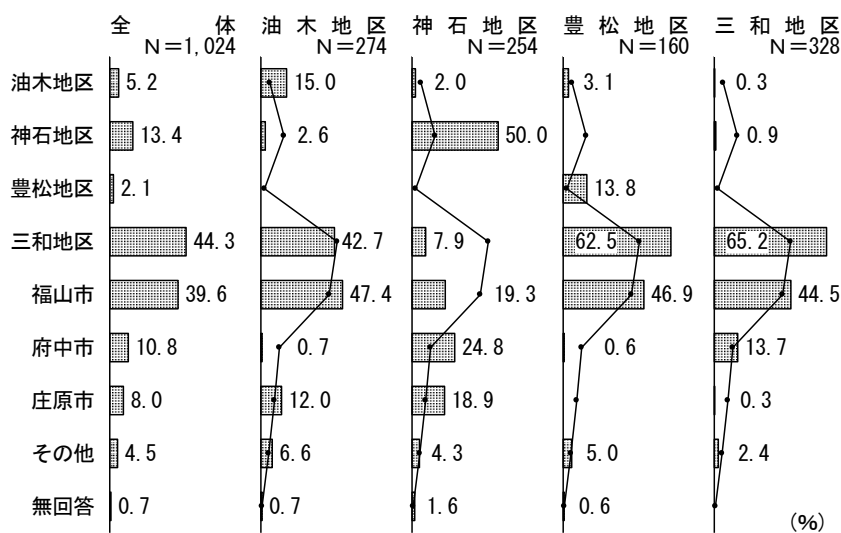
ク 通院先

通院先は、「三和地区」が44.3%で最も割合が高く、次いで「福山市」39.6%、「神石地区」13.4%、「府中市」10.8%、「庄原市」8.0%、「油木地区」5.2%、「豊松地区」2.1%等の順です。

地区別に主な通院先をみると、豊松地区、三和地区では「三和地区」が60%台、「福山市」が40%台でこの2地区の割合が高くなっています。油木地区では「福山市」47.4%、「三和地区」42.7%で、油木地区の割合が低くなっています。神石地区では「神石地区」が50.0%で最も割合が高く、次いで「府中市」24.8%、「福山市」19.3%、「庄原市」18.9%、「三和地区」7.9%等の順で、三和地区へ通院する人の割合が低くなっています。

介護度別に主な通院先をみると、各介護度ともに全体と同様「三和地区」と「福山市」の割合が高くなっています。一般高齢者及び二次予防事業対象者では「福山市」、要支援高齢者及び要介護高齢者では「三和地区」が第1位になっています。

図 通院先（複数回答：いくつでも）

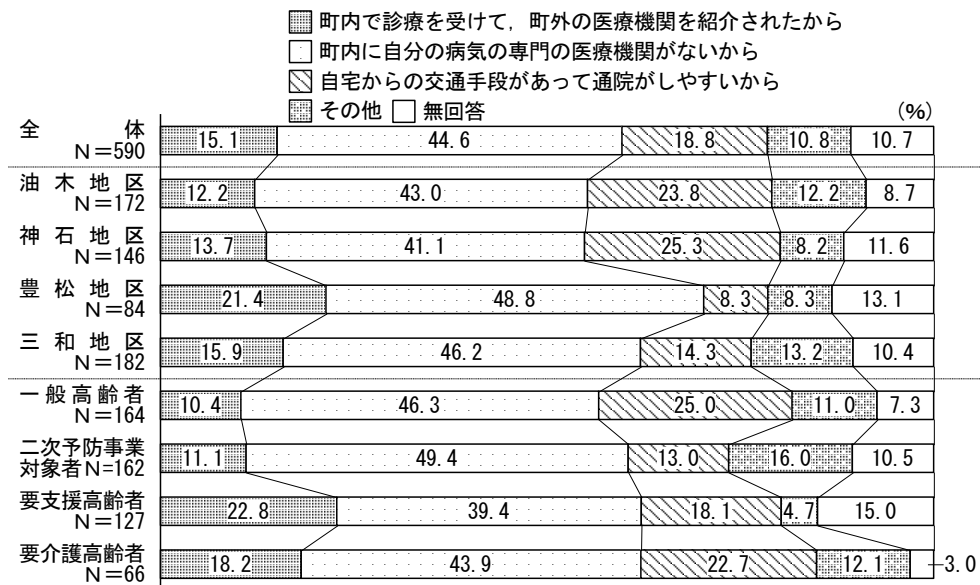


ケ 町外の病院・診療所に通院している理由

町外に通院していると答えた人の町外の病院・診療所に通院している理由は、「町内に自分の病気の専門の医療機関がないから」と答えた人が44.6%で最も割合が高く、次いで「自宅からの通院手段があって通院がしやすいから」18.8%、「町内で診療を受けて、町外の医療機関を紹介されたから」15.1%等の順です。その他の内容は、継続して診療を受けていること、送迎する子どもの都合等が挙げられています。

介護度別に町外に通院していると答えた人の通院理由をみると、各介護度ともに全体とほぼ同様の割合になっています。

図 町外の病院・診療所に通院している理由



コ 病気や体調不良の時に困ること

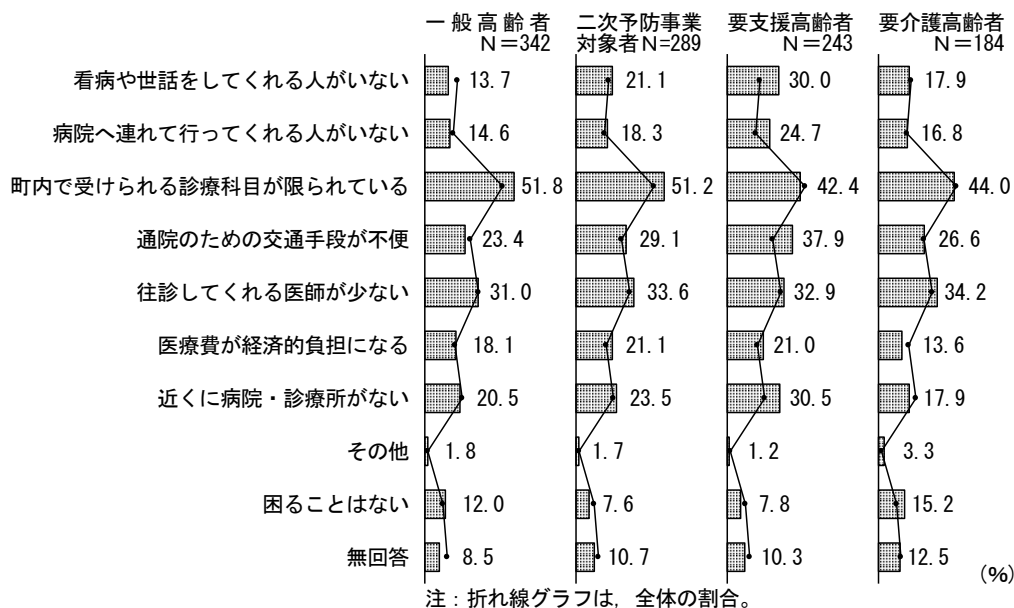
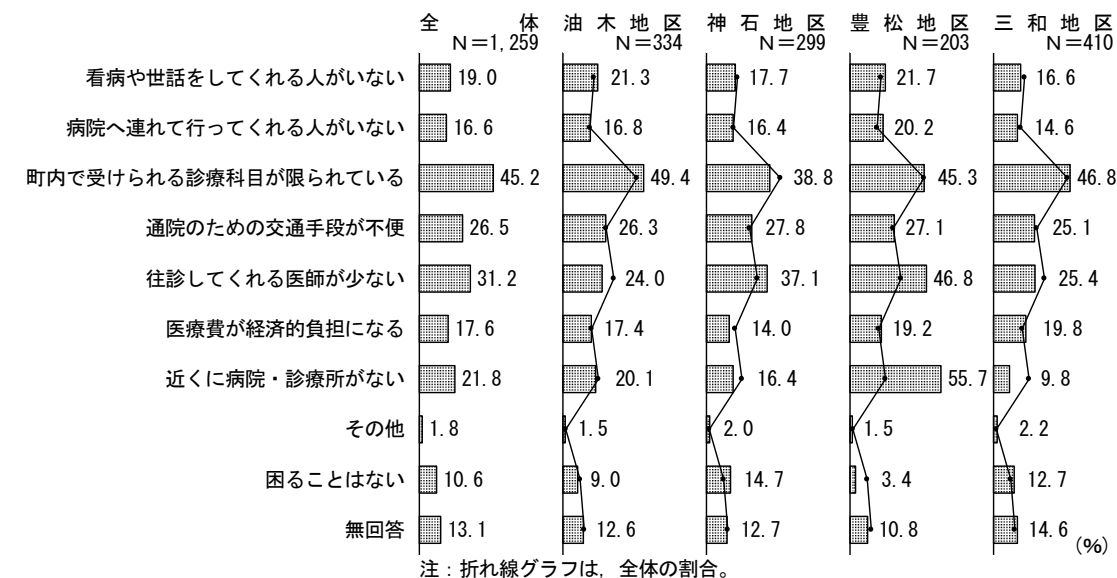
病気や体調不良の時に困ることがあると答えた人（100%から「困ることはない」と無回答の割合を引いた値）は76.3%で大部分を占めています。

病気や体調不良の時に困ることは、「町内で受けられる診療科目が限られている」を挙げた人が45.2%で最も割合が高く、次いで「往診してくれる医師が少ない」31.2%、「通院のための交通手段が不便」26.5%、「近くに病院・診療所がない」21.8%、「看病や世話をしてくれる人がいない」19.0%、「医療費が経済的負担になる」17.6%、「病院へつれて行ってってくれる人がいない」16.6%等の順になっています。

地区別に病気や体調不良の時に困ることをみると、豊松地区以外の3地区は全体とほぼ同様の割合になっています。一方、豊松地区では「近くに病院・診療所がない」と答えた人が55.7%で最も割合が高く、次いで「町内で受けられる診療科目が限られている」と「往診してくれる医師が少ない」の2項目が40%台の順になっています。

介護度別に病気や体調不良の時に困ることをみると、各介護度ともに全体とほぼ同様の割合になっています。

図 病気や体調不良の時に困ること（複数回答：いくつでも）



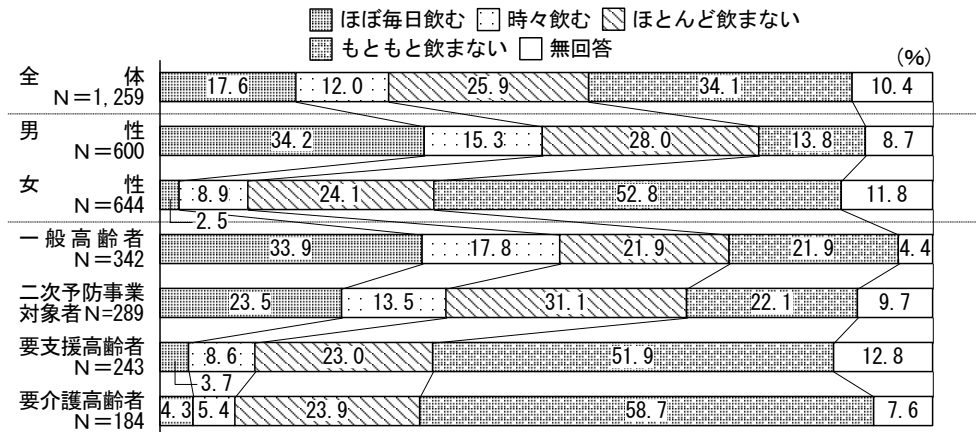
サ 飲酒の状況

お酒を「ほぼ毎日飲む」17.6%、「時々飲む」12.0%で、これらを合わせた飲酒している人の割合は29.6%です。

男女別に飲酒している人をみると、男性で49.5%、女性で11.4%になっており、男性では約半分を占めています。

介護度別に飲酒している人をみると、要支援高齢者及び要介護高齢者では10%前後と割合が低くなっています。

図 飲酒の状況



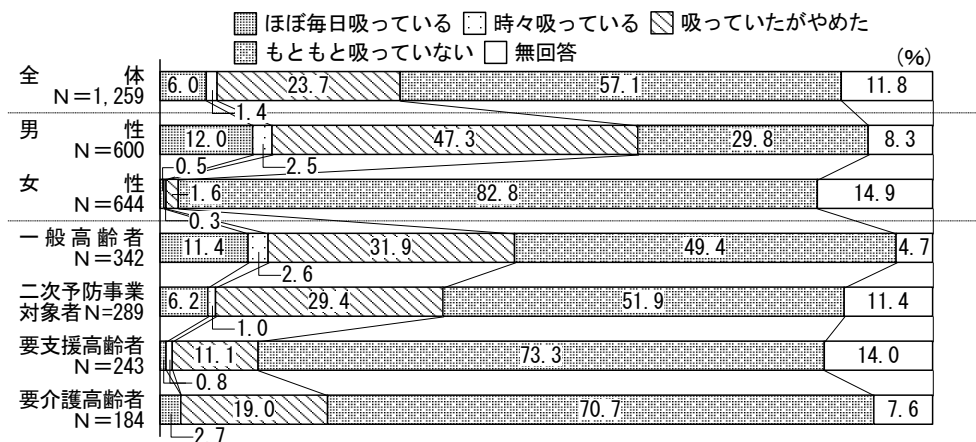
シ 喫煙の状況

たばこを「ほぼ毎日吸っている」6.0%、「時々吸っている」1.4%で、これらを合わせた喫煙している人の割合は7.4%と割合が低くなっています。男女別に喫煙している人をみると、男性で14.5%、女性で0.8%です。

また、「吸っていたがやめた」と答えた人が23.7%になっており、男性で47.3%、女性で1.6%と男性で非常に割合が高くなっています。

介護度別に喫煙している人をみると、要支援高齢者及び要介護高齢者では数%と非常に少なくなっています。

図 喫煙の状況



ス 虚弱な人

二次予防事業対象者チェックリスト（４頁参照）の１～２０（⑦うつを除く）までの項目中、１０項目以上該当した人を虚弱な人とみなすと、一般高齢者及び二次予防事業対象者の７．８％が該当しています。男女別にみると、６５～７９歳まではほぼ同程度で、８０歳以上では女性の割合がやや高くなっています。また、年齢が増すにつれて割合が高くなる傾向にあります。

介護度別に虚弱に該当する人の割合をみると、８０歳以上では二次予防事業対象者、要支援高齢者、要介護高齢者の順に割合が高くなっています。

図 性別年齢階級別該当者割合（一般高齢者及び二次予防事業対象者）

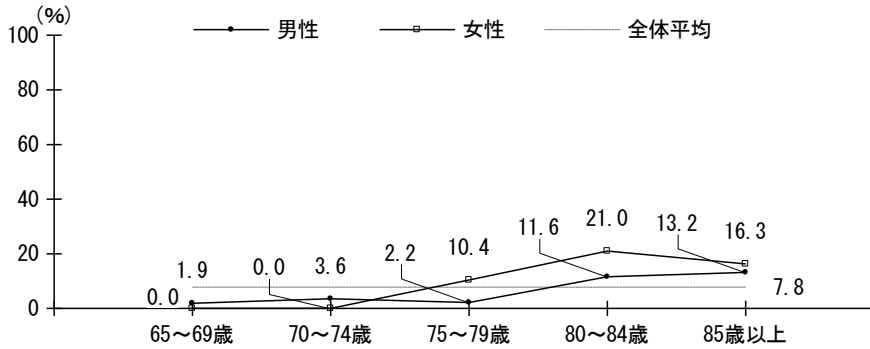


図 介護度別年齢階級別該当者割合

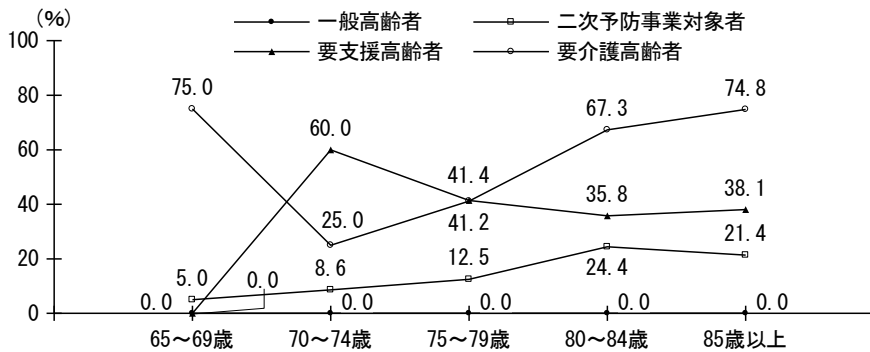
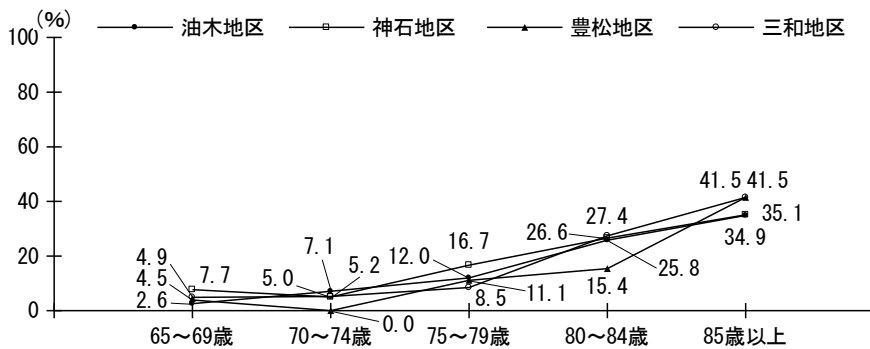


図 地区別年齢階級別該当者割合

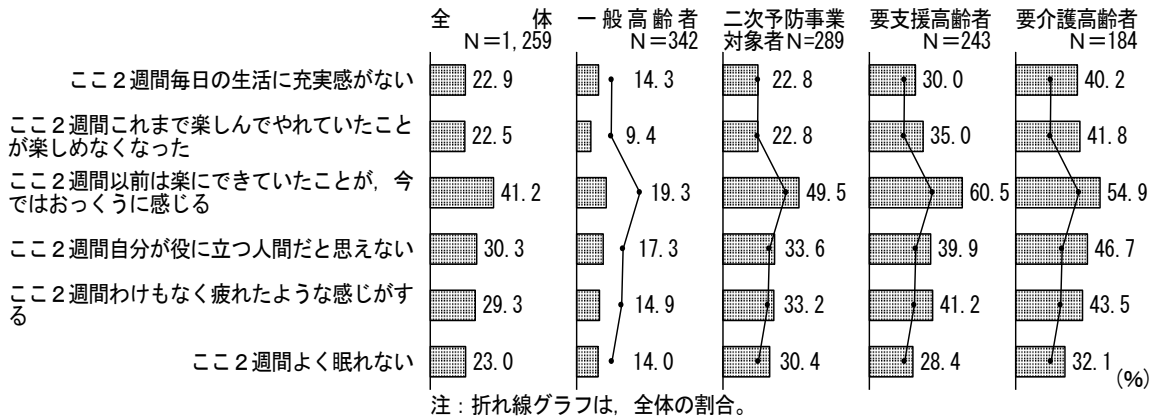


セ 最近2週間の生活の状況

ここ2週間の生活状況については、「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じる」を挙げた人が41.2%で最も割合が高く、その他の項目も20~30%台になっています。

介護度別にここ2週間の生活状況をみると、各介護度ともに「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じる」が第1位に挙げられています。また、介護度が重くなるにつれて各項目で割合が高くなる傾向にあります。

図 最近2週間の生活の状況



ソ うつ病予防が必要な人

次の5つの質問項目で2項目以上「はい」と回答した人をうつ病予防が必要な人としてみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者全体で29.2%が該当しています。男女別にみると、年齢によって割合の高低が異なっています。また、70歳以上では年齢が増すにつれて割合が高くなる傾向にあります。

介護度別にうつ病予防が必要な人の割合をみると、一般高齢者は各年齢層で最も低い割合になっています。要支援高齢者は65～84歳の年齢で最も割合が高く、60%前後を占めています。

表 評価指標と評価基準（5項目中、2項目以上「1. はい」と答えた人）

21	（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ
22	（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ
23	（ここ2週間）以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ
24	（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ
25	（ここ2週間）わけもなく疲れたような気がする	1. はい	0. いいえ

図 性別年齢階級別該当者割合（一般高齢者及び二次予防事業対象者）

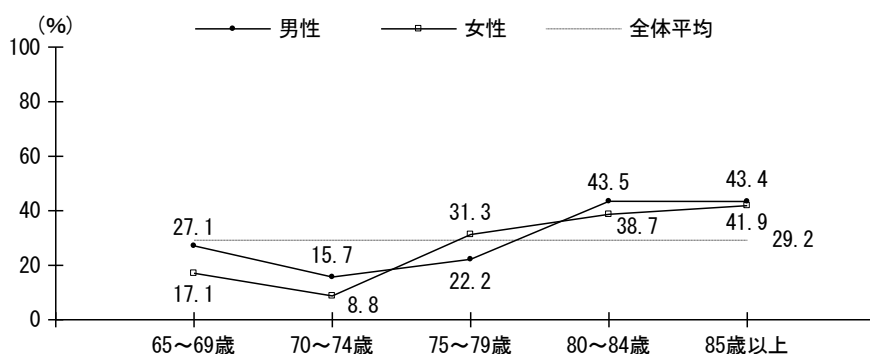


図 介護度別年齢階級別該当者割合

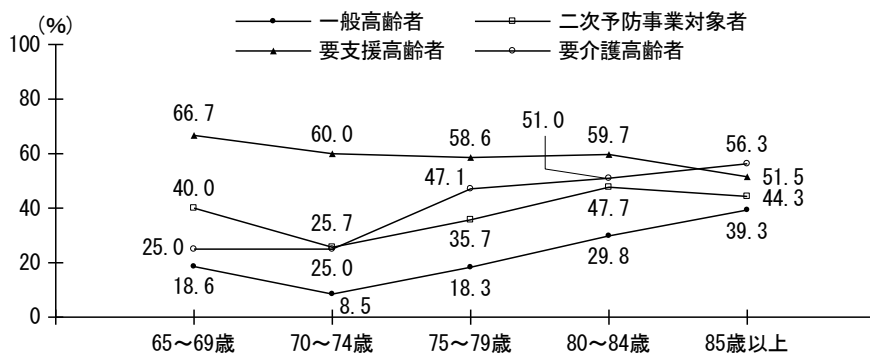
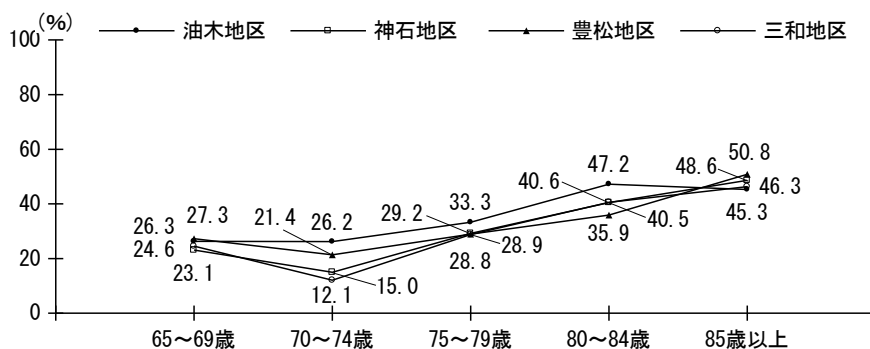


図 地区別年齢階級別該当者割合

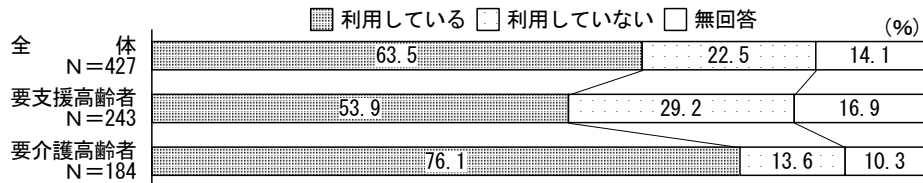


(10) 在宅サービスについて

ア 介護サービスの利用状況

要支援・要介護認定を受けている人で介護サービスを「利用している」人を見ると、要支援高齢者で53.9%、要介護高齢者で76.1%です。

図 介護サービスの利用状況

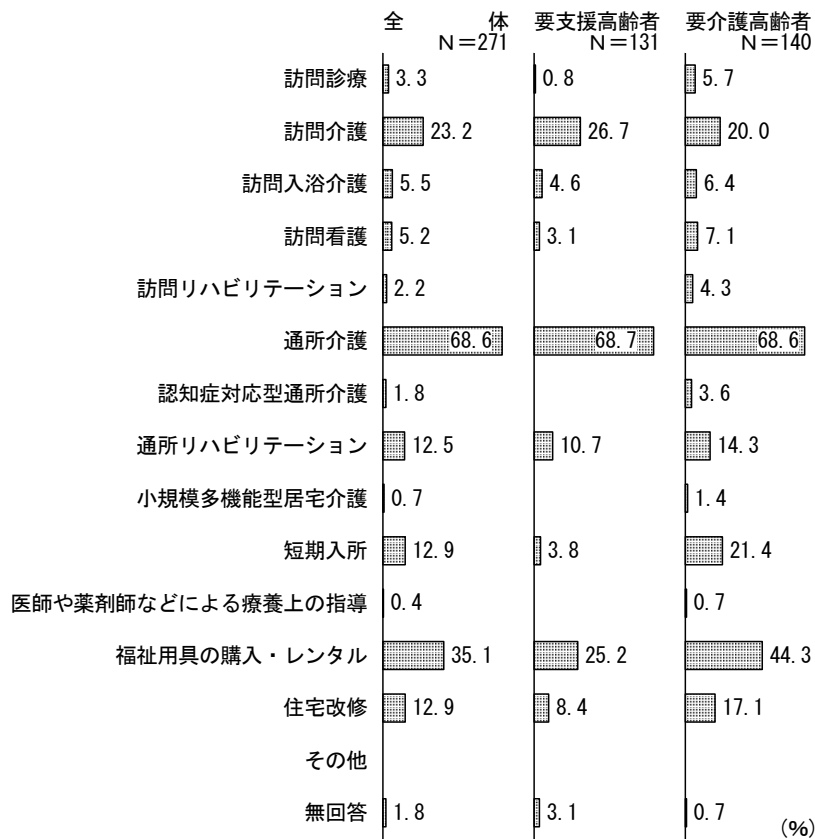


イ 利用している介護サービス

介護度別に利用している介護サービスをみると、要支援高齢者では「通所介護」と答えた人が68.7%で最も割合が高く、次いで「訪問介護」26.7%、「福祉用具の購入・レンタル」25.2%、「通所リハビリテーション」10.7%等の順です。

要介護高齢者では「通所介護」と答えた人が68.6%で最も割合が高く、次いで「福祉用具の購入・レンタル」44.3%、「短期入所」21.4%、「訪問介護」20.0%、「住宅改修」17.1%、「通所リハビリテーション」14.3%等の順です。

図 利用している介護サービス（複数回答：いくつでも）

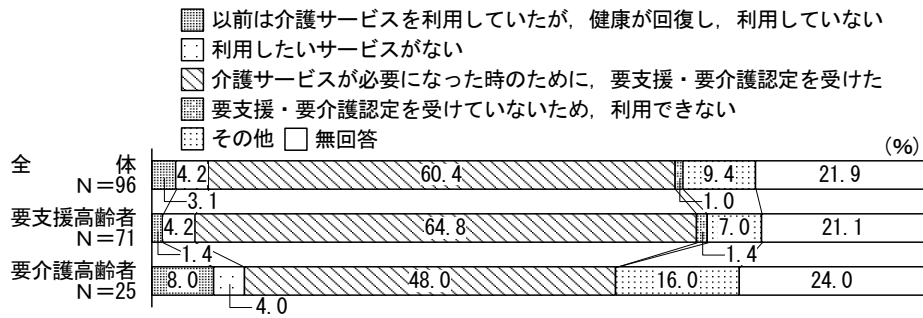


ウ 介護サービスを利用していない人の介護サービスを利用しない理由

介護サービスを利用していない人の介護サービスを利用しない理由は、「介護サービスが必要になった時のために、要支援・要介護認定を受けた」と答えた人が60.4%で最も割合が高く、次いで「利用したいサービスがない」4.2%、「以前は介護サービスを利用していたが、健康が回復し、利用していない」3.1%等の順です。

その他の内容としては、介護サービスを利用する意向はあるが、現在の健康状態では必要がないと答えた人が大部分となっています。

図 介護サービスを利用していない人の介護サービスを利用しない理由



エ 福祉サービスの利用状況

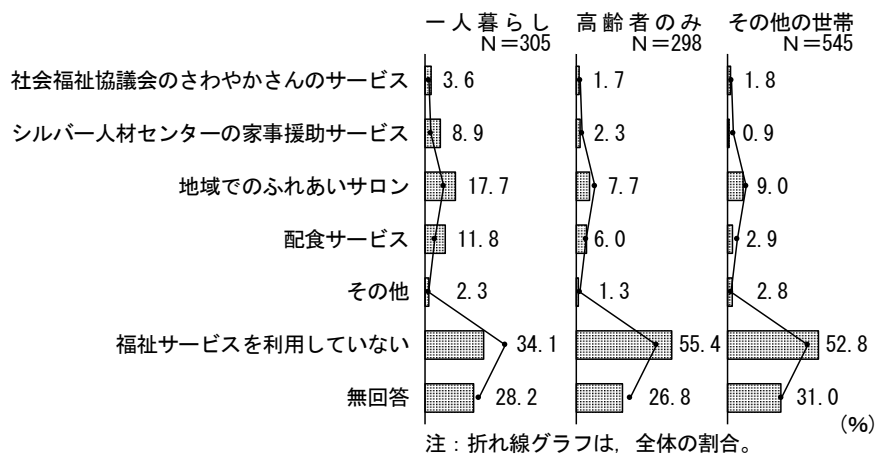
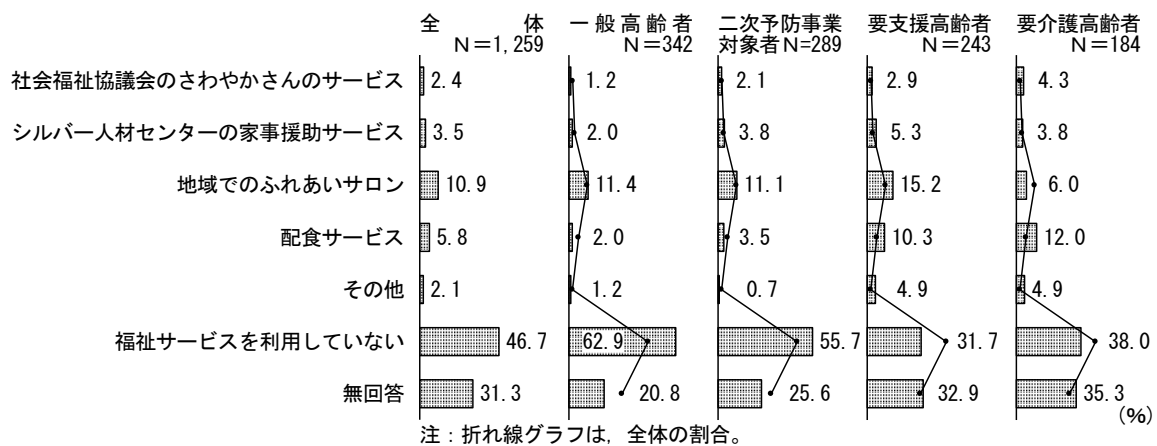
福祉サービスを利用している人（100%から「福祉サービスを利用していない」と無回答の割合を引いた値）は22.0%で割合が低くなっています。

利用している福祉サービスの内容をみると、「地域でのふれあいサロン」と答えた人が10.9%で最も割合が高く、次いで「配食サービス」5.8%、「シルバー人材センターの家事援助サービス」3.5%、「社会福祉協議会のさわやかさんのサービス」2.4%等の順です。

介護度別に利用している福祉サービスの内容をみると、要支援高齢者では「地域でのふれあいサロン」及び「配食サービス」、要介護高齢者では「配食サービス」がそれぞれ全体に比べて割合が高くなっています。

家族構成別に利用している福祉サービスの内容をみると、一人暮らし世帯では「地域でのふれあいサロン」、「配食サービス」及び「シルバー人材センターの家事援助サービス」が全体に比べて割合が高くなっています。

図 福祉サービスの利用状況（複数回答：いくつでも）



オ 自宅で暮らし続けるために利用したいサービス

自宅で暮らし続けるために利用したいサービスがあると答えた人（100%から「特にない」と無回答の割合を引いた値）は71.6%です。

自宅で暮らし続けるために利用したいサービスは、「町内の医療サービス」と答えた人が35.7%で最も割合が高く、次いで「往診・訪問診療」30.4%、「タクシーチケットの配布」29.7%の順で、この3項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他の項目をみると、「自宅近くまで移動販売車が来ること」17.9%、「見守り訪問や声かけ」及び「移動や交通のサービス」14.3%「配食サービス」13.7%、「介護予防事業」及び「食料品や日用品の調達」12.2%「認知症予防事業」12.1%等の順です。

介護度別に自宅で暮らし続けるために利用したいサービスをみると、各介護度ともに上位3項目は全体と共通しています。その中で、要支援高齢者では「タクシーチケットの配布」と答えた人が44.9%と割合が高くなっています。

家族構成別に自宅で暮らし続けるために利用したいサービスをみると、各家族構成ともに上位3項目は全体と共通しています。その中で、一人暮らし世帯では「タクシーチケットの配布」と答えた人が41.6%と割合が高くなっているほか、「見守り訪問や声かけ」、「自宅近くまで移動販売車が来ること」、「食料品や日用品の調達」及び「移動や交通のサービス」の4項目の割合が全体に比べて高くなっています。

図 自宅で暮らし続けるために利用したいサービス（複数回答：いくつでも）(1)

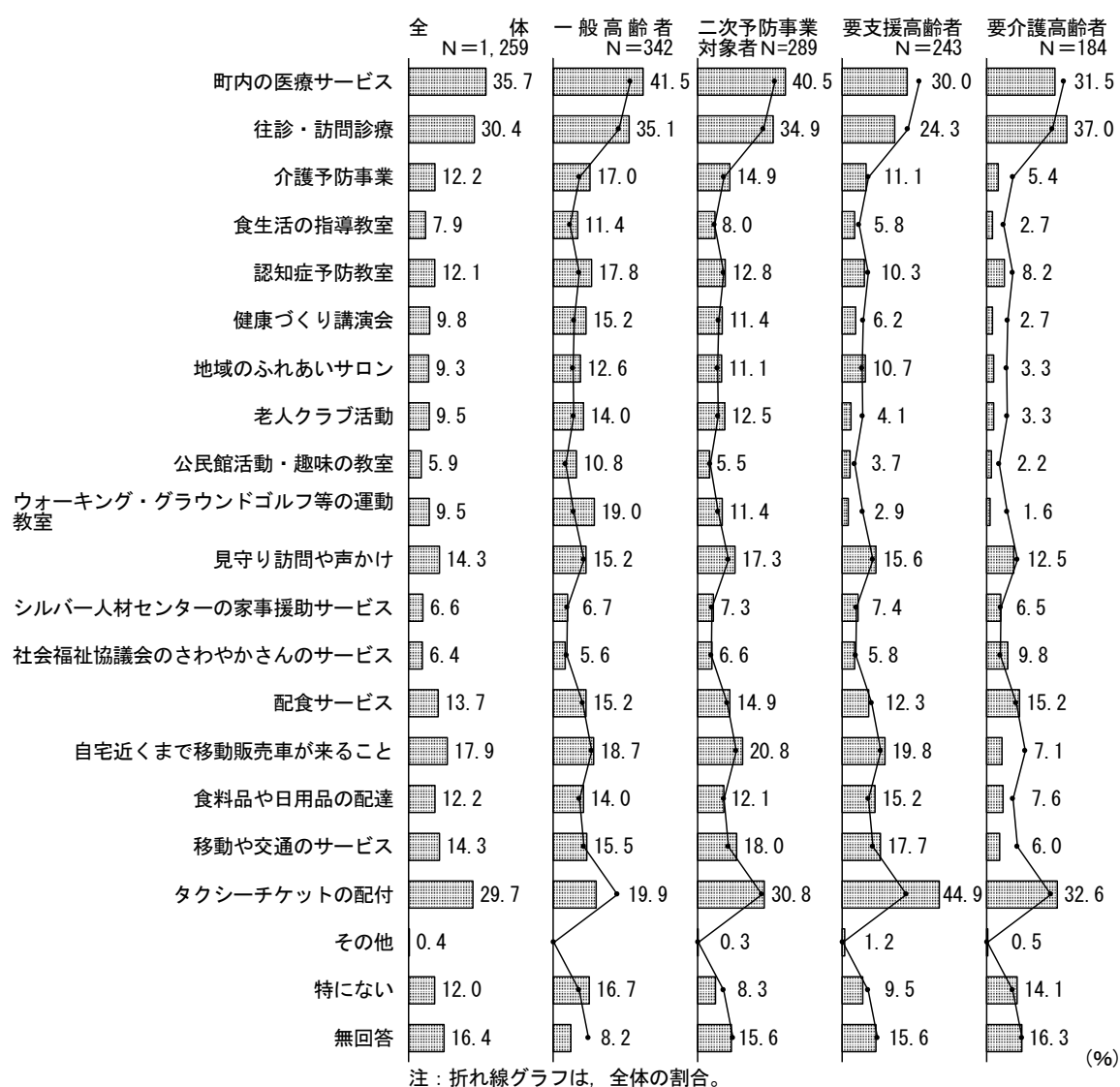
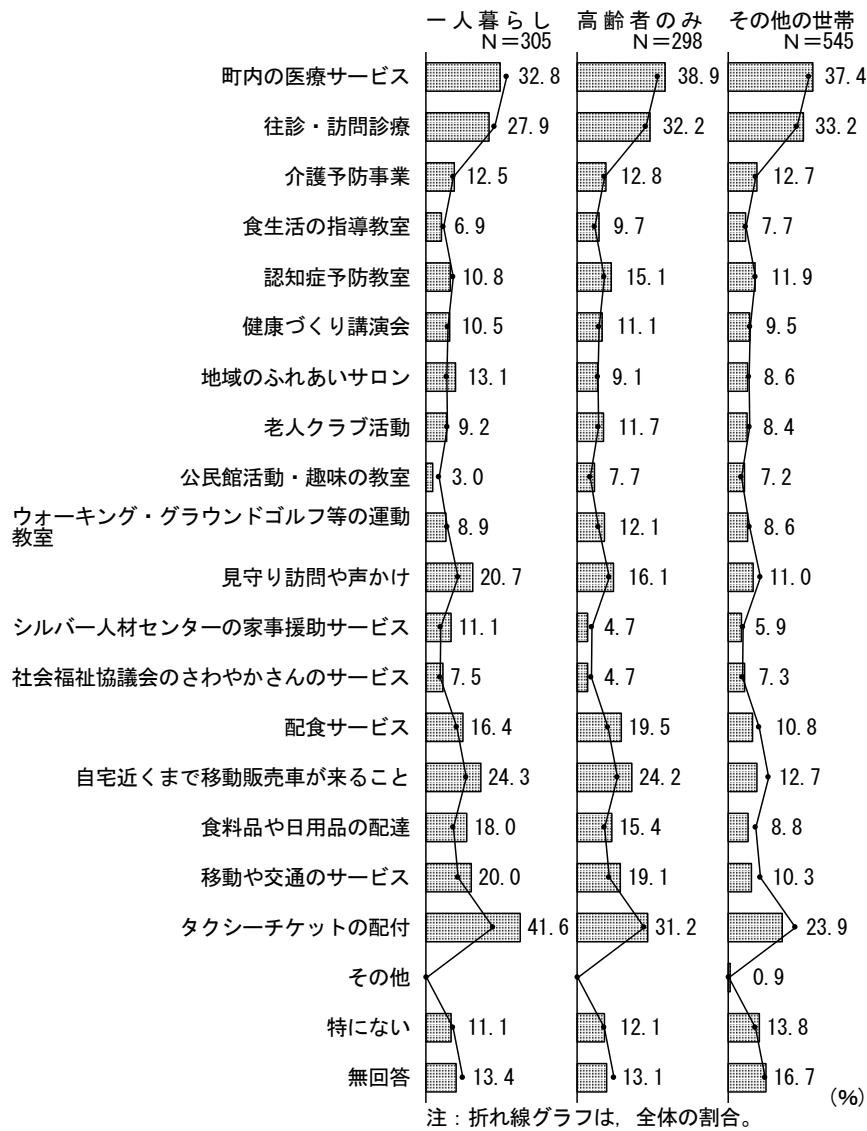


図 自宅で暮らし続けるために利用したいサービス（複数回答：いくつでも）（2）



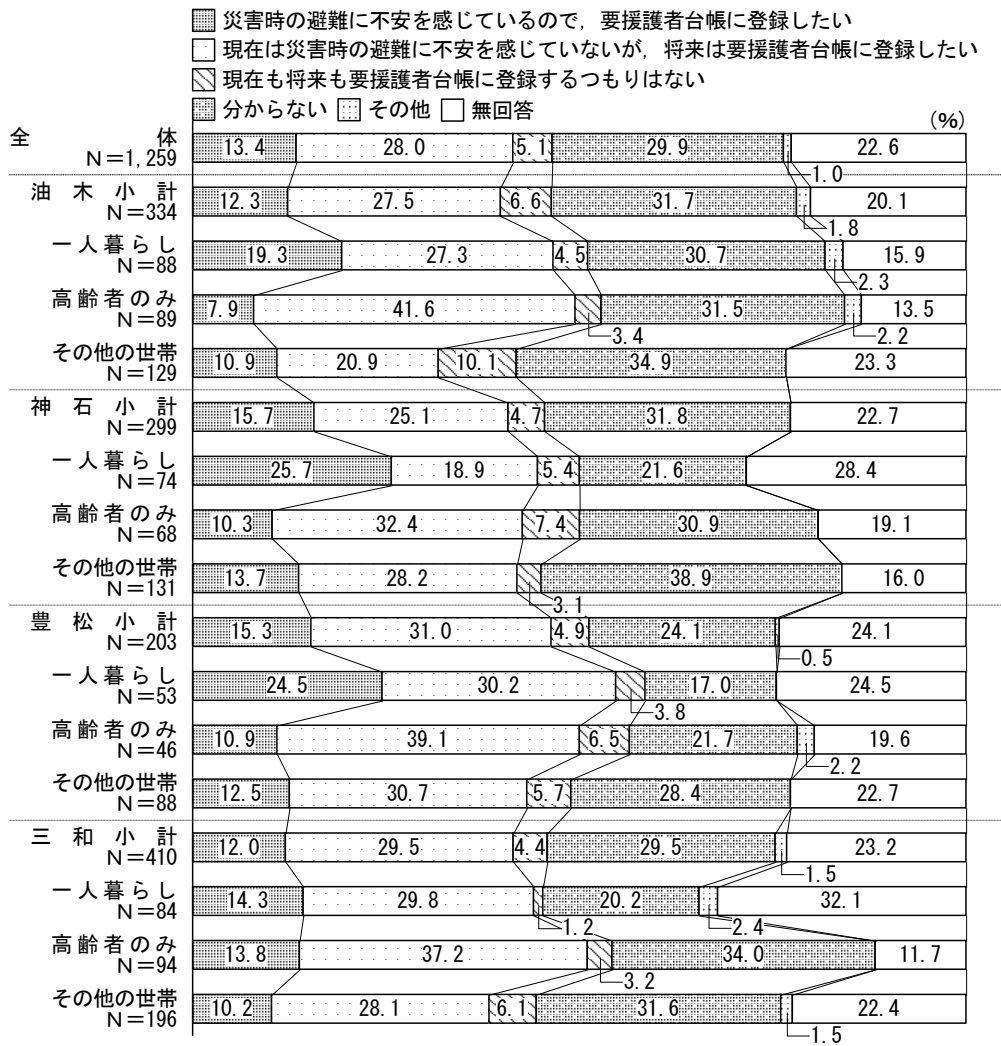
カ 災害時の避難支援を受けることについて

災害時の避難支援を受けることについては、「災害時の避難に不安を感じているので、要援護者台帳に登録したい」13.4%、「現在は災害時の避難に不安を感じていないが、将来は要援護者台帳に登録したい」28.0%です。

地区別に「災害時の避難に不安を感じているので、要援護者台帳に登録したい」と答えた人を見ると、神石地区が15.7%で最も割合が高く、次いで豊松地区15.3%、油木地区12.3%、三和地区12.0%の順です。

地区別家族構成別に「災害時の避難に不安を感じているので、要援護者台帳に登録したい」と答えた人を見ると、三和地区を除く地区の一人暮らし世帯で割合が高くなっています。

図 災害時の避難支援を受けることについて



(11) 今後の暮らし方について

ア 住んでいる住宅への不満の有無

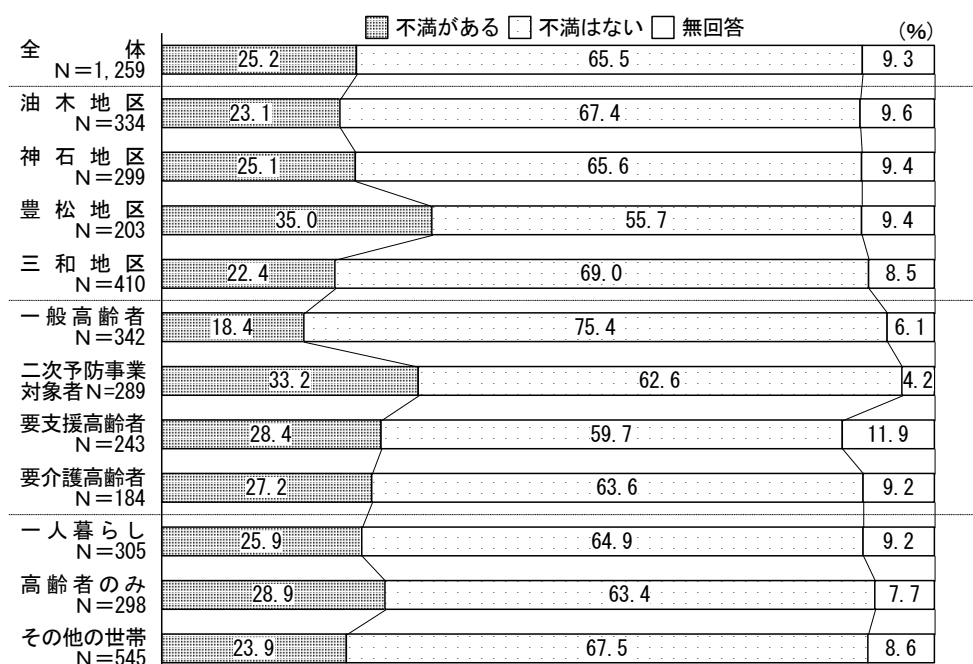
住んでいる住宅に「不満がある」と答えた人は25.2%です。

地区別に住んでいる住宅に「不満がある」と答えた人みると、豊松地区が35.0%で最も割合が高く、その他の3地区は25%前後になっています。

介護度別に住んでいる住宅に「不満がある」と答えた人みると、一般高齢者は20%未満、その他の介護度では30%前後です。

家族構成別に住んでいる住宅に「不満がある」と答えた人みると、各世帯ともに25%前後です。

図 住んでいる住宅への不満の有無

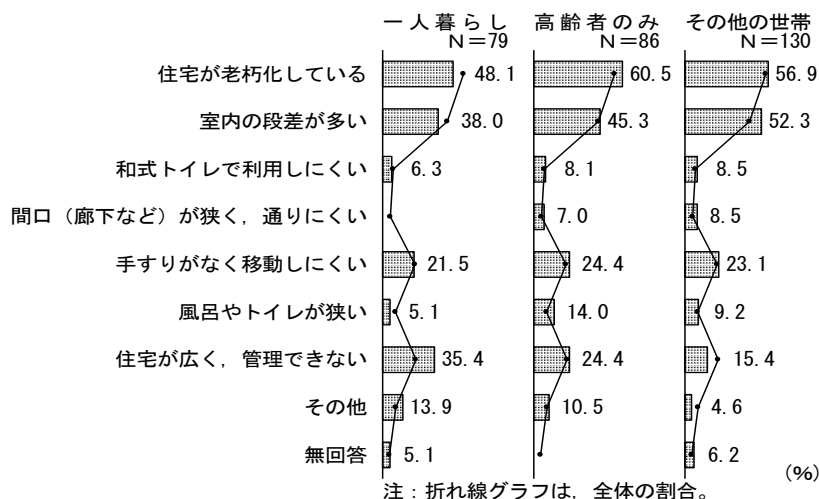
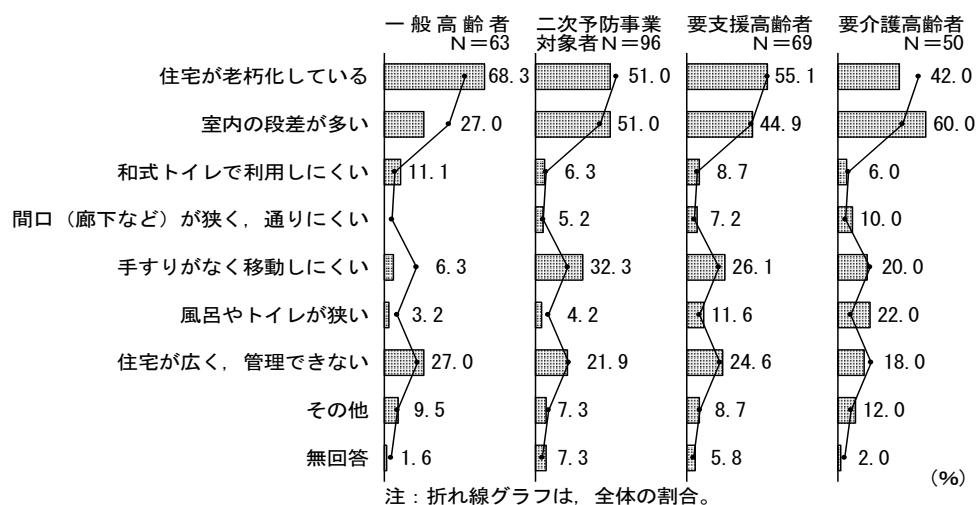
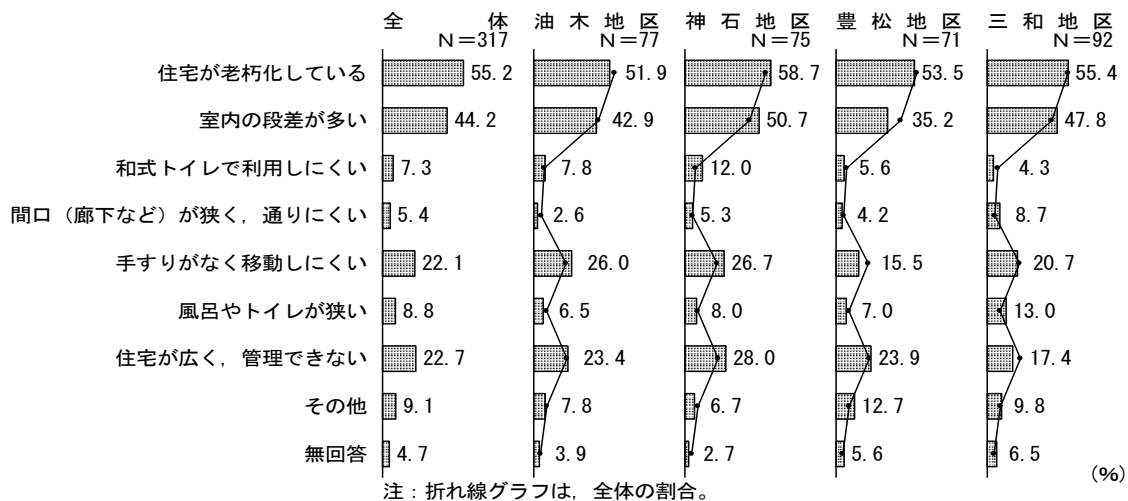


イ 住んでいる住宅の不満な点

住んでいる住宅に「不満がある」と答えた人の住宅の不満な点は、「住宅が老朽化している」と答えた人が55.2%で最も割合が高く、次いで「室内の段差が多い」44.2%、住宅が広く、管理できない」22.7%、「手すりがなく移動しにくい」22.1%「等の順で、住宅の老朽化や室内の段差を挙げた人の割合が高くなっています。

地区別、家族構成別に住宅の不満な点をみると各地区、各家族構成ともに全体とほぼ同様になっています。介護度別に住宅の不満な点をみると、各介護度ともに上位2項目は全体と共通しています。

図 住んでいる住宅の不満な点（複数回答：いくつでも）



ウ 今後の住まい方についての意向

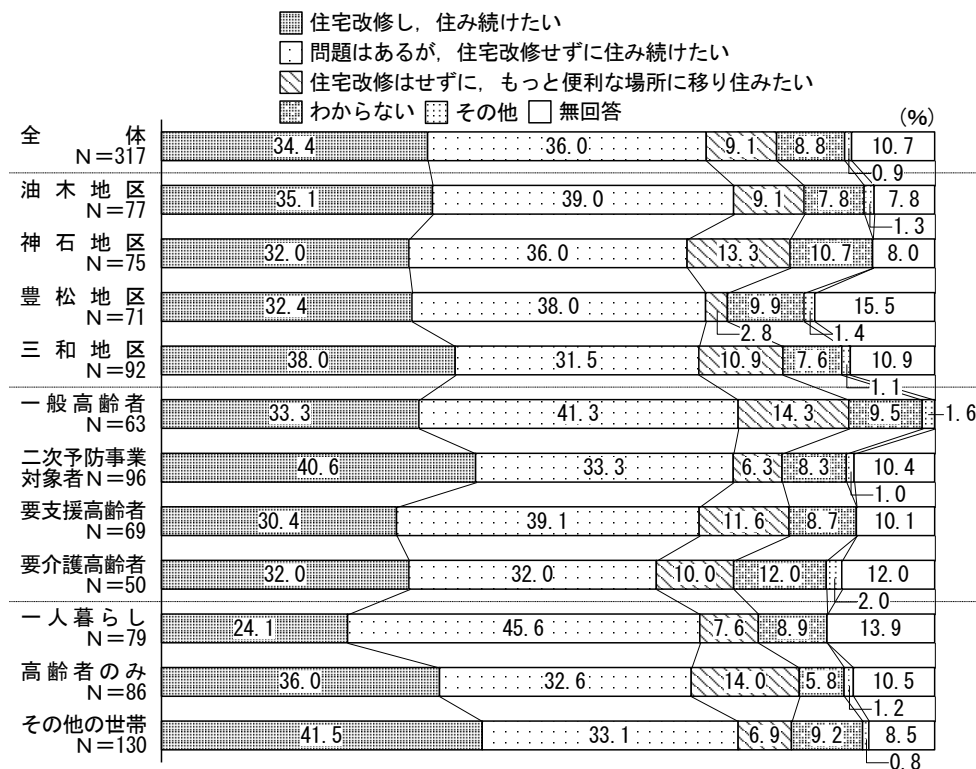
今後の住まい方については、「住宅改修し、住み続けたい」34.4%、「問題はあるが、住宅改修せずに住み続けたい」36.0%で、現在の住宅に住み続ける意向の人が約7割で、そのうちの半分程度の人が住宅改修を考えています。また、「住宅改修はせずに、もっと便利な場所に移り住みたい」と答えた人は9.1%です。

地区別に今後の住まい方をみると、「住宅改修し、住み続けたい」と答えた人は各地区ともに30%台です。「住宅改修はせずに、もっと便利な場所に移り住みたい」と答えた人は豊松地区を除く3地区では10%前後ですが、豊松地区は2.8%と割合が低くなっています。

介護度別に今後の住まい方をみると、「住宅改修し、住み続けたい」と答えた人は二次予防事業対象者では40.6%、その他の介護度では30%台になっています。「住宅改修はせずに、もっと便利な場所に移り住みたい」と答えた人は二次予防事業対象者を除く介護度では10%台ですが、特定高齢は6.3%と割合が低くなっています。

家族構成別に今後の住まい方をみると、「住宅改修し、住み続けたい」と答えた人はその他の世帯が41.5%で最も割合が高く、次いで高齢者のみの世帯36.0%、一人暮らし世帯24.1%の順で、一人暮らし世帯では住宅改修の意向が低くなっています。「住宅改修はせずに、もっと便利な場所に移り住みたい」と答えた人は高齢者のみの世帯では14.0%ですが、一人暮らし及びその他の世帯では10%未満になっています。

図 今後の住まい方についての意向



エ 便利な場所に移り住む場合の住宅のタイプについての意向

便利な場所に移り住む場合の住宅のタイプについての意向は、「高齢者向けの町営住宅に住みたい」と答えた人が44.8%で最も割合が高く、次いで「ケア付き住宅に住みたい」27.6%、「自立支援型の施設に住みたい」17.2%等の順です。

図 便利な場所に移り住む場合の住宅のタイプについての意向（複数回答：いくつでも）

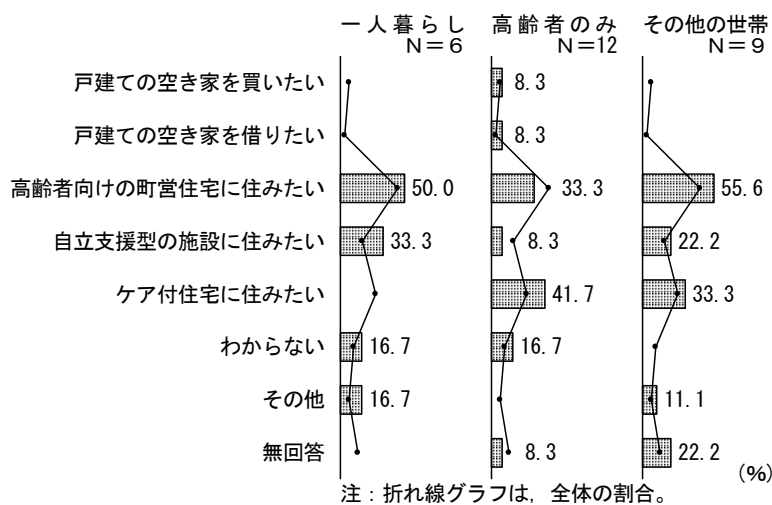
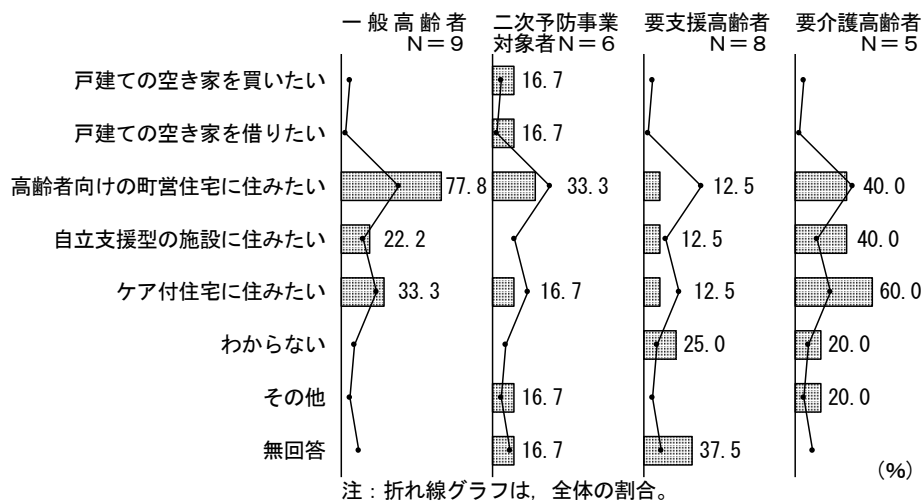
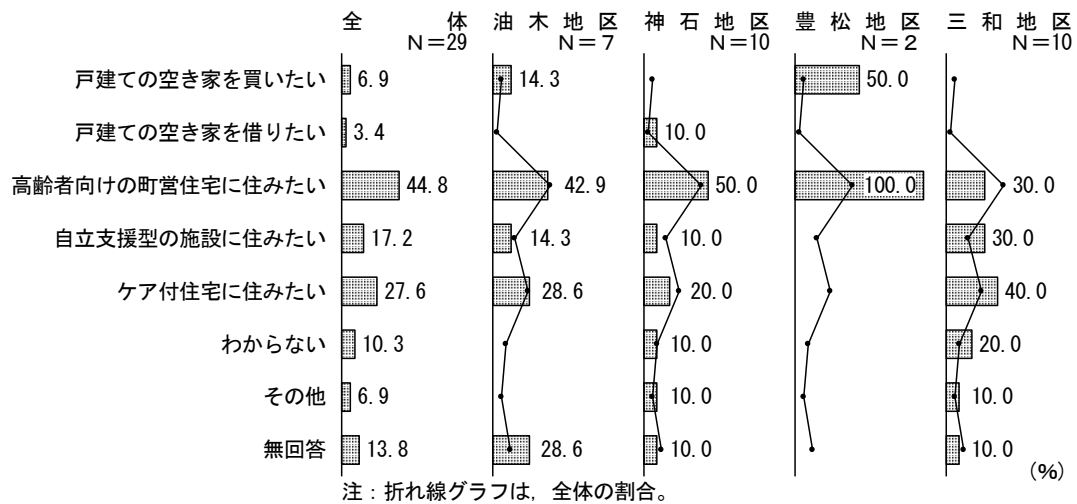
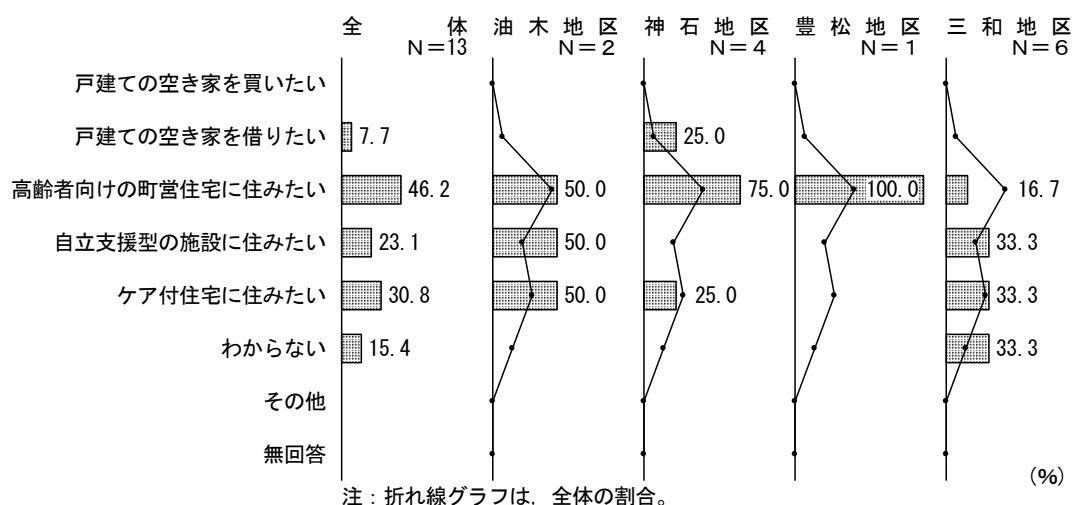


図 病気や体調不良の時に困ることで「通院のための交通手段が不便」と答えた人の
 便利な場所に移り住む場合の住宅のタイプについての意向（複数回答：いくつでも）(2)



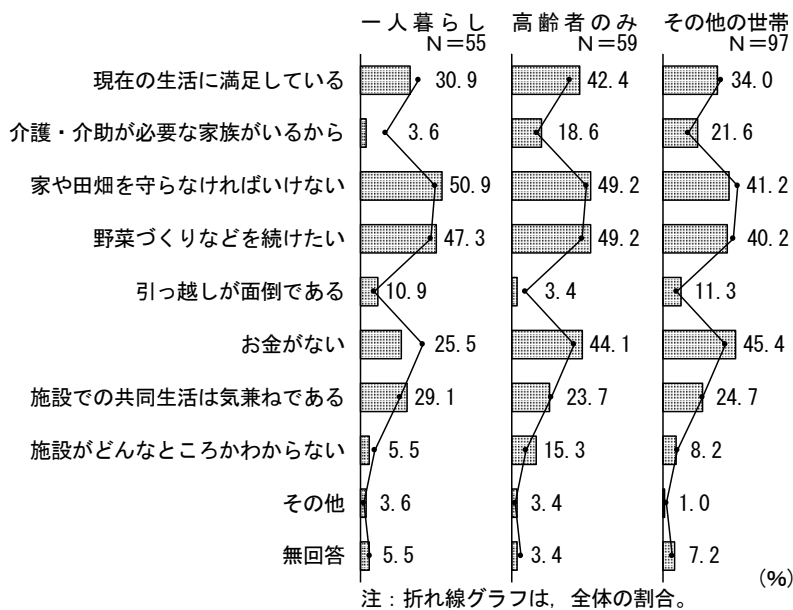
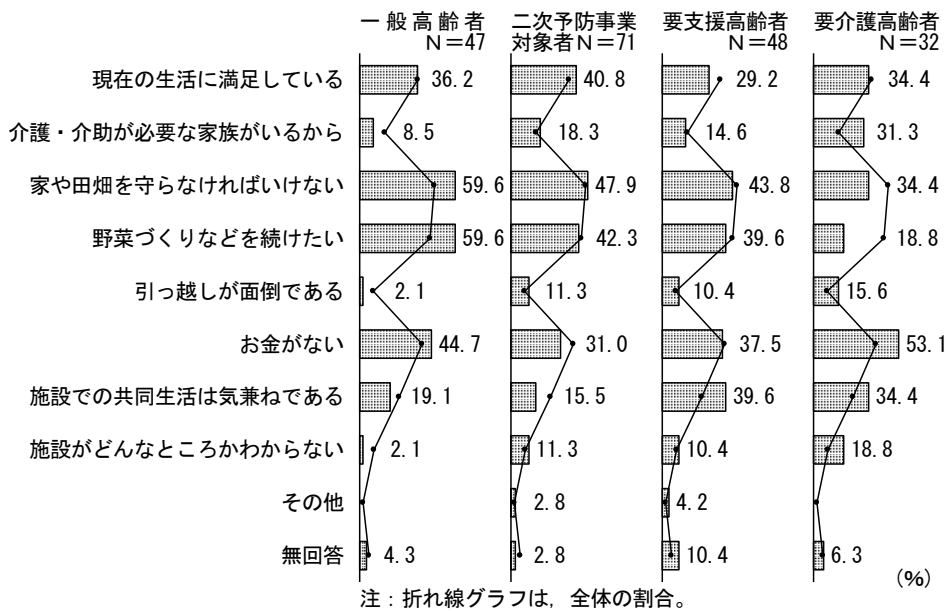
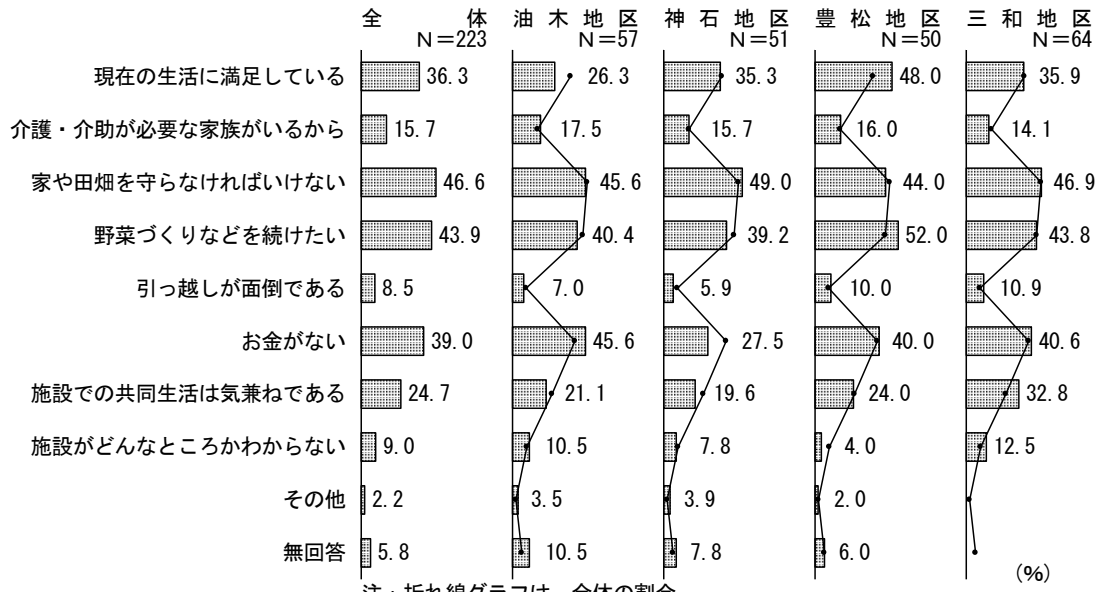
オ 自宅に住み続けたい理由

自宅に住み続ける意向の人の自宅に住み続けたい理由は、「家や田畑を守らなければならない」と答えた人が46.6%で最も割合が高く、次いで「野菜づくりなどを続けたい」43.9%、「お金がない」39.0%、「現在の生活に満足している」36.3%等の順で、これら4項目を挙げた人の割合が高くなっています。

地区別に自宅に住み続けたい理由をみると、各地区ともに上位4項目は全体と共通しています。また、三和地区においては「施設での共同生活は気兼ねである」と答えた人が32.8%になっています。

介護度別に自宅に住み続けたい理由をみると、一般高齢者及び二次予防事業対象者において上位4項目は全体と共通しています。要支援高齢者においては「家や田畑を守らなければならない」、「野菜づくりなどを続けたい」、「お金がない」の3項目に加えて「施設での共同生活は気兼ねである」を加えた4項目が40%前後になっています。要介護高齢者では「お金がない」と答えた人が53.1%で最も割合が高く、次いで「現在の生活に満足している」、「家や田畑を守らなければならない」、「施設での共同生活は気兼ねである」及び「介護・介助が必要な家族がいるから」の4項目が30%台になっています。

図 自宅に住み続けたい理由（複数回答：いくつでも）



カ 施設や公営住宅に入所・入居が必要になった場合の身元保証人の有無

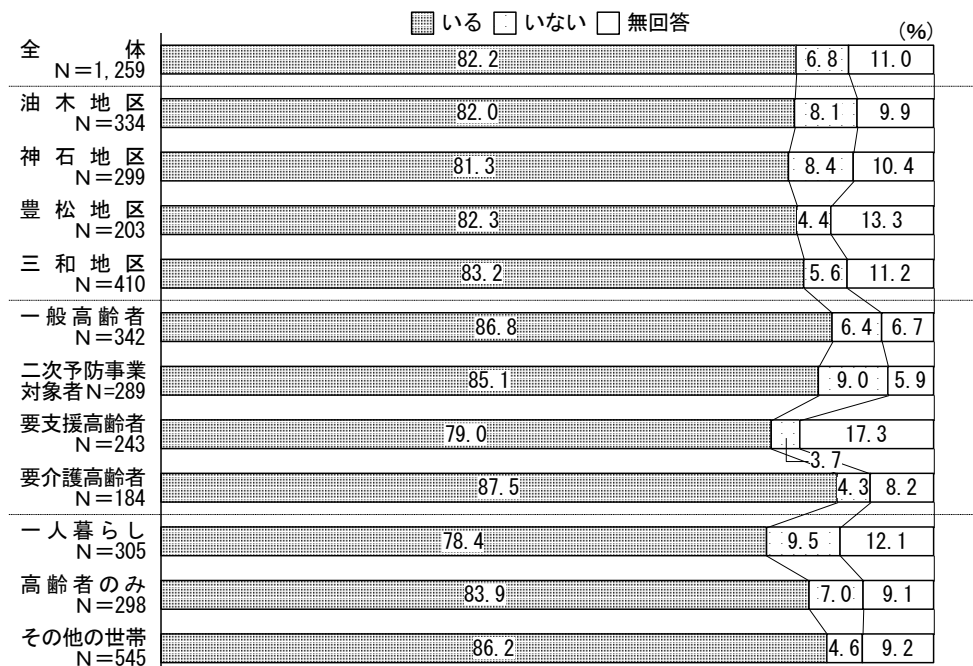
施設や公営住宅に入所・入居が必要になった場合の身元保証人が「いない」と答えた人が6.8%（85人）になっています。

地区別に施設や公営住宅に入所・入居が必要になった場合の身元保証人が「いない」と答えた人をみると、油木地区及び神石地区で8%台、豊松地区及び三和地区で5%前後です。

介護度別に施設や公営住宅に入所・入居が必要になった場合の身元保証人が「いない」と答えた人をみると、二次予防事業対象者で9.0%とやや割合が高くなっています。

家族構成別に施設や公営住宅に入所・入居が必要になった場合の身元保証人が「いない」と答えた人をみると、一人暮らし世帯で9.5%とやや割合が高くなっています。

図 施設や公営住宅に入所・入居が必要になった場合の身元保証人の有無



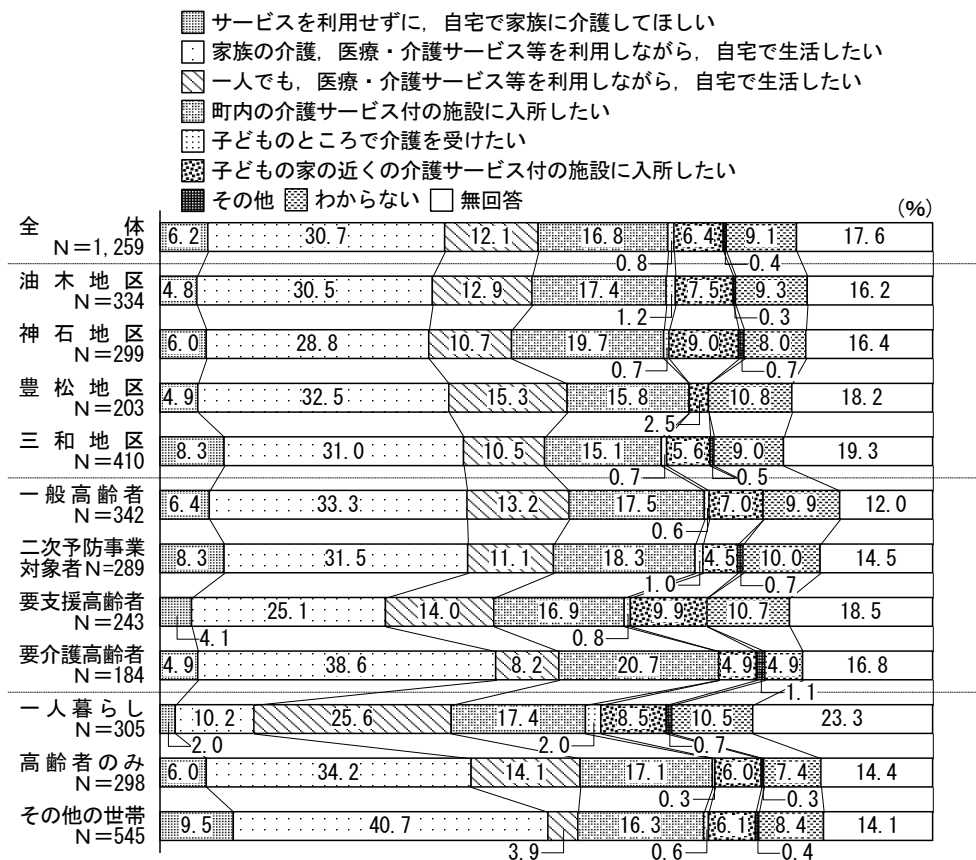
キ 介護が必要になった時に希望する暮らし方

介護が必要になった時に希望する暮らし方は、「家族の介護，医療・介護サービス等を利用しながら，自宅で生活したい」が30.7%で最も割合が高く，次いで「町内の介護サービス付の施設に入所したい」16.8%，「一人でも，医療・介護サービス等を利用しながら，自宅で生活したい」12.1%，「わからない」9.1%，「子どもの家の近くの介護サービス付の施設に入所したい」6.4%，「サービスを利用せずに，自宅で家族に介護してほしい」6.2%，「子どものところで介護を受けたい」0.8%等の順で，自宅での暮らしを望む意向の人が約5割となっています。

地区別，介護度別に自宅での暮らしを望む意向の人をみると，各地区，各介護度ともに5割前後です。

家族構成別に自宅での暮らしを望む意向の人をみると，高齢者のみの世帯及びその他の世帯においては50%以上になっていますが，一人暮らし世帯では37.8%と割合が低くなっています。

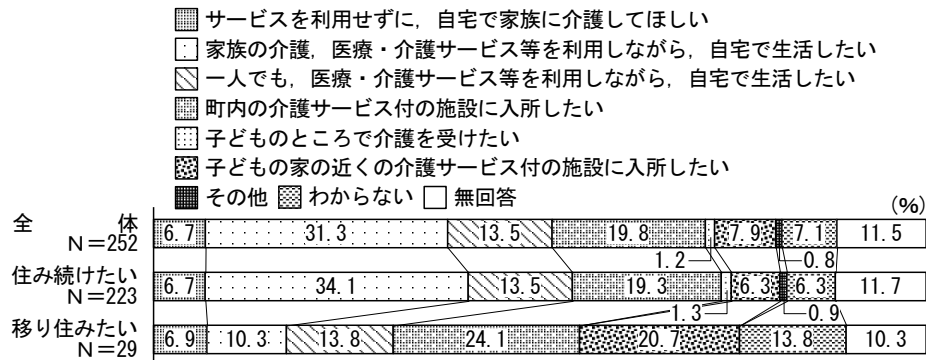
図 介護が必要になった時に希望する暮らし方



住んでいる住宅に不満がある人の住まい方の意向別に介護が必要になった時に希望する暮らし方をみると、自宅に「住み続けたい」と答えた人は、ほぼ全体と同様の割合になっていますが、その中で「町内の介護サービス付きの施設に入所したい」の割合がやや高くなっています。

また、自宅からもっと便利な場所に「移り住みたい」と答えた人は、「町内の介護サービス付きの施設に入所したい」と「子どもの家の近くの介護サービス付きの施設に入所したい」を挙げた人の割合が高くなっています。

図 住んでいる住宅に不満がある人の住まい方の意向別介護が必要になった時に希望する暮らし方



(12) 自由意見

自由意見を記入した人は234人で、回答者数の18.6%になっており、自由意見の内容を項目別に整理すると271件です。

表 自由意見の内容

大区分	小区分	件数 (件)
ア 介護保険・保健福祉制度に係る情報提供について	(ア) 情報の周知	3
	(イ) 欲しい情報	9
	(ウ) 制度の学習意向	4
	小 計	16
イ 介護保事業の運営について	(ア) 要支援・要介護認定審査	2
	(イ) 介護保険料・介護サービス利用料	5
	(ウ) その他	6
	小 計	13
ウ 在宅サービスの利用について	(ア) 在宅サービスを利用できることへの感謝	14
	(イ) 在宅サービスの充実・改善に関すること	7
	小 計	21
エ 施設サービスについて	(ア) 施設入所待機者の解消・施設の増設の要望	23
	(イ) 利用料金に関すること	4
	(ウ) その他	5
	小 計	32
オ 高齢者居住施設について		5
カ 保健福祉サービスについて	(ア) 保健福祉サービス全般	4
	(イ) 利用している保健福祉サービス	4
	(ウ) 高齢者の見守り訪問	3
	(エ) 民生委員児童委員などの活動に関すること	5
	(オ) 保健福祉サービスへの要望	9
	小 計	25
キ 健康づくりのために取り組んでいること・取り組みたいこと		5
ク 医療サービスの充実について		7
ケ 外出の際の交通手段について	(ア) ふれあい号・ふれあいバス	3
	(イ) タクシーの利用助成	10
	(ウ) 外出の際の交通手段が不便なこと	3
	(エ) 将来の交通手段への不安	3
	小 計	19
コ 現在及び今後の暮らしについて		29
サ 介護・介助が必要になった時の暮らし方について	(ア) 自宅で介護サービスなどを利用しながら暮らす	17
	(イ) 施設で介護を受けながら暮らす	9
	(ウ) その他	16
	小 計	42
シ 行政への感謝		7
ス アンケート調査について	(ア) 調査結果の活用・公表	5
	(イ) 調査項目が多すぎること	7
	(ウ) 質問内容に関する意見	8
	小 計	20
セ その他の意見	(ア) 集落・地域のこと	3
	(イ) 介護者の意見	5
	(ウ) 介護・保健福祉に関するその他の意見	14
	(エ) その他	8
	小 計	30
合 計		271

3 調査結果からみた留意事項

アンケート調査結果からみた留意事項を列記すると次のとおりです。

(1) 介護保険制度、保健福祉サービスの周知

要支援・要介護認定を受けていない人の介護保険制度の認知状況が不十分であり、周知を徹底する必要があります。

また、福祉サービスの利用率が低く、事業の周知を強化し、利用率を高める必要があります。

(2) 高齢者のみの世帯に対する支援

高齢者の約半数が一人暮らしまたは高齢者のみの世帯であることから、地域の住民組織と連携して見守りなどの支援を検討する必要があります。

(3) 健康の維持・介護予防対策の強化

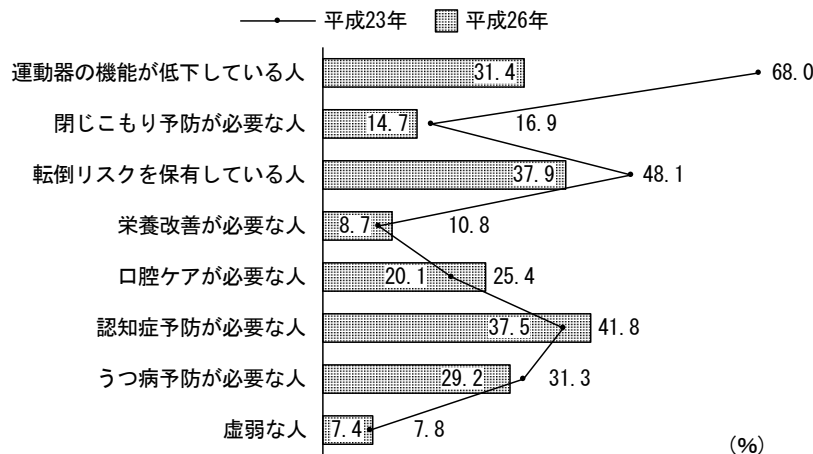
1日の歩行時間が少ないこと、運動していない人が要介護高齢者以外で30%前後になっていることから、運動の必要性の周知と身近な場所へ運動の場を確保する必要があります。

いきいき体操を見ている人は約4割で、このうち体操している人はその約1/4であり、体操することによる身体への好影響を周知する必要があります。

転倒リスク要因を保有している人は約38%で、年齢が増えるにつれて割合が高くなっており、運動機能の維持、改善の指導及び活動の場を確保する必要があります。

また、栄養改善が必要な人（体重減少が顕著な人）が約11%になっているほか、食事を抜くことがある人が一人暮らし高齢者をはじめとして一定割合いることから、食生活に対する指導を強化する必要があります。

図 平成23年と平成26年の比較



(4) 認知症予防対策の強化

認知症になることへの不安を持っている人が約69%で、認知症予防に向けて食事、運動、日記を付けることなどに取り組んでいる人の割合が高くなっていますが、認知症予防が必要な人が約42%と割合が高くなっており、認知症予防に向けての情報提供、相談指導などの対策を強化する必要があります。

(5) 社会参加の促進

運動器の機能が低下している人が約31%、閉じこもり予防が必要な人が約15%になっていますが、高齢者が外出を控えている理由として、「外での楽しみがない」を挙げた人が約21%になっていることから、ふれあいサロン、趣味・スポーツ関係の活動などの情報提供の強化を図る必要があります。

元気な高齢者は「収入のある仕事」をすることを望んでおり、シルバー人材センターとの連携、農産物の出荷支援などにより就業の場の確保を図る必要があります。

(6) 地域での高齢者の日常生活支援の強化

外出を控えている理由として、「交通手段がない」を挙げた人が約25%います。また、自宅で暮らし続けるために利用したいサービスとして「タクシーチケットの配布」約30%、「移動や交通のサービス」約14%になっており、身体状況に応じた交通手段への支援が求められています。

さらに、「自宅近くまで移動販売車が来ること」約18%、「見守り訪問や声かけ」及び「配食サービス」約14%、「食料品や日用品の配達」約12%などとなっており、地域での日常的な見守り、買い物支援の強化が求められています。

(7) 在宅介護を支える介護及び医療サービスの強化

要支援・要介護の高齢者を在宅で介護するうえで、医療サービスにおいては診療科目の充実、訪問診療・往診体制の強化が求められているほか、保健福祉、及び在宅介護サービスを充実する必要があります。

(8) 高齢者居住施設の確保

現在住んでいる住宅に不満がある人のうち、もっと便利な場所に移り住みたいと思っている人の移り住みたいと考えている住宅は、「高齢者向け町営住宅」約45%、「ケア付き住宅」約28%、「自立支援型の施設」約17%になっており、高齢者が安心して暮らせる住宅の確保を検討する必要があります。

(9) 介護施設への入所希望への対応

介護が必要になった時の暮らし方として、「町内の介護サービス付の施設に入所したい」を挙げた人が約17%になっています。自由意見では、施設入所待機状況の改善、施設の整備を求める意見が多くなっており、施設入所希望者への対応を検討する必要があります。

(10) 介護者の支援

介護者の高齢化や別居で介護している人がおり、地域の住民組織と連携して介護者の状況に応じた支援を検討する必要があります。